

平成5年度

順天堂大学大学院体育学研究科修士論文

保健・体育学専攻

大学生の“分煙行動”に係わる諸要因に関する研究

学校保健学専攻

21014

青木 和浩

論文指導教員

大津 一義 助教授

合格年月日

平成 6 年 3 月 2 日

論文審査委員

主査

鈴木克巳

副査

町子三幸子

副査

中島宣行

## 目 次

|                    | 頁   |
|--------------------|-----|
| 第 1 章 緒 言          | 1   |
| 第 2 章 関連文献の考証      | 4   |
| 第 1 節 大学生の喫煙に関する研究 | 4   |
| 第 2 節 成人の禁煙に関する研究  | 8   |
| 第 3 節 分煙について       | 1 0 |
| 第 3 章 本研究の目的       | 1 5 |
| 第 4 章 研究方法         | 1 6 |
| 第 1 節 調査対象         | 1 6 |
| 第 2 節 調査方法         | 1 6 |
| 第 3 節 調査内容         | 1 6 |
| 第 5 章 結 果          | 2 0 |
| 第 1 節 対象者の概要       | 2 0 |
| ( 1 ) 年齢構成         | 2 0 |
| ( 2 ) 所属大学         | 2 0 |
| ( 3 ) 所属学部         | 2 1 |
| ( 4 ) 住居の場所        | 2 1 |
| ( 5 ) 住居形態         | 2 1 |
| ( 6 ) 同居者          | 2 1 |

|       |                  |     |
|-------|------------------|-----|
| ( 7 ) | 1 カ月のこづかい        | 2 2 |
| ( 8 ) | 主観的健康感           | 2 2 |
| 第 2 節 | 喫煙状況             | 2 2 |
| ( 1 ) | 喫煙率              | 2 2 |
| ( 2 ) | 喫煙本数             | 2 3 |
| ( 3 ) | 禁煙経験             | 2 3 |
| ( 4 ) | 将来の禁煙意識          | 2 4 |
| 第 3 節 | 分煙状況             | 2 4 |
| ( 1 ) | 分煙行動             | 2 4 |
| ( 2 ) | 主体的分煙行動          | 2 5 |
| 第 4 節 | 分煙行動と関連要因        | 2 6 |
| ( 1 ) | 分煙行動と喫煙に関する知識    | 2 7 |
| ( 2 ) | 分煙行動と喫煙の意識       | 2 7 |
| ( 3 ) | 分煙行動と日常生活行動      | 3 0 |
| ( 4 ) | 分煙行動と環境面         | 3 4 |
| ( 5 ) | 分煙行動と性格面         | 3 5 |
| 第 5 節 | 主体的分煙行動と関連要因     | 3 5 |
| ( 1 ) | 主体的分煙行動と喫煙に関する知識 | 3 5 |
| ( 2 ) | 主体的分煙行動と喫煙の意識    | 3 6 |
| ( 3 ) | 主体的分煙行動と日常生活行動   | 3 9 |

|       |                   |     |
|-------|-------------------|-----|
| ( 4 ) | 主体的分煙行動と環境面       | 4 2 |
| ( 5 ) | 主体的分煙行動と性格面       | 4 3 |
| 第 6 章 | 考 察               | 4 4 |
| 第 1 節 | 喫煙状況について          | 4 5 |
| 第 2 節 | 分煙状況について          | 4 6 |
| 第 3 節 | 分煙行動と知識との関連       | 4 8 |
| 第 4 節 | 分煙行動と意識との関連       | 4 9 |
| 第 5 節 | 分煙行動と日常生活行動       | 5 9 |
| 第 6 節 | 分煙行動と環境面との関連      | 6 7 |
| 第 7 節 | 分煙行動と性格面との関連      | 6 8 |
| 第 8 節 | 分煙行動と知識・意識・行動     | 7 0 |
| 第 7 章 | 結 論               | 7 4 |
| 第 8 章 | 要 約               | 7 7 |
|       | 謝 辞               | 7 9 |
|       | 文 献               | 8 0 |
|       | 欧文要約              | 8 6 |
|       | 表 1 ～ 2 0         |     |
|       | 図 1 ～ 6           |     |
|       | 付 録 ( 調査表・T E G ) |     |

## 第 1 章 緒 言

わが国の死因構造は、昭和30年代に、その中心が感染症から三大成人病といわれている悪性新生物、心疾患、および脳血管疾患によるものへ大きく変化した。これらの三大成人病は、平成3年では全死因の61.7%を占めており<sup>35)</sup>、今後、高齢化社会と共に一層増加する傾向にあり、健康づくり対策および成人病対策は、ますます重要な課題となっている。

成人病（成人慢性疾患）は、数十年にわたる日常生活習慣が、遺伝素因との複雑な交絡の下にその発症に大きな影響を及ぼしていることが、近年、明らかにされるようになり<sup>47)</sup>、生活習慣病ともいわれるようになった。

Breslow<sup>5)</sup> は、成人を対象として、9年半の追跡調査の結果、①紙巻タバコを吸わない、②規則的な運動、③適量の飲酒、④規則的な7～8時間の睡眠、⑤適正体重の維持、⑥毎日朝食をとる、⑦間食をとらないという7つの日常生活習慣を行えている者とあまり行えていない者の間では死亡率に大きな差があることと、若年者ほど、健康習慣の死亡率への関与が強いことを立証した。

また、イギリスの癌疫学者Dollら<sup>6)</sup>によると、全悪性新生物死亡に対する諸因子の寄与割合として、食物が35%、タバコが30%と見積ったとしている。このことは、悪性新生物の第1次予防として食

事と喫煙対策が重要であることを示唆している。

中でも、喫煙は、1962年に英国王立内科医学会が「喫煙と健康」という報告書を公表して以来<sup>35)</sup>、わが国においても、悪性新生物を中心とする成人病への危険因子として、成人病の第1次予防の面から注目されてきている。

また、喫煙は喫煙者のみに悪影響を与えるのではなく、非喫煙者に対しても、肺がんをはじめ他のがんや、呼吸器系疾患などの相対危険度を増大させることがあきらかにされるようになった<sup>42)</sup>。これに伴って、喫煙は一個人の問題ではなく、集団や社会の問題になってきた。

現在、日本の喫煙者率は、国民全体としては、男性59.8%、女性13.8%、男女平均では36.1%と過去最低を記録し全般では、わずかながら減少傾向にある<sup>52)</sup>。

この背景には環境面からのアプローチとして列車での禁煙車の設置や全国各地の地下鉄やJRの駅における、禁煙タイムの設置<sup>14)</sup>や公共の場所での喫煙制限の浸透など<sup>15)</sup>の喫煙場所の限定によるわずかな禁煙への移行があげられる。しかし、職場については大手企業の約19%しか分煙・禁煙対策が行われておらず<sup>44)</sup>、職場においては、人間関係などの対立からくる困難さもあり、これらの対策に各人が主体的に取り組むことができるような方策が求められている

る。その1つに、喫煙防止教育の強化などがかかわっていると考えられる。この喫煙防止教育は、主として、小、中、高等学校での保健の授業において、喫煙をしてはいけない未成年者を対象に進められてきている<sup>24)</sup>が、その成果についてはまだ十分とはいえない。

喫煙率を年代別にみると男女とも20～30歳代の人では依然として高率であるので<sup>52)</sup>、20歳前後の特に社会人になる前の大学時代は禁煙教育の重要な時期であり、充実強化していく必要がある。大学時代以降では、何らかの禁煙プログラムを実施するにしても学校のような大集団が集まる場所や機会が確保できないこと<sup>79)</sup>や喫煙習慣は、社会人に多く、習慣化されるとニコチンの作用により非常に断ちにくい<sup>56)89)</sup>からである。

## 第 2 章 関連文献の考証

### 第 1 節 大学生の喫煙に関する研究

Horn, D. <sup>18)</sup> は、青少年・成人を対象に喫煙行動に関する多くの調査を分析して、喫煙習慣の過程を（１）喫煙行動の開始→（２）喫煙行動の成立→（３）喫煙行動の持続→（４）禁煙・節煙行動の４段階に分けている。この４段階別に、大学生を対象にした調査研究を概観してみると、次のごとくであった。まず、安榮<sup>2)</sup>は、札幌市内の大学生を対象として、＜喫煙行動の開始・成立＞の段階に着目して調査を行い、「最初に喫煙を経験する年齢は１８才がピークであり、その多くの者は２年以内に習慣化する傾向がみられた。」と述べている。また、「２０才における喫煙率や喫煙量は１８才のそれに比べて著しく増加していた。１８才頃（大学１年生頃）は一種の解放感や好奇心から喫煙する者が多く、たとえ喫煙の有害性についての知識はあっても、それが禁煙意識あるいは行動に結びつくことは困難である。」としている。村松ら<sup>48)</sup>も男子大学新入生を対象に、喫煙習慣は高校２年から大学１年にかけて習慣化しており、この時期での喫煙防止教育や同時に家庭における子供の喫煙に対する両親の態度が重要であるとしている。また、渡辺<sup>90)</sup>も国立大学学生を対象に、「喫煙開始が１８歳以降に集中しているため、大学入学後でも喫煙防止教育は有効であると思われる」としている。そ

して、皆川ら<sup>40)</sup>は国立大学の学生に、生涯の喫煙習慣を支配する学生時代の喫煙意識・行動について調査を行い「喫煙開始時期は大学入学後が最も高率であり、このことは新入生の段階で禁煙教育を行うことに遅すぎることはなく、成人病の予防の面からきわめて重要で、喫煙流行の一つの歯止めになるものと考えられた。」と述べている。これらの調査結果から、大学生は入学後にタバコを覚えるものが多く、大学生に対しても喫煙防止教育が必要である。喫煙者にとっては、ニコチンによる身体依存が強くなる前の時点での禁煙教育を行い禁煙させることは重要であることが明かである。

次に、＜喫煙行動の持続＞の段階に着目した調査研究の成果を概観すると次のごとくである。多々納ら<sup>83)</sup>は福岡市内の私立及び国立の男子大学生を対象にして、喫煙行動を規定し形成（持続）している社会的・心理的変数の関与について、追跡調査を行った結果、「喫煙行動に対して重要な影響力あるいは規定力をもつ変数として、特に情緒的・感情的・表出的な成分を中心とする喫煙に対するイメージ（態度）及び信念や、友人を中心とする重要な他者などが重視されるべきことが明らかにされた」としている。そして「このことは、従来の喫煙防止教育、つまり規範的あるいは認知的側面を中心とした考え方に対して、若干の再考を促すものとなるとともに、健康問題に関する社会科学的アプローチの今後の必要性と可能性を示

唆するものであるといえよう。」と述べている。また、田中ら<sup>82)</sup>は、広島市内の女子短期大学生を対象にして、喫煙に関する意識・態度、主体、生活について総合的な面から喫煙習慣の形成（持続）に關与する要因として、喫煙習慣形成には喫煙をする姿に対する憧れ、飲酒、スポーツ、嫌煙権、女性に対する喫煙態度などを見い出している。また、「ストレスのはけ口としての気分転換の方法が喫煙習慣と密接に関連しており、精神的健康の維持、増進のために適切な気分転換の方法が必要であり、酒やタバコにストレスのはけ口を求めなくてもすむ生活をしていくことが大切である。そのためには目的意識をもった生活ができるよう、家庭においても学校においても充実が望まれる。」と述べている。

これらの調査結果から、喫煙習慣の持続には態度（信念）が関わっていることが明かである。

次いで、＜禁煙・節煙行動＞の段階に関しては大学生を対象とした調査研究ではほとんど行われておらず、江口ら<sup>7)</sup>の女子短大生を対象としたもののみで、喫煙経験者の中で、喫煙が習慣化している者と喫煙を中止した者の知識の違いは、胎児への影響と受動喫煙の知識との関連であったとしている。

このように、大学生を対象とした調査研究は喫煙が成立する点について着目されている研究が多く、禁煙者については対象者の数も

少ないこともあげられるが注目されていないといえる。

次に、喫煙行動の開始から禁煙・節煙行動の全段階について着目した調査研究として、芹沢ら<sup>69)</sup>の静岡県内の女子大生を対象としたものがある。これによると、喫煙の開始から禁煙対策に至るまでを考察した結果、女子大学生の場合は習慣がつく前の段階での喫煙の有害性を十分に理解させることと、タバコ病の発生要因はタバコの吸い方や環境や日常生活が総合的に影響していることなどを合わせて理解させることが絶対必要であるとしている。また、野原ら<sup>54)</sup>も健康科学を学ぼうとする大学1年生を対象とした調査で、分煙から禁煙へという過程に着目し、そこには喫煙タイプが関係しており、大学入学後の分煙・禁煙教育を健康・思いやり・火災予防などの視点から繰り返すことによって、意識・態度の変容を促すことへの望みが実証されたと見ることもできると述べている。

以上のことから大学生を対象とした喫煙習慣形成に関する調査研究は喫煙行動の開始・成立・持続といった段階については多くなされているが、禁煙・節煙の段階については皆無に等しい。喫煙習慣への移行が強まる時期にある大学生に対し、非喫煙者を主たる対象とした喫煙防止教育や禁煙者ないし、喫煙習慣者に対する禁煙教育を、特に節煙や分煙、禁煙の過程に着目して行うことは大きな意味があることと考えられる。

## 第 2 節 成人の禁煙に関する研究

禁煙ないしは、喫煙対策の健康教育的アプローチの 1 つとして、喫煙行動の変容過程に視点をあてると、この点に関して川畑<sup>33)</sup>は「①習慣喫煙者の喫煙を中止させ喫煙者に戻らせない②喫煙経験者が習慣喫煙者になるのを防ぐ③非喫煙者が喫煙者になるのを防ぐ、の 3 つに大別される」そして”成人に対しては特に喫煙者に自発的節煙または禁煙のための働きかけをすることが重要である”としている。

又、小川ら<sup>57)</sup>は禁煙過程には「①禁煙への関心②禁煙実行③禁煙維持④禁煙成熟」の 4 段階に区分されている。

そこで、大学生にはみられなかったが、成人を対象とした禁煙に関する研究についてみると小川ら<sup>58)</sup>が禁煙講習会の受講者を対象に、事前調査ならびに追跡調査を行い、指導成績ならびに禁煙正否の関連要因を検討し、その結果「本人の禁煙に対する周囲の人々の態度が強く関連し、中性的（無関心）の場合に成功率が高いこと、自己評価の高い者が成功しやすい傾向にあることがわかった。」としている。また小川ら<sup>60)</sup>は禁煙群と喫煙群の関連要因を調査し、その結果「禁煙者は健康意識が高く、神経質、内向的性格傾向にあり、社会的地位が高い。また、禁煙年数にともなってコーヒー習慣

は低下するが、飲食習慣は強まり、甘いもの、果物を好む傾向にある。」としている。そして、川上ら<sup>27)</sup>も成人男子を対象として、禁煙行動に関わる要因について調査した結果「喫煙者の禁煙は多く短期的で中断しており、喫煙年数が長いほどこの傾向が大きい。禁煙時の離脱症状程度は喫煙年数、喫煙本数と関連がある。」としている。七田ら<sup>71)</sup>は老人を対象とした禁煙行動の調査では、病気をしたことを理由に禁煙をする者が多かったとし、米国健康教育部会で<sup>88)</sup>は禁煙の成否は禁煙動機の強さ、禁断（離脱）症状の程度、性格、飲酒習慣、周囲の喫煙者などに左右されるとしている。そして、伊野津ら<sup>20)</sup>も成人を対象として、喫煙指導を行った場合の喫煙行動の変容に及ぼす禁煙指導前の各対象者の背景要因を明らかにし、その結果「職場における健康教育の一環として禁煙指導を行うさいには個人の生活行動特性を無視した喫煙の害の強調や喫煙に関する認識の教育を行っても高い禁煙成功率は望めなく、まず第一に健康意識の高揚、運動の励行を目指した健康指導が重要である。」としている。

これらの調査はいずれも禁煙を成否という点に着目しており、これらは禁煙の過程の中でも禁煙の維持や成熟という視点であると考えられるが、明確ではないといえる。

しかし、Rosenら<sup>64)</sup>は主として心理的な要因について喫煙中断

行動の段階別の分析を行い、その開始には自尊心が、維持の段階では喫煙中断への欲求と健康意識とが関与するというように、各段階で異なった要因の関連がみられることを指摘している。また、川上ら<sup>28)</sup>は成人男子を対象として喫煙中断行動の動機づけ・開始・継続・維持に関与する各要因について検討を行い、禁煙時間や禁煙区域の設定といった職場における喫煙制限に対して、長期喫煙中断群・禁煙群になるほど賛成意見が多く、喫煙中断行動の動機づけと開始に関わる要因として、喫煙制限に賛成することや運動習慣があげられる。そして、禁煙中断に対する各要因の関与は中断期間によって区分された各群の間で異なる傾向を示すので、今後の禁煙教育の場においては各人の喫煙中断行動の段階にあわせた指導の方法が必要であるとしている。この様に禁煙の関心（動機づけ）や開始という点について着目すると自尊心や喫煙制限意識などのように意識面が大きく関わっており、これらの意識を高めることにより禁煙への関心が始まり禁煙成熟の方向へ向かっていくことが考えられる。

### 第3節 分煙について

前節で喫煙制限意識が禁煙への関心や開始に関わることについて述べたが、近年では喫煙対策の中で、直接的な喫煙対策の喫煙場所の制限（公共機関，職場，学校）を分煙としており<sup>78)</sup>、わが国の

喫煙対策は禁煙、防煙（青少年の喫煙防止）、分煙を3本柱として進められつつある<sup>61)</sup>。

そこで、分煙についてみると、古くは福田ら<sup>10)</sup>が日本では比較的新しい喫煙抑制の対策である、病院の待合室などでの喫煙抑制、列車、航空機などの公共の乗物内での喫煙抑制を喫煙コントロールと呼んでいる。そして、分煙という言葉で用いられたのは、埋忠<sup>38)</sup>が、分煙というのは、タバコを吸う人と吸わない人をはっきり分けてしまうことであり、たとえば公共の施設であるとか、乗り物であるとか、職場であるというようなところで、はっきりと分けてることである。このことによって、少なくとも非喫煙者に対して非喫煙者の権利と健康を守っていくということが可能なのではないかと考えられるとしている。そして、平山<sup>16)</sup>は分煙について「他人の吸う煙を吸わないという喫煙者の権利を具体化するために、職場、輸送機関、レストラン、病院、公共の機関などで、喫煙者と非喫煙者を互いに隔離する方策を分煙」としている。斉藤<sup>67)</sup>は職場の分煙について「喫煙場所を決め、それ以外の場所を禁煙とすること」としている。また、浅野<sup>3)</sup>は分煙について米国における、別個の換気システムを採用して喫煙者と非喫煙者を物理的に分離する(Segregation)ことを分煙としてとらえている。島尾<sup>72)</sup>は、喫煙対策の中には防煙、止煙、分煙、禁煙などがあり、分煙については

「社会の中に当分はかなりの喫煙者がいることを前提に、非喫煙者を受動喫煙から守るために喫煙者と非喫煙者を分離し、分離が困難な公共の場所や輸送機関内では喫煙を禁止することも重要な対策となってくる。」としている。これらのことから分煙の概念について考えると、喫煙者を対象に場所に視点を置き喫煙者と非喫煙者を分離（隔離）することであるといえる。

このように分煙は喫煙者に視点を置いて非喫煙者を対象として伊佐山<sup>22)</sup>は「嫌煙権とは非喫煙者の意志に反して他人のタバコの煙を受動的あるいは間接的に吸わされる結果、かなりの健康障害を受ける点に着目し、これをタバコ公害と位置づけて、非喫煙者の健康と命を守るために、公共の場所や共有の生活空間での喫煙規制を訴える権利主張である。」と嫌煙権という言葉を用いており、田中ら<sup>82)</sup>は嫌煙権について「嫌煙権に対する反対は間接喫煙（受動喫煙）の有害性に対する意識の低さであると同時に、他人のことや社会全体のことを考えることのできない、社会的健康度の低さの反映と考えられる。したがって、今後の健康教育の中で、受動喫煙の有害性を含めた喫煙の有害性と喫煙の習慣性を中心とした禁煙教育が望まれる。」としている。これらの喫煙抑制や喫煙制限は、Hi rayama<sup>17)</sup>による受動喫煙の影響が明かなったために、行われたものであり非喫煙者を対象としたものであると考えられる。

しかし、喫煙制限に対して、平山<sup>15)</sup>は「米国やオーストラリアでは一般の人々の喫煙率も公共の場所での喫煙制限が徹底するに従い著しく低下してきた。」とし、三宅ら<sup>43)</sup>も喫煙制限について「公共の場所の喫煙抑制は非喫煙者や喫煙者の生理的・心理的影響が配慮されてのことであろうが、そのために喫煙量が減少するならば、喫煙者のためにもなろう。職場でも非喫煙者に影響を与えないような配慮が望まれる。」としており、喫煙制限は非喫煙者のためだけではなく、喫煙者に対しても大きな意味をもっていることが考えられる。

また、小川<sup>61)</sup>は、公共輸送機関や公共場所の分煙措置は比較的進んでいるが、職場では人間関係上の問題もあってか進展していないとしており、木村<sup>31)</sup>は、欧米諸国ではかなり厳しい法律によって喫煙を規制しているところもあるが、法律によって規制するのが最良の策であろうかと分煙についての問題点を示している。また、田中<sup>81)</sup>は、嫌煙を主張する人々の多くは健康を意識する前に、けむい、衣服に臭いがつくなどといった情緒的な拒否反応を持つ人々が多く、喫煙者との対立を招いている問題もある。これらのことから、分煙を場所のみに視点を置いたものではなく、この問題の解決策として分煙というものを喫煙者自身の行動、すなわち“分煙行動”という面からとらえていくことも必要であると考えられる。この

ことについて、佐藤<sup>66)</sup>は「一般に人の集まる閉鎖されたところではなく、人の少ない開放的なところで吸うとか、特定の決められた場所で喫煙すること」を分煙としてとらえている。また、田中<sup>81)</sup>は、受動喫煙の問題を考える限り、他人に迷惑をかけるような喫煙はすべきではないとし、吸うときの場所、他者との関係を考えて、エチケットを守って吸うことが大切であり、タバコも含めて保健行動は、他人が、強制するものではなく、自立的なもので、健康教育は、これをわきまえて実行するべきであるとしている。

したがって、本研究では、分煙を行動という側面からとらえたものを“分煙行動”として、喫煙者と非喫煙者を分けるということではなく、喫煙を他人への配慮をもって吸い分けられる行動として考えられる。そして、喫煙者は、主体的に他人に迷惑をかけないような喫煙をすることが肝要であるといえる。

### 第 3 章 本研究の目的

成人病の予防や生涯にわたる健康づくりを身につけるための 1 つとして喫煙を取り上げ、喫煙年数が比較的短く、ニコチンによる身体依存が弱い大学生に対し、近年、公共の場所などを中心として喫煙空間などを制限する分煙対策を行動的側面からみて、禁煙教育の 1 つの手段として“分煙行動”をとりあげた。そこで、大学生の分煙行動に関わる要因を知識・意識・行動・環境・性格面から検討し、主体的に分煙行動を引き出す上で有効な要因を明らかにし、“分煙行動”と喫煙をする時の他者への配慮や喫煙規制に対する意識や社会性のある行動や禁煙の要因との関連について検討し、禁煙教育の資料を得ることを目的とする。

## 第 4 章 方 法

### 第 1 節 調 査 対 象

対象は関東圏内の A 大学、 B 大学、 C 大学、 D 大学、 E 大学、 F 大学の 6 大学の男子大学生 2,200 名、 女子学生 1,086 名の計 3,286 名を対象とした。

各大学の概要については A 大学は千葉県内の私立大学でスポーツ健康科学部、 体育学部、 医学進学課程がある大学である。 B 大学は東京都内の私立大学で体育学部のみある大学である。 C 大学は東京都内にある私立総合大学で文学部、 農学部、 工学部があるキャンパスである。 D 大学は東京都内にある私立総合大学で文学部、 法学部、 医学進学課程があるキャンパスである。 E 大学は群馬県内にある国立大学で教育学部、 工学部、 医学進学課程がある大学である。 F 大学は群馬県内にある私立大学で経営学部、 商学部のある大学である。

### 第 2 節 調 査 方 法

1993 年 6 月 21 日～7 月 15 日にかけて、 自作の調査表と東大式エゴグラム (TEG) を用いて保健理論の授業時に無記名によるアンケート調査を実施し、 その場で回収をした。

### 第 3 節 調 査 内 容

調査表及び T E G は付録に示したものである。

< 主な調査内容 >

属性、喫煙状況、分煙状況（駅、大学、喫煙制限されていない場所での分煙行動）

主体要因として

- ① 知識面：喫煙についての知識テスト（10項目）
- ② 意識面：将来の禁煙意識及び理由、喫煙所での喫煙理由、喫煙に対する意識（14項目）、喫煙制限に対する意識（7項目）
- ③ 行動面：喫煙制限されていない場所での喫煙行動（6項目）、喫煙タイプ、日常生活行動（11項目）
- ④ 性格面：東大式エゴグラム（T E G）

環境要因として

- ① 住居
- ② 友人関係

なお、調査表の作成にあたっては千葉県内1校、東京都内1校の2大学の男子大学生50名を対象として、検討を行い本調査を行った。

※主体要因の中の喫煙タイプ、東大式エゴグラムについての説明を以下に示す。

喫煙タイプ：Russell<sup>65)</sup> は喫煙習慣の依存形成モデルを提唱し喫煙習慣は心理社会的喫煙→感覚運動的喫煙→快楽的喫煙→鎮静的喫煙→刺激的喫煙→耽溺的喫煙→自動的喫煙の順に喫煙習慣が精神依存から身体依存へ進展していくとしている。

エゴグラム：交流分析では<sup>74)</sup> 人はみな、3つの自我状態があるとしている。それらは「親の自分 (Parent P)」 「大人の自分 (Adult A)」 「子どもの自分 (Child C)」で、この3つを自我状態と呼ぶ。Pは幼い時に親から教えられた態度や行動の部分である。Aは事実に基づいて物事を判断しようとする、いわば理性といた部分である。Cは子どものころの状態のように、本能や感情そのままの部分である。P, A, Cは全体としてまとまってバランスを保っているのが望ましいのであるが、人によっては、そのいずれかが強く反応する。

そこで、自分のP, A, Cの姿を、よりはっきりと知るために、これを数量化して、自己分析図を描いたものがエゴグラムである。この際には、Pを父親のように批判的な Critical Parent CPと、母親のように養育的な Nurturing Parent NPに分ける。また、Cをもって生まれたままの自由な Free Child FCと、「イイ子ちゃん」になろうとする順応した Adapted Child ACに分け、Aは分けないので合計5つの自我状態への心理的なエネルギーのわりふりを

視覚的につかもうとするのである。

## 第 5 章 結 果

### 第 1 節 対象者の概要

分析に当たり、無回答の項目の多い者は分析対象から除いた結果、男子 2,055 人（有効回答率 93.4%）であった。さらに、女子については喫煙者が 10.0% と少なかったため、分析対象からはずし、以下男子について検討する。

#### （ 1 ） 年 齢 構 成

年齢構成については表 1 に示したとおりである。最も多かったのは 20 歳で 32.0%、次いで 19 歳 26.4%、21 歳 19.5% で全体の 77.9% を占めていた。19 歳から 21 歳は大学生でも 2 年及び 3 年が中心であることがいえる。また、成人と未成年の割合は成人が 59.8%、未成年が 40.2% と成人が 6 割が占めていた。

#### （ 2 ） 所 属 大 学

対象者の所属大学については表 2 に示したとおりである。最も多かったのは私立体育系大学の B 大学で 30.5%、次いで私立総合大学の C 大学が 26.3%、私立総合大学の D 大学が 19.3%、でこの 3 大学で全体の 76.1% をしめた。

### (3) 所属学部

対象者の所属学部については表3に示したとおりである。この中では体育学部が41.8%と最も多くしめており、次いで工学部18.3%、経済学部11.4%、文学部10.9%で全体の82.2%をしめた。また、文科系、理科系、体育系別にみると体育系が41.8%と最も多く、次いで文科系（経済・文学・法学・経営・教育）が34.3% 理科系（工学・農学・医学）が23.9%という結果となった。

### (4) 住居の場所

対象者の住居の場所については表4に示したとおりである。調査対象者の地区が関東圏内であり、76.6%の者が住宅地帯に住んでいた。また、団地地帯も9.1%であり、対象者は比較的都市の中に住んでいた。

### (5) 住居形態

住居形態については表5に示したとおりである。自宅が43.1%、アパートが39.3%、下宿（間借りをしている者）は6.8%、その他は1.5%であった。

### (6) 同居者

同居者については表 6 に示したとおりである。同居者については 1 人で暮らしている者が 45.1%、家族と暮らしている者が 45.5% で全体の 90.6% を占めていた。

#### (7) 1 カ月のこづかい

自由に使える 1 カ月のこづかいは、平均で 34,721 円であった。また、最小額は 0 円、最高額は 200,000 円であった。

#### (8) 主観的健康感

主観的健康感については表 7 に示したとおりである。最も多かったのは「まあ健康」で 60.2%、次いで「非常に健康」 27.3% と主観的に健康であると思っている者は全体の 87.5% であり、対象者は主観的健康感が高いことがうかがえた。

### 第 2 節 喫煙状況

#### (1) 喫煙率

「あなたは現在タバコを吸っていますか」と質問した結果、喫煙率は表 8 のとおりである。最も多かったのは「吸ったことがない」という非喫煙者が 45.0%、次いで「ほぼ毎日吸う」という常習喫煙者が 44.2% であった。また、「時々（月 1 回以上）吸う」という非常

習喫煙者は4.3%であった。

## (2) 喫煙本数

1日の喫煙本数を聞いた結果は表9に示したとおりである。最も多かったのは1日に16～20本吸う者が35.1%、次いで11～15本19.4%と喫煙本数が11～20本の者が全体の54.5%を占めた。また、10本以下は32.2%、21本以上は13.3%であった。

## (3) 禁煙経験

禁煙経験、禁煙回数及び禁煙理由については表10に示したとおりである。禁煙経験のある者は61.7%と喫煙者の半分以上の者であった。そして、禁煙者に対して禁煙回数を聞いたところ、最も多かったのは2～5回で56.8%、次いで1回が29.3%と全体の86.1%を占め、大体の者が禁煙回数は5回以下であった。

また、禁煙理由については複数回答であったが、最も多くあげられた理由は「健康に悪い」で54.7%、次いで「経済的理由」27.0%、「意志力を試す」24.2%、「家族・知人の注意」16.0%の項目が高率であった。「その他」については12.1%であったがこの内容については「何となく」、「自分の運動競技に影響するから」などであった。

#### (4) 将来の禁煙意識

将来の禁煙意識及びその理由については表11に示したとおりである。

将来の禁煙意識に対し最も高率であったのは「できればしたい」50.4%、「絶対したい」22.7%と全体の73.1%の者が禁煙意欲があることがうかがわれた。また、「絶対しない」という者も12.9%みられた。

将来の禁煙理由について、最も多くあげられていたのは「健康に悪い」で66.6%、次いで「経済的理由」20.9%、「周囲の人の迷惑」16.5%が高率であった。「その他」は2.6%であった。その他の理由は「将来の子供のために」、「何となく」であった。

### 第3節 分煙状況

#### (1) 分煙行動 表12

a) 駅における分煙状況：「あなたの利用している駅に禁煙場所や禁煙タイムがありますか」という質問に対し、あると答えた者884名を対象として、駅での分煙状況を検討した。この制限された駅での喫煙行動において、禁煙場所では「吸わない」という者は、568人(64.2%)であり、この者を「駅での分煙群」(以下、駅分

煙群とする)とした、「吸う時もある」という者は、249人(28.2%)であり、この者を駅での分煙時々群(以下、駅時々分煙群とする)、「吸う」という者は、67人(7.6%)であり、この者を駅での非分煙群(以下、駅非分煙群とする)とした。

b) 大学における分煙状況:「あなたの大学には決められた喫煙場所がありますか」という質問に対し、あると答えた者882名を対象として、大学での分煙状況を検討した。この制限された大学という場所での喫煙行動において、「喫煙場所では吸わない」という者は、136人(15.4%)であり、この者を大学での分煙群(以下、大学分煙群とする)とした、「多くの場合は喫煙所で吸うが、そこ以外でも吸う時がある」という者は、578人(65.5%)であり、この者を大学での分煙時々群(以下、大学時々分煙群とする)、「喫煙場所では吸うよりも他の場所で吸うことが多い」という者は、168人(19.1%)であり、この者を大学での非分煙群(以下、大学非分煙群とする)とした。

## (2) 主体的分煙行動 表13

a) 駅分煙群における主体的分煙状況:分煙行動はできているが主体的に行っているか否かをみるために、まず、駅で分煙行動が

できている者（駅分煙群568名）を対象として、喫煙制限がされていない所での喫煙行動の中で「人の迷惑にならない所まで行って吸う」と回答した者を主体的に分煙行動を行っている者とした。この質問に対し、「よくある」という者は18.8%（以下、駅主体的分煙群とする）「時々ある」という者は49.6%（以下、駅主体的時々分煙群とする）「ない」という者は31.5%（以下、駅非主体的分煙群とする）であった。

b) 大学分煙群における主体的分煙状況：次に、大学で分煙行動ができている者（大学分煙群136名）を対象として、駅での主体的分煙行動と同様の方法で分類した。その結果、大学分煙群における主体的分煙群は、26.5%（以下、大学主体的分煙群とする）、大学分煙群における主体的分煙時々群は、47.8%（以下、大学主体的時々分煙群とする）、大学分煙群における非主体的分煙群は、25.7%（以下、大学非主体的分煙群とする）であった。

#### 第4節 分煙行動と関連要因

駅や大学などで喫煙制限されている場所での分煙行動を知識・意識（禁煙理由、喫煙所での喫煙理由、喫煙に対しての意識、喫煙制限に対しての意識）・行動（喫煙行動、日常生活）・環境及び性格

との関連について検討した。

#### (1) 分煙行動と喫煙に関する知識

分煙行動と喫煙に関する知識（喫煙の身体に与える影響やタバコの成分や喫煙に関する法律等の10項目）との比較を行った結果、表14に示したとおりである。正解率を見てみると「副流煙の害について」は、各群とも約8割の者が正解しており、反対に、「血圧や皮膚温の変化」については、各群とも約1割の者しか正解していなかった。そして、有意差があった項目は、大学での分煙行動の中の「ニコチンの害」についての1項目のみであった。

#### (2) 分煙行動と喫煙の意識

a) 分煙行動と禁煙理由：分煙行動と禁煙理由については表15-1のとおりであった。有意差のあった項目についてみると、駅での分煙行動においては、禁煙理由として、「経済的理由」、「医師の注意」であった。また、大学での分煙行動においては、「医師の注意」、「意志力を試す」の2項目に関連がみられた。この中でも、特に「意志力を試す」では、各群での比率の検定を行った結果、大学分煙群は9.9%と大学時々分煙群28.8%や大学非分煙群26.0%と比べ回答する者が低率であった( $P<0.01$ )。

次に、分煙行動と将来の禁煙意識及びその理由については表15

－ 2 のとおりであった。将来の禁煙意識は、駅・大学両方の分煙行動と関連がみられた。そして、各群での比率の検定を行った結果、駅分煙群は、非分煙群に比較し、「無理だろう」という者が、駅非分煙群が25.4%であるのに対し駅分煙群が12.2%と少なかった( $P < 0.05$ )。また、大学分煙群では大学非分煙群に比較し「絶対したい」と回答する者が29.6%と高率であった( $P < 0.05$ )。将来の禁煙理由について、駅での分煙行動では「健康に悪い」を理由にあげる者が多く、各群とも6割以上であった。また、大学での分煙行動でも「健康に悪い」を理由にあげる者が各群とも6割以上であった。そして、有意差がみられた項目は、「タバコがまずくなった」、「周囲の人の迷惑を考えて」の2項目であった。この中でも、「周囲の人の迷惑を考えて」は、比率の検定を行ったところ大学分煙群が25.9%と回答する割合が高率であった( $P < 0.01$ )。

b) 分煙行動と喫煙所での喫煙行動理由：分煙行動と喫煙所での喫煙行動の理由については表15-3のとおりであった。まず、駅での分煙行動で有意差の見られた項目は、「他人の迷惑を考える」、「他人の健康を考える」、「禁煙場所だから」、「他人に嫌な顔をされるから」、「禁煙所でも吸っている人がいるから」、「喫煙場所か否か、気にしない」、「喫煙は個人の自由だから」、「タ

バコ の 吸 い が ら が 落 ち て い る か ら」、 「 家 族 ・ 知 人 の 注 意 」 の 9 項 目 で あ っ た 。 こ れ ら の 項 目 に つ い て 比 率 の 検 定 を 行 っ た 結 果 、 特 に 、 「 他 人 の 迷 惑 を 考 え る 」 、 「 禁 煙 場 所 だ か ら 」 の 項 目 に お い て は 、 8 割 以 上 の 者 が 理 由 と し て あ げ て い た ( $P < 0.01$ )。 ま た 、 「 喫 煙 は 個 人 の 自 由 だ か ら 」 で は 、 駅 非 分 煙 群 の 6 割 の 者 が 理 由 と し て あ げ る 者 が 多 か っ た ( $P, 0.01$ )。 次 に 、 大 学 で の 分 煙 行 動 で は 「 他 人 の 迷 惑 を 考 え て 」 、 「 他 人 の 健 康 を 考 え て 」 の 2 項 目 と の 関 連 が み ら れ 、 こ れ ら も 大 学 分 煙 群 の 8 割 以 上 の 者 が 理 由 に あ げ る 者 が 多 か っ た 。

c) 分 煙 行 動 と 喫 煙 に 対 し て の 意 識 : 分 煙 行 動 と 喫 煙 に 対 し て の 意 識 に つ い て は 表 1 5 - 4 , 5 の と お り で あ っ た 。 ま ず 、 駅 で の 分 煙 行 動 で は 「 喫 煙 は 個 人 の 自 由 で あ る 」 、 「 人 の 集 ま る 場 所 は 喫 煙 制 限 す べ き だ 」 、 「 子 供 や 妊 婦 の 前 で は 吸 う べ き で は な い 」 、 「 タ バ コ は フ ァ ッ シ ョ ン や ア ク セ サ リ ー に も な る 」 の 4 項 目 と 関 連 が み ら れ た 。 こ の 中 で も 、 「 子 供 や 妊 婦 の 前 で は 吸 う べ き で は な い 」 で は 、 駅 分 煙 群 の 82.4% が 「 と て も 思 う 」 と し て い る 。 ま た 、 「 タ バ コ は フ ァ ッ シ ョ ン や ア ク セ サ リ ー に も な る 」 に お い て は 駅 分 煙 群 が 9.0%、 駅 時 々 分 煙 群 が 12.0% 駅 非 分 煙 群 が 23.9% と 多 く な っ て い る 。 次 に 、 大 学 で の 分 煙 行 動 で は 「 喫 煙 は 個 人 の 自 由 で あ る 」 、 「 人 の 集 ま る 場 所 は 喫 煙 制 限 す べ き だ 」 、 「 未 成 年 者 は 喫 煙 す べ き で な い 」 、

「成人男子は喫煙してもよい」、「自動販売機での販売をやめるべきだ」の5項目と関連がみられた。この中でも、「人の集まる場所は喫煙制限すべきだ」においては「とても思う」と回答する者が大学分煙群は他の群と比べ39.7%と高率であった( $P<0.01$ )。また、「喫煙は個人の自由である」では、大学非分煙群が28.6%( $P<0.01$ )、「成人男子は喫煙してもよい」は、大学非分煙群が51.8%と高率であった( $P<0.01$ )。

d) 分煙行動と喫煙制限場所に対する意識：分煙行動と喫煙制限場所に対する意識については表15-6のとおりであった。まず、駅での分煙行動では、各群とも「病院」、「JRや私鉄の駅」において約4割の者が禁煙所を増やすべきだと考えていた。そして、有意差がみられた項目は「JRや私鉄の駅」、「通っている学校の教室」、「食堂・レストラン」の3項目であった。次に、大学での分煙行動でも、「病院」、「JRや私鉄の駅」での喫煙規制意識が高く、「病院」、「通っている学校の教室」の2項目に関連がみられた。

### (3) 分煙行動と日常生活行動

a) 分煙行動と1日の喫煙本数：分煙行動と1日の喫煙本数に

については表 1 6 - 1 のとおり駅・大学両分煙行動と関連がみられた。駅での分煙行動では、駅分煙群は、他の群と比べ、1 日の喫煙本数が 1 ～ 5 本の者が 17.4% 有意に多く ( $P < 0.01$ )、逆に喫煙本数が 21 本以上の者は、駅非分煙群の 28.4% に対し 11.9% と少なかった ( $P < 0.01$ )。次に、大学での分煙行動では、大学分煙群は、他の群と比べ、1 日の喫煙本数が 1 ～ 5 本の者が 26.9% と有意に多く ( $P < 0.01$ )、逆に喫煙本数が 21 本以上の者は、大学非分煙群の 19.6% に対し、5.2% と少なかった ( $P < 0.01$ )。

b) 分煙行動と喫煙タイプ：分煙行動と喫煙タイプとについては表 1 6 - 2 のとおりであった。駅・大学両分煙行動の各群とも、鎮静的喫煙タイプ、快楽的喫煙タイプに 6 割以上の者が肯定していた。そして、有意差がみられた項目は、駅での分煙行動では、耽溺的喫煙タイプ「しばらく吸わないでいるとタバコに飢えて苦しい」と自動的喫煙タイプ「まだ灰皿に火のついたタバコがあるのに気付かず次のタバコに火をつけている」、「無意識のうちに火をつけてしまい、気がついたらタバコを吸っている」の 3 項目であり、特に、耽溺的喫煙タイプは、非分煙群の 59.7% の者が肯定していた。大学での分煙行動では、快楽的喫煙タイプ「椅子に深く座ってタバコを楽しむ時しか普段吸わない」と心理社会的喫煙タイプ「他の人と

一緒にいる時に吸うことが多い」の2項目であった。

c) 分煙行動と喫煙制限されていない場所での喫煙行動：分煙行動と喫煙制限が何もされていない場所での喫煙行動については表16-3のとおり駅での分煙行動では4項目、大学では6項目との間に関連がみられた。これらの項目について比率の検定を行った結果、駅での分煙行動では、駅分煙群は、駅非分煙群に比べ、「喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う」の項目において、「よくある」という者が47.4%有意に多く( $P<0.01$ )、反対に、「近くに人がいても吸う」( $P<0.01$ )「歩きながら吸う」( $P<0.01$ )「吸いながらを投げ捨てる」( $P<0.01$ )の項目においては、駅非分煙群の6割以上の者が「よくある」と回答していた。そして、大学での分煙行動では、大学分煙群は、大学非分煙群に比べ、「タバコの灰や吸いながらは灰皿に入れる」( $P<0.01$ )、「人の迷惑にならない所まで行って吸う」( $P<0.01$ )、「喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う」( $P<0.01$ )の3項目において、「よくある」という者が多く、反対に、「近くに人がいても吸う」( $P<0.01$ )「歩きながら吸う」( $P<0.01$ )「吸いながらを投げ捨てる」( $P<0.01$ )の項目においては、5割以上の大学非分煙群が「よくある」と回答していた。

d) 分煙行動と日常生活：分煙行動と喫煙行動を除いた他の日常生活については表 1 6 - 4 のとおりであった。まず、駅での分煙行動では、「運動習慣」、「自動車に乗るときのシートベルト」、「アルバイト」の 3 項目と関連がみられた。これらの項目について比率の検定を行った結果、駅分煙群は、他の群と比べ、「自動車に乗るときのシートベルト」の項目において、「必ずする」という者が 35.7% と有意に多かった ( $P<0.01$ )。次に、大学での分煙行動では、「就寝時間」、「飲酒習慣」、「朝食」、「自動車に乗るときのシートベルト」、「授業中のノート」、「乗り物の中で老人や障害者に席を譲る」、「アルバイト」の 7 項目と関連がみられた。この中でも、特に大学分煙群は、「朝食」では、毎日摂取する者が 47.8% ( $P<0.01$ )、「自動車に乗るときのシートベルト」でも、必ずする者が 39.0% ( $P<0.01$ )、「授業中のノート」では、だいたいの授業はとっている者が 50.7% と大学非分煙群に比べて有意に多く、「就寝時間」では、1 時以降に寝る者が大学分煙群の 43.4% に対し、大学非分煙群は 62.5% と差が認められた ( $P<0.01$ )。

分煙行動と「生活の満足感・主観的健康感」については表 1 6 - 5 のとおりであった。各群とも生活に満足している者は 1 割と低率であった。生きがい感についてもかなりあるという者が 1 割、健康感でも非常に健康という者は 2 割と低率であった。駅での分煙行動

では、「生活の満足感」、大学での分煙行動では、「主観的健康感」と関連がみられた。

分煙行動と「あなたは何歳ぐらいまで生きたいですか」という寿命願望について聞いた結果、駅での分煙行動では、駅分煙群が平均で72.9歳、駅時々分煙群71.2歳、駅非分煙群72.5歳であり、各間での差は認められなかった。また、大学での分煙行動では、大学分煙群が平均で74.3歳、大学時々分煙群71.5歳、大学非分煙群73.6歳となり、各群間での差は認められなかった。

#### (4) 分煙行動と環境面

分煙行動と住居環境や親しい友人と恋人の有無やその人の喫煙習慣の有無との比較を行ったが、駅での分煙行動、大学での分煙行動ともに有意な関係は認められなかった。

分煙行動と1カ月のこづかいについて聞いた結果、駅での分煙行動では、駅分煙群が平均で37,675円、中間群37,578円、非分煙群48,891円であり、駅分煙群と駅時々分煙群( $P<0.05$ )、駅分煙群と駅非分煙群( $P<0.05$ )との間に差が認められ、駅分煙群の方が駅時々分煙群・駅非分煙群と比べ1カ月のこづかいが少ないことがうかがわれた。また、大学分煙群では平均で35,295円、時々群41,133円、非分煙群40,802円であり、分煙群と時々群との間に差が認められ( $P<0.05$ )、

大学分煙群の方が1カ月のこづかいが少ないことが伺われた。

#### (5) 分煙行動と性格面

分煙行動と東大式エゴグラム (TEG) について、駅での分煙行動では、TEGを用いて、CP、NP、A、FC、ACの5つの自我状態の平均値を示すと、図1のとおり、駅分煙群、駅時々分煙群、駅非分煙群ともM型を示しており、3群間に差はみられなかった。同様に、大学での分煙行動別エゴグラムを図2に示した。3群ともM型を示していたが、ACの自我状態において、大学時々分煙群(10.0)が、大学非分煙群(10.7)より有意に高かった( $P<0.05$ )。

### 第5節 主体的分煙行動と関連要因

主体的分煙行動を駅と大学での主体的分煙行動別に分けて、駅では、駅主体的分煙群、駅時々主体的分煙群、駅非主体的分煙群とした。大学についても同様に、大学主体的分煙群、大学時々主体的分煙群、大学非主体的分煙群の3群に分け、知識・意識・行動・環境・性格との関連について検討をした。

#### (1) 主体的分煙行動と喫煙に関する知識

主体的分煙行動と喫煙に関する知識については表17のとおりであった。正解率を見ると「副流煙の害について」は、各群とも8割

の者が正解しており、「血圧や皮膚温の変化」では、1割の者しか正解していなかった。有意差がみられた項目は、駅分煙群における主体的分煙行動では、「心筋梗塞との関係」、「受動喫煙について」の2項目であった。

## (2) 主体的分煙行動と喫煙の意識

a) 主体的分煙行動と将来の禁煙意識：駅・大学分煙群における主体的分煙行動と将来の禁煙意識とは各群とも19.7%~33.8%の幅で絶対したいと回答していた。将来の禁煙理由について、大学分煙群における主体的分煙行動で「タバコがまずくなった」と関連がみられ、大学主体的分煙群は他の群と比べ理由として上げる割合が高率であった( $P<0.01$ )。表18-1

b) 主体的分煙行動と喫煙所での喫煙行動理由：主体的分煙行動と喫煙所での喫煙行動の理由については表18-2のとおりであった。駅分煙群における主体的分煙行動では、「他人の健康を考えて」、「禁煙場所だから」、「人のタバコの煙を吸わされるから」、「吸う量を減らすため」の4項目と関連がみられた。これらの項目を比率の検定した結果、特に、「他人の健康を考えて」では、駅非主体的分煙群が24.6%であるのに対し、駅主体的分煙群は51.4%と

高率であった( $P<0.01$ )。次に、大学分煙群における主体的分煙行動では、「他人に嫌な顔などをされる」の項目で大学非主体的分煙群の20.0%に対し、大学主体的分煙群は55.6%と高率であった( $P<0.01$ )。

c) 主体的分煙行動と喫煙に対する意識：主体的分煙行動と喫煙に対する意識については表18-3, 4のとおりであった。各群に「とても思う」と回答する者が多い項目は「子供や妊婦の前では吸ってはいけない」が77.1%~92.3%の幅で高率であった。反対に、「自動販売機での販売をやめるべきだ」では5.0%~17.1%の幅で低率であった。そして、有意差がみられた項目は、「他人に迷惑をかけなければ吸ってもよい」、「喫煙は個人の自由である」、「多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ」、「子供や妊婦の前では吸ってはいけない」、「未成年者は喫煙すべきではない」、「成人男子は喫煙してもよい」、「タバコを吸うとやせられる」、「タバコのCMなどをもっと減らすべきだ」の8項目であった。これらの項目について比率の検定を行った結果、特に「多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ」では「とても思う」と回答する者が駅非主体的分煙群の19.0%に対し駅主体的分煙群が42.1%と高率であった( $P<0.01$ )。また「成人男子は喫煙しても

よい」では、駅非主体的分煙群が47.5%に対し、駅主体的分煙群は27.1%と低率であった( $P<0.01$ )。次に、大学分煙群における主体的分煙行動では「喫煙は個人の自由である」、「多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ」、「タバコはファッションやアクセサリーにもなる」の3項目と関連がみられた。この中でも特に、「多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ」では、大学非主体的分煙群が28.6%に対し大学主体的分煙群は58.3%と高率であった( $P<0.01$ )。反対に「タバコはファッションやアクセサリーにもなる」では、大学非主体的分煙群が22.9%に対し大学時々主体的分煙群が6.2%、大学主体的分煙群は8.3%と低率であった( $P<0.01$ )。

d) 主体的分煙行動と喫煙制限場所に対する意識：主体的分煙行動と喫煙制限場所に対する意識については表18-5のとおりであった。各群とも「JRや私鉄の駅」において約5割の者が禁煙所を増やすべきだと回答していた。反対に「パチンコ屋などの遊戯場」では、約2割と低率であった。そして、有意差がみられた項目は、駅分煙群における主体的分煙行動では、「病院」、「JRや私鉄の駅」、「通っている学校の教室」、「居酒屋・ディスコ」、「喫茶店」、「パチンコ屋などの遊戯場」の6項目であった。これらの項目について比率の検定を行った結果、特に「通っている学校

の教室」では「禁煙所を増やすべきだ」と回答した者が駅非主体的分煙群の19.6%に対し、駅主体的分煙群が45.8%と高率であった( $P < 0.01$ )。また「喫茶店」においても駅非主体的分煙群が19.6%に対し、駅主体的分煙群は38.3%と高率であった( $P < 0.01$ )。

### (3) 主体的分煙行動と日常生活

a) 主体的分煙行動と喫煙本数：主体的分煙行動と喫煙本数は駅分煙群・大学分煙群における主体的分煙行動との関連は、みられなかった。

b) 主体的分煙行動と喫煙タイプ：主体的分煙行動と喫煙タイプについては表19-1のとおりであった。各群とも鎮静的・快楽的・心理社会的に5割から8割の者が肯定していた。そして、有意差がみられた項目は、駅分煙群における主体的分煙行動では、快楽的喫煙タイプ「椅子に深く座ってタバコを楽しめる時しか普段吸わない」、耽溺的喫煙タイプ「しばらく吸わないでいるとタバコに飢えて苦しい」の2項目であった。この中でも特に快楽的喫煙タイプは、駅時々主体的分煙群が5.7%駅非分煙群が8.9%に対し、駅主体的分煙群は21.5%と高率であった( $P < 0.01$ )。次に、大学分煙群における主体的分煙行動では、鎮静的喫煙タイプ「何か悩みごとがある時

によく吸う」、快樂的喫煙タイプ「静かに休息している時に吸うタバコが一番よい」「椅子に深く座ってタバコを楽しめる時しか普段吸わない」、自動的喫煙タイプ「無意識のうちに火をつけてしまい、気がついたらタバコを吸っている」の4項目と関連がみられた。この中でも「静かに休息している時に吸うタバコが一番よい」という快樂的喫煙タイプでは、他の群と比べ大学主体的時々分煙群が83.1%と高率であった( $P<0.01$ )。また、自動的喫煙タイプでは、大学非主体的分煙群は他の群と比べ37.1%と高率であった( $P<0.01$ )。

c) 主体的分煙行動と喫煙制限されていない場所での喫煙行動  
：主体的分煙行動と喫煙制限がされていない場所での喫煙行動については表19-2のとおり駅分煙群における主体的分煙行動では6項目、大学分煙群における主体的分煙行動では5項目と関連がみられた。これらの項目について比率の検定を行った結果、駅分煙群における主体的分煙行動では、駅主体的分煙群は、駅非主体的分煙群に比べ、「タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる」( $P<0.01$ )、「灰皿を持ち歩いて吸う」( $P<0.01$ )、「喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う」( $P<0.01$ )という3項目において、「よくある」と回答する者が5割以上と多かった。反対に、「近くに人がいても吸う」( $P<0.01$ )、「歩きながら吸う」( $P<0.01$ )「吸いがらを投げ捨てる」

( $P < 0.01$ )の3項目において「よくある」と回答する者は約2割と少なかった。次に、大学主体的分煙群では、大学非主体的分煙群に比べ、「タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる」( $P < 0.01$ )、「喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う」( $P < 0.01$ )という2項目において、「よくある」と回答する者が約7割以上と多かった。反対に、「近くに人がいても吸う」( $P < 0.01$ )、「歩きながら吸う」( $P < 0.05$ )「吸いがらを投げ捨てる」( $P < 0.05$ )の3項目において「よくある」と回答する者は約2割と少なかった。

d) 主体的分煙行動と日常生活：主体的分煙行動と喫煙行動を除いた他の日常生活については表19-3のとおりであった。まず、駅分煙群における主体的分煙行動では「運動習慣」、「健康情報・知識」、「乗り物の中で老人や障害者に席を譲る」の3項目と関連がみられた。これらの項目について比率の検定を行った結果、特に「乗り物の中で老人や障害者に席を譲る」の項目において、「必ず譲る」という者が駅非主体的分煙群17.3%駅主体的時々分煙群26.6%に対し、駅主体的分煙群が32.7%と多かった( $P < 0.01$ )。次に、大学分煙群における主体的分煙行動では「自動車に乗るときのシートベルト」と関連がみられた。

「生活の満足感」では駅主体的分煙群は他の群と比べ満足してい

ない者が少なかった ( $P<0.01$ )。

寿命願望について聞いた結果、駅分煙群における主体的分煙行動では、駅主体的分煙群が平均で74.2歳、駅時々主体的分煙群73.9歳、駅非主体的分煙群70.4歳であり、駅非主体的分煙群は駅主体的分煙群・時々分煙群に比べ寿命願望が低いことが伺われた ( $P<0.05$ )。次に、大学分煙群における主体的分煙行動では、大学主体的分煙群が平均で74.3歳、大学時々主体的分煙群75.5歳、大学非主体的分煙群72.0歳であり、各間での差は認められなかった。

#### (4) 主体的分煙行動と環境面

主体的分煙行動と住居環境や親しい友人と恋人の有無やその人の喫煙習慣の有無との比較を行った結果、「親しい友人」の項目で駅主体的分煙群の方が親しい友人がいる者が少ないことがうかがわれた ( $P<0.01$ )。

主体的分煙行動と1カ月のこづかいについて聞いた結果、駅分煙群における主体的分煙行動では、駅主体的分煙群が平均で36,574円、駅時々主体的分煙群36,956円、駅非主体的分煙群39,457円であり、各間での差は認められなかった。次に、大学分煙群における主体的分煙行動では、大学主体的分煙群が平均で38,971円、大学時々主体的分煙群33,048円、大学非主体的分煙群35,813円であり、各間での

差は認められなかった。

#### (5) 主体的分煙行動と性格面

駅分煙群における主体的分煙行動別に T E G を用いて、C P、N P、A、F C、A C の 5 つの自我状態の平均値を示すと図 3 のとおり、駅主体的分煙群、駅主体の時々分煙群、駅非主体的分煙群とも M 型を示していたが、N P の自我状態において、駅主体的分煙群 (13.3) が、駅非主体的分煙群 (12.0) よりも有意に高く ( $P < 0.01$ )、駅主体の時々分煙群 (12.0) が、駅非主体的分煙群 (13.2) よりも有意に高かった ( $P < 0.001$ )。また、A の自我状態においては駅主体的分煙群 (11.6) が、駅非主体的分煙群 (10.3) よりも有意に高く ( $P < 0.01$ )、駅主体の時々分煙群 (11.3) が、駅非主体的分煙群 (10.3) よりも有意に高かった ( $P < 0.01$ )。A C の自我状態においては駅主体的分煙群 (10.7) が、駅主体の時々分煙群 (9.7) よりも有意に高かった ( $P < 0.05$ )。同様に、大学分煙群における主体的分煙行動別エゴグラムを図 4 に示した。3 群とも M 型を示していたが、F C の自我状態において大学主体的分煙群 (12.5) が、大学主体の時々分煙群 (14.0) より有意に低く ( $P < 0.05$ )、大学主体的分煙群 (12.5) が、大学非主体的分煙群 (14.4) よりも有意に低かった ( $P < 0.05$ )。

## 第 6 章 考 察

### 第 1 節 喫煙状況について

本調査での喫煙率は「ほぼ毎日吸う」44.2%、「時々吸う（月1回以上）」が4.3%で合計48.5%であった。男子大学生の喫煙率については野原ら<sup>54)</sup>は、健康科学を学ぼうとする学生1年生の喫煙率は23.6%と報告している。渡辺ら<sup>90)</sup>は国立大学学生1年生から4年生を対象として、喫煙率は38.6%とし、皆川ら<sup>40)</sup>は、国立大学学生1, 2年を対象として、喫煙率は31.9%としている。横田<sup>91)</sup>は、教育大学大学生1年生から4年生を対象として、喫煙率は51.6%としている。また、照屋<sup>84)</sup>は保健体育科男子学生1年生から4年生を対象に、喫煙率は35.5%、多々納<sup>83)</sup>は福岡市内の私立及び国立の男子大学生1年生を対象に、喫煙率35.3%であったと報告している。これらのことから、男子大学生の喫煙率は23.6%～51.6%の幅での報告がみられたが、本調査では他の調査と比較して、喫煙率が比較的高いといえる。喫煙率について白川ら<sup>70)</sup>は「喫煙は学年が進行するにしたがって上昇する」としており、本調査での対象者の59.8%が成人であったため、喫煙率は高くなったことが考えられる。

1日の喫煙本数については16～20本が35.1%と最も高率で11～20本の者が全体の54.5%を占めた。大学生の喫煙本数は20本未満という報告が多く<sup>54) 90) 40) 91)</sup>、本調査結果も同様の傾向が

みられる。したがって、大学生にとってはタバコを1日1箱（20本）吸うということが喫煙の目安になっていることがうかがわれた。

禁煙経験については禁煙経験者は61.7%であった。禁煙回数は5回以下が全体の86.1%をしめ、喫煙者はタバコをやめたいと禁煙を繰り返しているがその回数は5回以下と少なく、10回以上禁煙したことがある者は7.5%と低率であった。禁煙経験については川上<sup>28)</sup>らが成人男子を対象とした調査では62.6%であった。また、芹沢<sup>69)</sup>らは女子大学生を対象として禁煙経験率が49.2%とし、横田<sup>91)</sup>らが教育大学学生を対象として、男子学生では禁煙経験率は56.9%であったとしている。これらのことより、本調査結果と比較を行うと禁煙経験率については成人や大学生を対象とした他の調査と同様で約半数の者が禁煙経験をしていたといえる。禁煙理由については「健康に悪い」が最も多かったが「経済的理由」をあげている者が27.0%いたということが特徴であるといえる。したがって、大学生の喫煙行動は経済的理由でお金を節約するためにタバコを買わなかったということが禁煙につながったと考えられる。このことは、非喫煙群はこづかい額が少ないことから、経済的な影響が大きいことがうかがえる<sup>50)</sup>。

将来の禁煙については禁煙意識をしたいと考える者が73.1%と高率であった。将来の禁煙については野原ら<sup>54)</sup>は健康科学を学ぼう

とする学生を対象として禁煙の意志をもっている者は60～70%であり、禁煙の意志をもっていない者と比べ平均喫煙年数が短かったと述べている。また、皆川ら<sup>40)</sup>も男子大学生を対象として、喫煙者の禁煙意志は「しばしばある」「たまにある」を合計して68.6%であった。逆に禁煙する意志のない者は男子18.3%であったとしている。富永ら<sup>86)</sup>や森ら<sup>46)</sup>は、成人男子(20歳代を中心として)の禁煙意志について禁煙をしたい者はそれぞれ57.3%、70%余りと報告している。したがって本調査の将来の禁煙意識は大学生、成人を対象とした他の調査と同様の傾向がみられるといえる。また、将来の禁煙理由の特徴として「周囲の人の迷惑」において禁煙理由では5.9%であったが、将来の禁煙理由では16.5%と比較的高率であることがわかり、社会的な面にも意識が向けられており、将来の禁煙意識には「周囲の人の迷惑」というものが関与することが考えられる。

## 第2節 分煙状況について

本調査では分煙行動と主体的分煙行動という2つの点から検討を行った。

分煙行動とは喫煙制限が行われている場所での分煙行動のことを指し、駅と大学の2つの場所について検討を行った。

駅においては分煙行動ができている群が全体の64.2%と最も高率

で、時々群28.2%、非分煙群はわずか7.6%であった。

駅での喫煙制限についてみると、1988年7月1日からJRが終日全面禁煙施設や禁煙タイムを設定し、現在では関東のJRや私鉄などでも分煙や禁煙が浸透している<sup>14)</sup>。また、野上ら<sup>53)</sup>は「タバコの害」ポスターコンクールでのアンケート調査で「禁煙にしてほしい場所がありますか」という質問に対し食堂・駅が高率であったと報告している。このように、駅での喫煙は喫煙制限が厳しく、社会的にも喫煙規制意識が高い。そのため分煙行動をとっている者が、6割と多いことが考えられる。

これに対し、大学では大学内で分煙行動ができている群はわずか15.4%と低い。本調査での対象大学には全ての大学に決められた喫煙所があり、その場所で喫煙をすることになっているが皆川<sup>40)</sup>の調査では「関東地区の廊下などで喫煙を規制している大学は45.7%であり、大学での喫煙規制は徹底していない」ことを指摘している。また、斉藤ら<sup>68)</sup>の調査でも「講義室などの禁煙場所でも休息時間などでは禁煙が守られていない」との報告もある。したがって、大学内での喫煙規制問題は駅ほど積極的に行われておらず、喫煙場所を設けてあるだけで、社会的や学校全体として規制意識が低いと考えられる。そのために喫煙所で吸ったり、禁煙所で吸ったりという時々群が喫煙者の7割近くを占めており、喫煙所でしか吸わないと

いうものはごく少数であったと考えられる。

主体的分煙行動については他者に迷惑をかけないような喫煙を分煙行動としてとらえ、喫煙制限が何もされていない場所でも分煙行動を行っている者を主体的に分煙行動しているとした。

駅分煙群における主体的分煙行動と大学分煙群における主体的分煙行動をみると、駅分煙群では主体的分煙行動ができている者は18.8%と最も低率で、時々群が49.6%、非主体群が31.5%であった。また、大学分煙群では主体的分煙群が26.5%、時々群が47.8%、非主体群が25.7%であった。

この結果より、大学主体的分煙群は駅主体的分煙群より高い傾向にあり、これは大学において喫煙規制が厳しくない状態でも分煙行動が行えている者は主体的に分煙行動がなされていると考えられる。しかし、主体的分煙行動は分煙行動の分煙群の中でも約3割程度の者しかなく、大学生にとっては他者への配慮などを考慮した分煙意識は低いものであることがうかがわれた。

### 第3節 分煙行動と知識との関連

喫煙に関する知識では、喫煙の身体に与える影響やタバコの成分や喫煙に関する法律などの項目について、たずねた中で、大学分煙

群が、大学非分煙群より正解率の高かったのは、タバコの成分である、ニコチンの作用について、「タバコの成分であるニコチンは発ガン性物質である」という質問であった。この質問は、ニコチンが血圧や心拍数をあげるという心臓血管系への急性影響の主役であること<sup>4)</sup>への理解であり、また「血圧や心拍数の変化」においても分煙群の方が正解率が比較的多い傾向にあり、分煙群は喫煙の急性影響の知識をもっている者が多いことが考えられる。

駅主体的分煙群は、駅非主体的分煙群に比較して、正解率の高かった、「タバコを吸うと心筋梗塞になりやすい」という質問については、喫煙の慢性影響の知識をみたものであり、木根渕<sup>32)</sup>や吉田<sup>92)</sup>が女子大学生を対象とした調査において、喫煙が心筋梗塞に悪影響を及ぼすという知識をもつものは少なかったとしている。また、野津<sup>55)</sup>は高校生男子を対象として、「将来禁煙するという者は喫煙し続ける群と比べ、「喫煙は心臓疾患と関係がある」の項目においてよく知っている者が高率であった」としている。本調査結果においては、主体的分煙群の方がこの知識を持っている者が多いということは主体的分煙行動や将来の禁煙への教育的手段として、喫煙との関連があまり知られていない、「心筋梗塞」についても教えることは重要であると考えられる。

次に「本人が吸う煙よりタバコからでる煙の方が多くの発ガン性

物質が含まれている」という「受動喫煙」に関する知識は、駅主体的時々分煙群が50.7%と正解率が高く、他の群も約4割の者が知っていた。江口<sup>7)</sup>らは妊婦を対象として、「喫煙中止者のほうが喫煙者よりも、受動喫煙に関する知識を有するものの割合が高かった」としている。しかし加藤<sup>23)</sup>らは「受動喫煙については喫煙行動別（喫煙群、禁煙群、経験群、非喫煙群）にみても、どの群においてもだいたい半数の者が知っており、差はみられなかったが、意識に関しては相違がみられた」としており「知識ではなく意識の違いが禁煙行動につながっている」としている。本調査結果においても、「受動喫煙」の知識を持っているからといって主体的な分煙行動を行っている者の割合が多いわけではなかった。内山<sup>87)</sup>は喫煙に対しての教育の問題点として、「タバコ」即ち「肺がん」という直線的認識がかなり強いことをあげており、この点から考えると、分煙群は喫煙の肺がん以外の疾病の知識や急性影響についての知識を幅広く、持っている者が多いといえる。Hanley<sup>13)</sup>は喫煙の急性影響に主眼をおいた禁煙教育のほうが効果的であるとしており、禁煙教育に対して肺がんとの関係だけではなく、幅広く、慢性影響や特にニコチンの生理作用等の急性影響を積極的に教えることにより、主体的に分煙したり、禁煙する方向へ導く効果があるのではないかと考えられる。

#### 第 4 節 分煙行動と意識との関連

分煙行動と意識（禁煙理由、将来の禁煙意識、喫煙所における喫煙理由）で、まず禁煙理由についてみると、駅分煙群は「経済的理由」をあげる者が多く、大学非分煙群では「意志力を試す」、「医師からの注意」の項目を理由としてあげる者が高率であった。しかし、主体的分煙行動の有無と喫煙理由の間には関連がみられなかった。

禁煙の理由については芹沢<sup>69)</sup>らは女子大学生を対象として、禁煙理由については「健康に良くない」48.4%「タバコがまずくなった」19.4%の2項目が高率であったとしている。また、横田<sup>91)</sup>らが男子学生を対象とした、禁煙者の禁煙理由は「健康に悪いから」が45.8%と最も多く、次いで「経済的理由」が25.0%と高率であり、「経済的理由」は禁煙者の特色であると考えられるとしている。これらのことより、本調査結果を考えると禁煙理由については「健康に悪いから」を理由とする者はどの群においても約6割の者があげており、他の報告と同様の傾向がみられた。しかし、分煙行動の各群別では大学分煙群が禁煙者の特色である「経済的理由」をあげている者が多い点が注目される。また、駅非分煙群は「意志力を試す」を理由としてあげる者が多くおり、小川ら<sup>56)</sup>は成人男子の禁煙失敗者は「将来の健康によくない」「意志力を試そうとして」を禁煙

の理由にあげる者が多かったとすることから、このような理由をあげているものは、今後の禁煙に失敗する可能性があると考えられる。

次に、将来の禁煙意識と禁煙理由についてみると、将来の禁煙意識については分煙行動では駅・大学分煙群共に「絶対にしたい」という者が多かった。また、主体的分煙行動においては有意差はみられなかった。しかし、駅主体的分煙群は「絶対したい」という者の割合が他の群と比べ、比較的高かった。このことは、分煙行動ができている者は、将来の禁煙意識も高いことがうかがえた。次に将来の禁煙理由については、分煙行動において、大学分煙群は「周囲の人の迷惑」を理由としてあげていた。また、「タバコがまずくなった」は大学分煙群、大学主体的分煙群の共通の理由としてあげており、タバコに対してマイナスのイメージがあると考えられる。また、分煙行動、主体的分煙行動共に回答率の高い理由は「健康のため」が約6割を占め次いで、分煙行動では「経済的理由」が約2割となっていた。しかし、主体的分煙行動においては「周囲の人の迷惑」を禁煙理由としてあげる者が多い傾向にあり、主体性があるほど周囲の人の迷惑を考え、喫煙を個人の問題としてとらえているのではなく、集団（社会）の問題としてとらえていることが考えられる。

次に、喫煙所での喫煙行動の理由との関わりについてみると、分煙行動においては駅・大学分煙群は「他人への迷惑を考えて」「他人の健康を考えて」「禁煙場所だから」「他人に嫌な顔などをされる」ことを理由としてあげる者が多かった。このことは、分煙行動は他人のことを考える側面と禁煙場所であるからという社会的な面を理由としていることがわかる。また、「禁煙所でも吸っている人がいる」「タバコの吸いがらが落ちている」の項目においては駅・大学時々分煙群・非分煙群が顕著に多かった。このことは、分煙ができない者は、人の行動に影響されやすく、依存性が高いことが考えられ、分煙行動へ導くためには、禁煙所に吸いがらが落ちないことや禁煙所で喫煙する人がいないといった環境面的な対策と共に、自己管理能力の育成が必要であろう。また、駅・大学非分煙群においては「禁煙場所か否か、気にしない」「喫煙は個人の自由だから」において関連がみられ、非分煙群は喫煙はあくまで個人のものととらえ、社会との関わりについての意識が低いことが考えられる。さらに、分煙行動の中でも、主体的に行っているか、否かについてみると、主体的分煙群は他人の健康や迷惑を考えて分煙行動しているのに対し、非主体群は禁煙場所と指定してあるから分煙行動を行っており、喫煙制限されていないところでは他人の健康や迷惑を考えず喫煙していることが考えられる。この他に主体的分煙

行動の中で特に注目されるのは駅主体的分煙群において「吸う量を減らすため」という項目に回答している者が多く、主体的分煙行動を行っている者は節煙意識が高いことがうかがわれる。

以上のことから、喫煙所での喫煙理由の中で、分煙行動では、他者への配慮と禁煙場所だからという2つの意識が関連の強い要因であるといえる。そして、主体的分煙行動では、2つの意識の中の他人の健康を考えると、他者への配慮が特徴的である。一方、喫煙所での喫煙理由で、タバコを吸う量を減らすも高率であり、主体的分煙群はそうでない人よりも節煙へ向かっている可能性が高いのではないかと考えられる。

喫煙に対する意識14項目との関連についてみると分煙行動では、駅分煙群は「子供や妊婦の前では吸ってはいけない」、大学分煙群では「未成年者は喫煙すべきでない」、「タバコ自動販売機の販売をやめるべきだ」、駅分煙群・大学分煙群では「多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ」の4項目において肯定的であり、反対に、駅分煙群では「タバコはファッションやアクセサリにもなる」、大学分煙群では「成人男子は喫煙してもよい」、駅分煙群・大学分煙群は「喫煙は個人の自由なのでとやかく他人に言われる事はない」の3項目において否定的であった。

そして、主体的分煙行動では、駅主体的分煙群は「子供や妊婦の前では吸ってはいけない」、「未成年者は喫煙すべきでない」、「タバコのCMなどをもっと減らすべきだ」、駅主体的分煙群・大学主体的分煙群では「多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ」の4項目において肯定的であり、反対に、駅主体的分煙群では「迷惑をかけなければ吸ってもよい」、「成人男子は喫煙してもよい」、「タバコを吸うとやせられる」、大学主体的分煙群では「タバコはファッションやアクセサリにもなる」駅主体的分煙群・大学主体的分煙群は「喫煙は個人の自由なのでとやかく他人に言われる事はない」の5項目において否定的であった。

喫煙の制限に関する報告として、野津ら<sup>55)</sup>は高校生男子を対象として将来禁煙するという者は喫煙し続ける群と比べ、「ラジオやテレビでのタバコの広告は禁止すべきである」「わが国はもっと積極的に禁煙対策をとるべきである」にそう思う者が高率であったとしている。川畑ら<sup>25)</sup>は成人で禁煙協会講習参加者は「たばこの箱に有害表示を義務づけるだけでは不十分なので、政府はもっと強く禁煙を訴える必要がある」という項目と強い関連がみられたとしている。また、渡辺<sup>90)</sup>は喫煙の有害さを訴え、恐怖心をかりたてるような喫煙防止対策ではなく、タバコ自動販売機やコマーシャル等の規制が喫煙防止教育に重要性を持つであろうとしている。した

がって、これらの喫煙制限に対して賛成としている者が多く、これらの意識を高めることによって、分煙行動がよりよい方向に行き、将来には禁煙へと移行していく可能性があると考えられる。そして、「タバコを吸うとやせられる」ということに対して、野津ら<sup>55)</sup>は高校生男子を対象として、将来禁煙するという者は喫煙し続ける群と比べ「喫煙は太りすぎのコントロールに役立つ」においてそう思う者が低率であったとしており、タバコを吸うとやせられるという間違った認識を正しく認識させることが重要であり、このことは、喫煙行動だけでなく分煙行動においても同様であった。また、特に大学非主体的分煙群に見られた、「タバコはファッションやアクセサリーにもなる」と考えることに対して、川畑ら<sup>25)</sup>は成人で禁煙協会講習参加者は喫煙に対する態度はきびしく、「一人前の男として格好のアクセサリーなので、吸うことをちゅうちょする必要はない」という者が、少なかったと報告している。「タバコのCM」では、かっこのよさやアクセサリーとして放映されており、このようなCMの制限が必要であると共に、外面的に価値をおく青年期では、タバコ以上の価値の高いものが必要であろう。そして、分煙群及び主体的分煙群は喫煙制限に対して積極的であることがうかがわれたが、川上ら<sup>28)</sup>は長期喫煙中断群・禁煙群になるほど職場における喫煙制限に対して、賛成意見が多く、喫煙制限意識は喫煙中断

行動の動機づけと開始に関わる要因であるとしている。したがって、分煙群・主体的分煙群は喫煙規制意識が高く、禁煙への動機づけや禁煙開始が行われやすいことが考えられる。子供や未成年、成人に対しての喫煙意識について、村松ら<sup>49)</sup>は大学生を、Stoneら<sup>73)</sup>は成人を対象として成人男子の喫煙に対しての意識を聞いた結果、喫煙者は喫煙をよしとし、非喫煙者は喫煙をいけないものとしており、分煙群は喫煙に対しマイナスのイメージがあり、非分煙群は喫煙プラスのイメージを持っていることがうかがわれ、分煙群は非喫煙者に近いことがうかがえる。

以上のことから、喫煙に対する意識の中で、分煙行動に対してのみの関連要因はなかったが、分煙・主体的分煙行動共通の関連要因として、喫煙に対する制限意識やCMなど販売に対する喫煙制限意識の高揚や、子供、妊婦、未成年、成人の喫煙に対しての厳しさというものがあげられた。逆に、非分煙行動の関連要因として、喫煙を個人の自由としてとらえることがあげられた。また、非主体的分煙行動のみの関連要因としては、タバコを吸うとやせられるやタバコはアクセサリーにもなるという信念があげられ、主体的に分煙行動を起こし、禁煙に導く為にはタバコはアクセサリーであるという意識を変えること、喫煙は個人の自由ではなく、他人にも影響を及ぼすという意識の変化が、喫煙規制意識を高めさせると考えられる。

次に、喫煙制限に対しての意識との関連においては、分煙行動においては「通っている学校の教室」では駅・大学分煙群「ＪＲや私鉄の駅」では駅分煙群「病院」では大学分煙群において「全部禁煙にすべき」と考えるものが多かった。また、「食堂・レストラン」では駅非分煙群は「禁煙所は知らない」と回答しているものが多くみられた。また、主体的分煙行動においては駅主体的分煙群では「病院」「ＪＲや私鉄の駅」「通っている学校の教室」「居酒屋、デイスコ」「喫茶点」「パチンコ屋などの遊戯場」での喫煙制限意識が高かった。照屋<sup>84)</sup>は大学生を対象として「飲食店内での喫煙」に対する考え方について喫煙群では「今のままでよい」と回答する者が多く(52.6%)非喫煙群では「全席を禁煙にすべきだ」または「禁煙席を設けるべきだ」との回答が多かった(72.6%)としている。そこで、本調査結果と比較すると喫煙制限に対する賛成意識は照屋らの報告と比べ、全体的に低かったが、分煙・主体的分煙行動ともよい方向になるにしたがい、賛成意識は高率になっており、ここでも喫煙制限意識と分煙行動との関連についてうかがわれた。そして、特に主体的分煙群では居酒屋やパチンコ屋などの現在喫煙制限されていない場所でも喫煙制限意識が高いことがうかがわれ、主体的分煙者の１つの特徴であるといえる。

以上のことから、「病院」「ＪＲや私鉄の駅」「学校の教室」といった、現在比較的喫煙規制が行われている場所での喫煙制限意識の高さというのは、分煙・主体的分煙行動共通の関連要因であるが、「居酒屋、デイスコ」「喫茶店」「パチンコ屋などの遊戯場」などの現在喫煙規制がされていない場所での喫煙制限意識の高さというのは主体的分煙行動の関連要因であることがいえる。

#### 第５節 分煙行動と日常生活行動との関連

喫煙本数との関わりを見てみると分煙群は１日の喫煙本数が少なく、非分煙群は喫煙本数が多いことがうかがわれた。また、主体的分煙行動においては喫煙本数との間に関連は認められなかったが、主体的分煙群の方が非主体的分煙群よりも少ない傾向にあった。喫煙本数について高橋ら<sup>80)</sup>は男子喫煙者では喫煙本数の少ないものが高い「気配り意識」を持っており、喫煙本数の多いものが低い「気配り意識」を示していたことは「気配り意識」が喫煙本数に影響を与えている可能性を示唆するとしており、分煙群において喫煙本数が少ないということは分煙群は「気配り意識」を持つ者が多いことが考えられる。そして、喫煙本数と禁煙意識に関しては皆川ら<sup>40)</sup>が大学生を対象として禁煙願望と喫煙本数との関係について、喫煙本数が29本以下の者は禁煙願望を持つ傾向が強く、30本以上の

者は禁煙願望がまったくない者が著しく多く、特に喫煙本数の多い者に禁煙願望がないことはタバコの健康影響を知らないか、知っていてもきわめて低い意識しか持っていない者と思われるとしている。野原ら<sup>54)</sup>も大学生を対象として「禁煙の意志をもっている者は1日平均喫煙本数 8.5本、ない者13.1本であった」と報告しており、赤羽ら<sup>1)</sup>や川上ら<sup>29)</sup>は実際に禁煙ができた成人を対象として禁煙者は喫煙本数が少ないのが1つの要因であると報告している。したがって、これらのことから喫煙本数が少ないということは、気配り意識を高め、分煙を行い、やがて禁煙へ移行するという可能性も考えられる。

喫煙タイプとの関連についてみると分煙行動では大学分煙群は快楽的喫煙タイプに、大学非分煙群では心理社会的喫煙タイプに、駅非分煙群では耽溺的喫煙及び自動的喫煙タイプの者が多かった。また、主体的分煙群では駅非主体的分煙群では耽溺的喫煙タイプ、大学非主体的分煙群では自動的喫煙タイプ、大学主体的分煙・時々群では鎮静的喫煙タイプ、大学主体時々群では快楽的喫煙タイプ（静かに休息している時に吸うタバコが一番よい）、そして、駅・大学主体的分煙群共通にみられたものは快楽的喫煙タイプ（椅子に深くすわってタバコを楽しめる時しか普段吸わない）であった。

喫煙タイプについては大津ら<sup>62)</sup>は高校生男子を対象として禁煙しない方向にあるのは興奮的喫煙タイプ（刺激的喫煙タイプ）と耽溺的喫煙タイプであり、特に興奮的喫煙タイプ（刺激的喫煙タイプ）は禁煙しないといえるとしている。また、泊<sup>85)</sup>は成人を対象として禁煙との関わりを見ており、そこで中毒性喫煙タイプ（耽溺的喫煙タイプ）は喫煙者に感性的喫煙タイプ（感覚運動的喫煙タイプ）は禁煙者に多くみられたとしている。また、野原らは<sup>54)</sup>大学生を対象とした調査で何か熱中している時や忙しい時は数時間喫煙しない、道楽的喫煙タイプは意志の強さと生活の仕方から分煙から禁煙の方向へ持って行ける可能性があるとしている。そこで、本調査結果を見ると禁煙を行いやすい感覚運動的喫煙タイプと分煙行動、主体的分煙行動の間には特に関連がみられなかったが、Ikardらのいう道楽的喫煙タイプはゆっくりと楽しく味わえる休息時にタバコを吸うことで、Russellの快楽的喫煙タイプに相当する<sup>34)</sup>。したがって、本調査で分煙行動や主体的分煙行動にみられた快楽的喫煙タイプは、分煙から禁煙の方向へ行く可能性があるといえる。以上のことから、分煙・主体的分煙行動問わず、分煙群、主体的分煙群には、快楽的喫煙タイプが関連要因となり、耽溺・自動的喫煙タイプは非分煙・非主体的分煙行動の関連要因であることが考えられる。この中でも特に、主体的分煙群は喫煙の身体依存も少なく、快楽的喫煙

タイプの者が多く、禁煙教育によって禁煙できる可能性が十分にあることが考えられる。また、非分煙群や非主体的分煙群は喫煙の身体依存が大きいので禁煙が大変困難であることが予測される。

喫煙制限されていない場所での喫煙行動との関連についてみると、分煙行動、主体的分煙行動ともに同様の傾向がみられた。すなわち分煙・主体的分煙群共に、「タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる」「喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う」という行動がよくあるという者が多い。また、非分煙群、非主体的分煙群共に、「近くに人がいても吸う」「歩きながら吸う」「タバコの吸いがらを投げ捨てる」という行動がよくあるという者が多かった。この中で、「タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる」「歩きながら吸う」「タバコの吸いがらを投げ捨てる」といった喫煙に対してのマナーについて、赤羽ら<sup>1)</sup>が禁煙指導後に喫煙行動が望ましい方向へ向かった者は、指導前の喫煙マナーがよい者の比率が比較的高かったと報告している。また、小笹ら<sup>37)</sup>は成人男子を対象として禁煙啓発を実施しその結果、喫煙制限されていなくても、喫煙を控えている場所のある人は実施群、対象群ともにそうでない人より有意に高い禁煙率を示し、これらの者は啓発の有無に関わらず禁煙しやすい人であるとしている。このことから制限されているからではなく、分煙

行動ができる者は禁煙へのつながりがあると考えられ、喫煙者に対しての分煙行動の指導は禁煙への動機づけや禁煙行動への効果があることが考えられる。

以上のことから、分煙・主体的分煙行動の関連要因として、喫煙制限されていない場所で「タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる」「喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う」という行動があげられ、逆に、非分煙・非主体的分煙行動の関連要因として、「近くに人がいても吸う」「歩きながら吸う」「タバコの吸いがらを投げ捨てる」という行動があげられた。そして、これらの要因は、分煙行動よりも主体的分煙群の方がより顕著であり、禁煙教育を行う場合、喫煙についての知識を教えるだけではなく、喫煙者に対しては分煙行動や喫煙のマナーなどを教育していくことも禁煙教育にとって大きな意義があると考えられる。

喫煙行動以外の日常生活行動との関連についてみると分煙行動では大学非分煙群において「就寝時間」が午前1時以降と遅い時間に寝る者、駅分煙群では「運動習慣」がほぼ毎日行う者、大学分煙群では「飲酒習慣」がほとんど飲まない者、大学分煙群では「朝食の摂取」が毎日摂取する者、駅・大学非分煙群では「アルバイトの有無」でアルバイトを行っている者がそれぞれの項目において有意に

多かった。また、主体的分煙行動では駅主体的分煙群において「運動習慣」がほぼ毎日行う者、大学非主体的分煙群では「自動車に乗る時のシートベルト」でしない者、駅主体的分煙群では「健康情報」をよく得ている者が有意に多かった。そして、大学分煙群、駅主体的分煙群共に、「乗り物の中で老人や障害者に席を譲る」という項目で必ず譲るという者が多かった。

萩原ら<sup>11)</sup>は成人を対象として運動、睡眠、食事などの日常保健行動習慣の良好な者ほど、公共場所での喫煙規制に関する知識・態度レベルが高かったとしており、これらの行動が良好な分煙者は知識・態度レベルだけではなく行動にもつながっていることがうかがわれる。禁煙と日常生活行動との関わりについては伊野津ら<sup>20)</sup>や小川ら<sup>60)</sup>が成人を対象として「禁煙成功者は健康意識が高い」と報告している。また、川上ら<sup>28)</sup>は成人を対象として「喫煙中断行動の動機づけと開始に関わる要因として、運動習慣が、禁煙維持には朝食の規則性や野菜の摂取と言ったものが関連している。」と報告している。また、小川ら<sup>59)</sup>は禁煙教室受講者を対象に受講時と1年後に調査を行い、「禁煙成功の関連要因には朝食を毎日とる者に成功率が高かった」としている。また、OHTSUら<sup>63)</sup>は成人男子を田中ら<sup>82)</sup>は女子短大生を対象に喫煙に及ぼす要因として朝食の摂取がないあるいは充分でないことをあげている。これらのことから、

禁煙には朝食や運動が大きく関わっていることがわかるが、分煙群はこれらいずれの項目に良好な者が多く、将来の禁煙への可能性がうかがわれる。また、主体的分煙群においては健康情報をよく得ていることが特徴である。健康情報については藤沢ら<sup>8)</sup>が大学生を対象として、「健康情報入手」は得に実践率がよくない項目としてあげている。このことから、主体的分煙群はかなり健康意識が高いことが考えられる。また、特に注目されるのが大学分煙群、駅主体的分煙群において「乗り物の中で老人や障害者に席を譲る」という項目で必ず譲るという者が多かったことであり、岩井ら<sup>21)</sup>は保健行動の分類の中で「交通ルールを守る」「献血をする」「乗り物の中で老人や身障者に席を譲る」というものを社会性のある行動としており、主体的分煙群は社会性が高いことがうかがわれた。

以上のことより、日常生活行動の中で、分煙行動には、就寝時間、運動習慣、飲酒、朝食の摂取などの身体面に対しての健康がよい方向にあることが関連要因であり、これらは禁煙の要因にもなっている。また、主体的分煙行動に対しては自動車に乗るときシートベルトをする、健康情報を得る、老人や障害者に席を譲るなど精神面に対しての健康がよい方向にあることが関連要因であるといえる。

主観的健康感との関連については駅非分煙群の方が不健康である

という者が多かった。また、生活の満足感については大学分煙群、  
駅主体的分煙群において満足している者が多かった。生活満足感と  
喫煙との関わりについては多々納ら<sup>83)</sup>は大学生の喫煙の方向に強  
く関与しているものに「生活の満足度の低さ」をあげている。また、  
萩原ら<sup>12)</sup>は公共場所での喫煙制限知識の高いものは職場や家庭で  
の生活に満足しているものが多いとしている。これらのことから、  
主観的健康感や生活の満足感が高い分煙者は日々の生活の中で精神  
面での状態が非常に良好であることが考えられる。

寿命願望については駅主体的分煙行動においてのみ差がみられ、  
駅非主体的分煙群（70.4歳）より、駅主体的分煙群（74.2歳）駅主  
体的時々群（73.9歳）の方が高いという結果であった。平成4年の  
わが国の平均寿命<sup>36)</sup>は男子が76.09歳であり、分煙群、主体的分  
煙群に限らず、寿命願望は平均寿命より低いことが伺われた。藤沢  
ら<sup>9)</sup>が大学1年生を対象とした調査でも男子大学生の望む寿命は71.  
7歳と当時の平均寿命（74.78歳 S60）と比べても低いとしている。  
このことから、平均寿命からみれば低い寿命願望であるが主体的分  
煙群は非主体的分煙群よりも長生きしたいという希望を持っており、  
長寿に対して肯定的な態度が推察される。

## 第 6 節 分煙行動と環境面との関連

住居に関する項目では分煙行動、主体的分煙行動ともに関連がみられなかった。住居に関しては OHTSU ら<sup>63)</sup>は成人男子の喫煙要因として、アパート・賃貸マンションに住んでいる者が多いとしているが、分煙群、主体的分煙群問わず自宅、アパートにおいてそれぞれ約 4 割の者が住んでおり、関連はみられなかった。また、同居者についても関連はみられなかった。したがって、分煙行動には住居形態や同居者などは関連がないものと考えられる。

友人や恋人などの交友関係については駅主体的分煙群において「親しい友人がいる」という項目にいないと答えるものが多かったが、他の項目とは関連がみられなかった。Hunter ら<sup>19)</sup> McGuffin<sup>39)</sup> 川畑ら<sup>26)</sup>は喫煙を開始させる要因には人種、性別に関わらず、友人の喫煙やきょうだいの喫煙が強く影響するとしている。しかし、分煙行動には恋人や新しい友人からの影響をあまり受けないことが考えられる。

1 カ月に自由に使えるこづかいについては、分煙行動では駅分煙群が（37,675 円）駅非分煙群（48,891 円）より低く、大学分煙群（35,295 円）も大学非分煙群（40,802 円）と比べ、低い傾向にあった。喫煙とこづかいの関係については村松<sup>50)</sup>が、女子大生を対象として「喫煙群は非喫煙群に比較してこづかいの額が多い」として

いる。したがって、分煙群、主体的分煙群においても、こづかい額の影響が考えられる。

以上のことから、環境要因の中では、分煙行動において、こづかいの少なさというのは関連要因であると考えられ、住居や親友、恋人とは、分煙・主体的分煙行動共に、あまり関連がないと考えられる。

## 第7節 分煙行動と性格面との関連

分煙行動が性格といかに関わっているか、交流分析におけるエゴグラムを用いてみた結果、主体的分煙行動において、特徴的な自我状態がみられた。即ち、駅主体的分煙群は、NPが高く、このことは、人に対して受容的で、相手の話に耳を傾け、親身になって世話をし、親切な言葉をかけて相手を快適な気分にするとしている<sup>75)</sup>。

したがって、駅非主体的分煙群より駅主体的分煙群の方が思いやりや人に対して受容的である者が多いことがうかがわれる。さらに、この駅主体的分煙群は、Aも高く、このことは、Aの自我状態は、事実に基づいて物事を判断しようとする部分である。データ処理の際のコンピュータのような働きをする。現実を客観視し、あらゆる角度から情報を収集する。そしてそれらを基に、冷静に計算をし推定をして、意志決定を行い判断を下すとしている<sup>76)</sup>。したがって、

駅非主体的分煙群より駅主体的分煙群・時々群の方が自律性豊かな人間として活動できる者が多いことがうかがわれる。

次に、大学主体的分煙群は、F Cが低かったが、この自我は、親の影響をまったく受けていない、生まれながらの部分である。快樂原則に基づき、快感を求めて天真爛漫にふるまう。直感的な感覚や創造性の源であり、豊かな表現力は周囲に温かさ、明るさを与えるとしている<sup>77)</sup>。村松<sup>51)</sup>は女子大学生を対象として、交流分析により喫煙者と非喫煙者の心理的特徴を比較して、喫煙者は自分の思いのまま行動し(A Cが低い)、天真爛漫(F Cが高い)であったとしている。また、桃崎ら<sup>45)</sup>は飲酒者及び喫煙者は中・高校及び大学生共に未経験者に比べて現実吟味や批判力に欠け(A, C Pが低い)自由奔放であり(F Cが高い)非喫煙者に比べ、喫煙者によりその傾向がうかがえる。喫煙者のみに特徴的なものとして中・高校生男子の場合は思いやりに欠け(N Pが低い)又、高校男女は自己主張が強い傾向にある(A Cが低い)としている。これらの結果から、喫煙者はF Cが高く、A Cが低い者が多いといえる。これらの報告からも、喫煙者は、F Cが高いことがいえる。大学主体分煙群は、F Cが低いということは、非喫煙者と同様な自由奔放を押さえた自我状態にあることがうかがわれる。

以上のことから、自我状態の中では、分煙行動に対しては特に関

連要因はみられなかったが、主体的分煙行動においては、非主体的分煙群と比べ、NP、Aが高く、FCが低いものが多く、AやNPを高めることにより、主体性がでてくると考えられる。

## 第8節 分煙行動と知識・意識・行動

分煙行動の有無と知識・意識・行動との関連についてみると、図5のとおりであった。分煙群は、喫煙規制意識が高く、喫煙制限されていない場所での喫煙行動がよいというのが特色である。このことは分煙群は、他人のことや社会のことを考えることのできる社会的健康度が高い者であると考えられる<sup>82)</sup>。さらに、分煙群は将来の禁煙意識が高いことから、制限されている場所で分煙行動を積極的に進めることは、禁煙への対策として有効であり、また、分煙行動は受動喫煙の立場にいる非喫煙者だけではなく、喫煙者にとっても重要であることが考えられる<sup>43)</sup>。これに、対し、非分煙群は、喫煙は個人の自由と考えており、他者に対しての配慮や喫煙をあくまでも個人的問題としか考えていない。また、喫煙本数も多く、喫煙タイプからも、ニコチンによる身体依存度がかなり強く、禁煙場所であってもタバコを吸ってしまうことが考えられる。また、喫煙制限されていない場所では、マナーの悪い吸い方をしている。そして、日常生活については、アルバイトなどを行い、運動もしなく、

就寝時間も遅く、主観的に不健康と感じており、社会的にも、精神的にも不健康な者が多いことがうかがえる。

次に、主体的分煙群と非主体的分煙群の比較を行ったところ表 20 のごとくであった。主体的分煙群に多くみられ特徴というべき項目をあげると、喫煙場所では、他人の健康のために分煙を行っており、喫煙制限されている場所でも、分煙させられているというより、他人のためにしていると考えられる。その他には、喫煙所では他人に嫌な顔などをされるので分煙しており、他者への気づかいも感じられる。喫煙タイプでは、鎮静的・快楽的喫煙タイプの者が多く、喫煙制限されていない場所でのマナーがよく、老人や障害者に席を譲るということが特色であり、他者への思いやりがあると考えられる。川田は<sup>30)</sup>「喫煙に関する健康教育の目的は人々が自発的に禁煙・節煙の意義を認識して、意志決定し、禁煙・節煙行動をとり、それを持続させることである」としている。したがって、分煙行動を見るにあっても制限された場所で強制的に分煙させられているというのではなく、主体性を持って分煙行動ができるようになることが、喫煙者の健康意識を高めるという点からも非常に重要であると考えられる。

次に、非分煙行動から主体的分煙行動へ、ひいては禁煙という過程を想定して、各時点における要因を示すと図6のとおりである。非分煙群が高率に回答していた要因を非分煙関連要因、主体的分煙群が高率に回答していた要因を分煙関連要因として、知識、意識、行動についてみると、左側は禁煙に対してマイナスの非分煙関連要因、右側は分煙関連要因と考えた。非分煙関連要因としては、意識面では過去に禁煙した理由として「意志力を試す」や「医師からの注意」の2要因が、喫煙制限場所に対してはレストランをあげている。個人的な健康面では喫煙は個人の自由と考えており、成人男子の喫煙を肯定している。また、喫煙をアクセサリーという外見的な格好良さを意識している。行動面では、喫煙習慣は喫煙タイプの中でもかなり進んだ身体的にタバコを放せない耽溺的、自動的喫煙タイプの行動を示している。また、喫煙する時は近くに人がいても吸い、吸いがらは投げ捨て、歩きながら吸うといったマナーの悪さがある、日常行動においても就寝時刻が遅い、運動習慣がない、また、アルバイトを行っており、主観的な健康感も良くないといった要因が認められた。これらの非分煙・非主体的分煙の関連要因を多く持つ者は喫煙や非分煙行動が継続されることになるであろう。

一方、右側には分煙や禁煙にプラスの要因、即ち分煙関連要因を掲げた。意識面では将来禁煙したいと思っている者に対しての理由

において「タバコがまずくなった」の身体的理由が多く、また、禁煙場所で吸わない理由として「他人に嫌な顔をされる」という社会的圧力や「他人の健康を考えて」、「人のタバコの煙を吸わされる」といった受動喫煙を意識している。また、喫煙制限場所に対してはＪＲや病院などの公共機関や多くの人が集まる場所の他、居酒屋、喫茶点、遊戯場においても規制すべきという意識が強い、この社会的規制意識が強いことは分煙関連要因と異なる注目すべき要因である。一方、個人的には「吸う量を減らす」としている。行動面においては、喫煙タイプとしては喫煙進度からみて軽度から中程度の精神的依存の段階にある快楽的、鎮静的喫煙タイプの行動を示している。これは喫煙阻害要因では身体的にタバコがやめられない状態に進んでいることと比較し、大きく異なる要因である。喫煙時の状況では喫煙場所を確認して吸い、灰皿に入れるなど、規範的行動がみられ、また、日常生活においても乗り物の中で席をゆずるなど思いやりの精神がみられ、運動習慣や健康情報の入手にも積極的であるなどの要因が見られたこれらの主体的分煙関連要因は、禁煙の要因でもあり、禁煙行動への移行が期待される。

## 第 7 章 結 論

主体的な分煙行動の関連要因を明らかにするために大学生を対象に分煙行動に関する調査を行い以下のような結果を得た。

1) 対象者における喫煙率は 48.5%で 1 日の喫煙本数は 16 ～ 20 本の者が最も多く、禁煙を行ったことがある者は 61.7%であった。過去の禁煙理由の中では「健康に悪い」、「経済的理由」が高率であった。

2) 喫煙者の中で分煙行動を行っている者は、駅では 64.2%、大学では 15.4%であった。

3) 分煙行動を行っている者の中で、喫煙制限されていない場所でも分煙行動ができるという主体的分煙行動は、駅での分煙群の 18.8%、大学での分煙群の 26.5%であった。

4) 主体的分煙群と非主体的分煙群を比較して、知識・意識・行動について検討した結果

① 主体的分煙群は、喫煙と心筋梗塞との関係に関する知識を持っ

ていることが明かであった。他の知識については、差が認められなかった。

②意識との関連では、主体的分煙群は、将来の禁煙理由において「周囲の人の迷惑」や「タバコがまずくなった」であり、喫煙所での喫煙理由は「他人の健康を考えること」であった。また、公共機関や多くの人が集まる場所での喫煙規制や制限意識が高いことであった。一方、非主体的分煙群は、喫煙に対して「個人の自由だ」「タバコをアクセサリ」と考えていることが明らかであった。

③喫煙行動から喫煙タイプを判定すると主体的分煙群は、喫煙段階7段階のうちの3段階にある快楽的喫煙タイプであった。また、喫煙制限されていない場所では「タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる」、「喫煙場所か否か確認して吸う」という行動であった。それに対し、非主体的分煙群は喫煙制限されていない場所では「近くに人がいてもタバコを吸う」、「歩きながらタバコを吸う」、「タバコを投げ捨てる」という行動が顕著であった。

④日常生活行動の中で主体的分煙群は「自動車に乗るときシートベルトをする」、「健康情報をよく得る」、「老人や障害者に席を譲る」という行動をする者が顕著であった。

5) 交流分析における自我状態について、主体的分煙群は、保護的

N P や 冷 静、 客 観 的 A が 高 く、 F C が 低 か っ た。

以上のことから、主体的に分煙行動を引き出す上で、喫煙を個人の問題だけではなく、他者への健康を考慮することや喫煙規制意識を高めることや規範的行動がとれることが係わる要因として考えられた。

## 第 8 章 要 約

喫煙は喫煙者には成人病への危険因子として、また、非喫煙者に対しても受動喫煙による、多くの疾患との危険度が増すことが明らかにされた。近年では、公共の場所を中心として喫煙空間を制限するなどの分煙対策がとられており、健康づくりを進める上で重要な問題となっている。

そこで本調査では大学生を対象に分煙行動に関わる要因を検討し、主体的に分煙行動を引き出す上で有効な要因を明らかにし、非喫煙者の受動喫煙の予防や喫煙者への禁煙教育の資料を得ることを目的とした。

研究方法は、質問紙法による集合調査を行い、1993年6月下旬に関東圏内6校の大学生3286人を対象とした。このうち男子大学生2,200名を分析対象とした。有効回答数は2,055名で93.4%であった。

質問紙は喫煙状況、大学内および駅での分煙行動、喫煙制限されていない場所での分煙行動、喫煙に対する知識、意識、日常生活などで構成され、自我状態については東大式エゴグラムを用いた。

その結果は以下のとおりであった：

- 1) 喫煙者は996名(48.5%)の学生にみられた。
- 2) 喫煙者の分煙行動をみると、喫煙制限のある場所としての駅では64.2%の者(駅分煙群)、大学では15.4%の者(大学分煙群)が

できていた。喫煙制限されていない場所で主体的に分煙行動ができる者は、駅分煙群の 18.8%の者、大学分煙群の 26.5%の者がであった。

3) 主体的分煙行動の意識面での関連要因は、喫煙に対する規制の意識が高くこれは、禁煙の要因と一致していた。さらに関連要因として、他人の健康を考えながら喫煙していることがわかった。

4) 主体的分煙行動の行動面での関連要因は、喫煙に係るものとしては、喫煙制限されていない場所でタバコの灰を灰皿に入れることや、喫煙してよいか確認するなどの行動また、日常生活においては老人に席を譲るなどといった規範的な行動がとれる者、が多かった。

以上のことから、主体的に分煙行動を引き出す上で、喫煙を個人の問題だけではなく、他者への健康を考えることや喫煙規制意識を高めることや規範的行動がとれることが係わる要因として考えられ、場所をわきまえての喫煙がそうでない場合よりも節煙につながり、さらに禁煙への可能性が示唆された。

## 謝 辞

本研究を終えるにあたり、終始ご指導と、あたたかい励ましを賜りました大津一義助教授に対して、心から深く感謝申し上げます。

常にあたたかく見守り有難いご助言をいただき、かつ審査していただいた鈴木克明教授、野原三洋子教授、ならびに中島宣行助教授に謹んで感謝申し上げます。

また、調査、集計、分析などに際し、ひとかたならぬご尽力をいただきました柳田美子先生に深く御礼申し上げます。

本調査の実施にご協力いただいた、大学生のみなさんに厚く御礼申し上げます。

さらに、研究期間中における本学の諸先生方のご援助、ご協力に対し、感謝申し上げます。

最後に、お手数をおかけした図書館ならびに事務局職員の皆様、何かとお手伝い下さった、同研究室の関口淳君ならびに健康教育ゼミの学生諸君、そして、依岡篤史君をはじめ院生一同の大いなる友情に、心から感謝をいたします。

# 文 献

- 1) 赤羽 恵一, 穴田 喜美子, 他: 保健所における禁煙個別指導の効果に関する研究. 日本公衛誌, 39, (4), 199-204, (1992)
- 2) 安栄鉄男: 大学生の喫煙について. 学校保健研究, 11, (7), 317-321, (1969)
- 3) 浅野牧茂: 喫煙者と受動喫煙. からだの科学, 151, 70-75, (1990)
- 4) 浅野牧茂: タバコの健康学, 第1版. 47, 大修館書店: 東京 (1985)
- 5) Breslow, L.: Persistence of Health Habits and Their Relationship to Mortality. PREVENTIVE MEDICINE, 9, 469-483, (1980)
- 6) Doll, R. Peto, R.: The causes of cancer: Quantative estimates at avoidable risk of cancer in the United States today: USA (1981) - 星 旦二 他訳: がんの原因. 公衆衛生, 49, (3), 208-210, (1985) より引用
- 7) 江口篤寿, 岸本弘子: 喫煙に関する知識と行動について. 学校保健研究, 35, (10), 146, (1988)
- 8) 藤沢邦彦: 健康阻害要因に対する意識と保健行動 - 大学生の場合 -. 筑波大学体育科学系紀要, 7, 239-249, (1984)
- 9) 藤沢邦彦, 栗原 淳: 生きがいと寿命に関する意識調査 - 某大学一年生の場合 -. 筑波大学体育科学系紀要, 11, 305-314, (1988)
- 10) 福田勝洋, 石井慶蔵, 他: 喫煙コントロールに関する意識調査. 公衆衛生, 44, (8), 586-590, (1980)
- 11) 萩原明人, 森本兼義: ライフスタイルと嫌煙権意識 (第1報) - とくに喫煙規制措置に関する法意識の知識側面との関わりについて -. 日衛誌, 44, (6), 1073-1082, (1990)
- 12) 萩原明人, 森本兼義: ライフスタイルと嫌煙権意識 (第2報) 1 部上場企業従業員の喫煙規制措置に関する法意識の知識側面とライフスタイルとの関わり. 産業医学, 32, (2), 125-134, (1990)
- 13) Hanley J.A., Robinson J.C.: Cigarette smoking and the young a national survey. Canad. Med. Ass. J. 114, 511-514, (1976)
- 14) 編集部: 電車の駅の禁煙対策の実態. 労働の科学, 43, (5), 26-28, (1988)
- 15) 平山 雄: 地域保健と喫煙予防. 学校保健研究, 24, (12), 568-573, (1982)
- 16) 平山 雄: 受動喫煙の健康影響. 労働の科学, 43, (5), 4-11, (1988)

- 17) Hirayama, T.: Non-smoking wives of heavy smokers have a higher risk of lung cancer. Br. Med. j., 282, 183-185, (1981)
- 18) Horn, D.: A model for the study of personal choice health behaviour. International Journal of Health Education, 19, (2), 89-98, (1976)
- 19) Hunter, S.M. Baugh, J.G. Webber, L.S. Sklov, M.C. and Berenson, G.S.: Social learning effects on trial and adoption of cigarette smoking in children-The Bogalusa heart study, Preventive Medicine .11, 1982.
- 20) 伊津野孝, 吉田勝美, 島田直樹, 武藤孝司: 喫煙行動変容に関する健康行動, 健康意識の解析. 日本公衛誌, 37, (5), 308-314, (1990)
- 21) 岩井浩一, 藤沢邦彦: 保健行動の分類と要因モデル. 学校保健研究, 26, (1), 35-44, (1984)
- 22) 伊佐山芳郎: 嫌煙権を考える, 第1版. 38, 岩波新書: 東京 (1983)
- 23) 加藤英世, 水野浩継, 他: 妊婦の喫煙行動と意識, 保健の科学, 30, (2), 119-125, (1988)
- 24) 川畑徹朗: 学校健康教育と「喫煙防止教育」. 健康管理, 396, 23-25, (1987)
- 25) 川畑徹朗, 黒羽弥生, 高橋浩之, 高石昌弘: 学校保健教育における「喫煙と健康」に関する教育についての研究. 東京大学教育学部紀要, 22, 141-170, (1982)
- 26) 川畑徹朗, 丸谷宣子, 中村正和, 大島明, 日山興彦: 青少年の喫煙・飲酒行動ー日本 K Y B 健康調査の結果よりー. 学校保健研究, 32, (10), 116, (1990)
- 27) 川上憲人, 金子哲也, 小泉 明: 喫煙歴と禁煙行動について. 日衛誌, 40, (1), 292, (1985)
- 28) 川上憲人, 金子哲也, 星旦二, 小泉明: 勤労者の喫煙中断行動に關与する要因について. 日本公衛誌, 34, (2), 63-71, (1987)
- 29) 川上憲人, 小泉明, 金子哲也: 喫煙中断行動に關与する要因について. 日本公衛誌, 32, (10), 305, (1985)
- 30) 川田智恵子: タバコと健康. 公衆衛生, 50, (4), 220-223, (1986)
- 31) 木村菊二: 喫煙と室内空気汚染. 労働の科学, 43, (5), 12-18, (1988)
- 32) 木根渕英雄, 柳修平: 地方都市女子大学生の喫煙に対する態度. 学校保健研究, 31, (2), 96-100, (1989)
- 33) 厚生省 編: 喫煙と健康ー喫煙と健康問題に関する報告書ー, 第1版 321-332, 保健同人社: 東京 (1987)

- 34) 厚生省 編：喫煙と健康 ―喫煙と健康問題に関する報告書―，第2版，196-198，保健同人社：東京(1993)
- 35) 厚生統計協会 編：国民衛生の動向 1993年．厚生の指標，40，(9)，52，(1993)
- 35) 厚生統計協会 編：前掲書 74
- 36) 厚生統計協会 編：前掲書 100
- 37) 小笹晃太郎，東あかね，他：人間ドックにおける禁煙啓発の効果に関する研究．日本公衛誌，38，(1)，45-51，(1991)
- 38) 埋忠洋一：喫煙の諸問題―功罪を含めて―．健康管理，392，4-16，(1987)
- 39) McGuffin, S. J.: Smoking-the knowledge and behavior of young people in Northern Ireland, Health Education Journal .41, no. 2, 1982
- 40) 皆川興栄，知久 忍：大学生の喫煙意識と喫煙行動．新潟大学教育学部紀要，26，(2)，425-433，(1984)
- 41) 皆川興栄：教育・医学・歯学・薬学系大学の喫煙問題の動き．新潟大学教育学部系紀要，25，(2)，463-469，(1983)
- 42) 箕輪真澄：成人による受動喫煙の健康影響．Public Health，41，(1)，149-171，(1992)
- 43) 三宅浩次，福田勝洋：禁煙法．からだの科学，93(2)，103-107，(1980)
- 44) 宮崎恭一，野上浩志，大島 明，中村正和：わが国の職場の分煙・禁煙状況．日本公衛誌，39，(10)，44，(1992)
- 45) 桃崎一政，大津一義，柳田美子：青少年の喫煙行動に影響を及ぼす要因に関する研究．学校保健研究，29，(Suppl)，153，(1987)
- 46) 森 亨，小川浩：喫煙の心理行動に関する調査研究．昭和56年度健康づくり等調査研究報告書，1-30，(1981)
- 47) 森本兼義，星 且二：生活習慣と健康 ライフスタイルの科学．4，HBJ出版局：東京(1989)
- 48) 村松常司，森田 穰，村松園江，小島淳仁，高橋邦朗，伊藤章：喫煙の経験，習慣に影響を及ぼす諸要因の研究 第2報 男子大学新入生について．学校保健研究，18，(1)，34-39，(1976)
- 49) 村松常司，森田 穰，村松園江，小島淳仁，高橋邦朗，伊藤章：喫煙の経験，習慣に影響を及ぼす諸要因の研究 第2報 男子大学新入生について．学校保健研究，18，(1)，34-39，(1976)
- 50) 村松園江：女子学生の喫煙行動と生活習慣の係わりに関する研究(第1報) 生活習慣および喫煙に対する意識について．日本公衛誌，32，(11)，675-686，(1985)
- 51) 村松園江：女子学生の喫煙行動と生活習慣の関わりに関する研

- 究（第2報）エゴグラムの比較と喫煙モデルの検討．日本公衛誌，32，(12)，725-729，(1985)
- 52) 日本タバコ産業：平成5年度全国タバコ喫煙者率調査，(1993)
- 53) 野上浩志，宮崎恭一，横田文吉，大島明，中村正和：「子供に無煙環境を！全国キャンペーン」の実施と学校保健的，公衆衛生的意義．学校保健研究，32，(2)，93-101，(1990)
- 54) 野原三洋子，土屋基：喫煙の現状と意識・態度－健康科学を志向する大学1年生を中心として－．順天堂大学保健体育紀要，34，19-31，(1992)
- 55) 野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究 第3報－高校生の喫煙に関する態度・Beliefについて－．学校保健研究，28，(8)，390-400，(1986)
- 56) 小川浩：喫煙の心理．公衆衛生，50，(4)，236-244，(1986)
- 57) 小川浩，森亨，島尾忠男，田中慶司：禁煙の動機づけに関する研究(1)．日本公衛誌，29，(10)，256，(1982)
- 58) 小川浩，宮崎恭一，林高春：5日間禁煙教室受講会の成績．日本公衛誌，35，(2)，80-84，(1988)
- 59) 小川浩，宮崎恭一，林高春：5日間禁煙教室受講者の追跡調査(2) 禁煙成功・失敗の関連要因．日本公衛誌，34，(10)，113，(1987)
- 60) 小川浩，富永祐民，青木国雄：禁煙者の健康状態、性格、飲食習慣、社会的背景にみられる特徴．日本公衛誌，29，(10)，255，(1982)
- 61) 小川浩：喫煙の健康リスク．からだの科学，162，39-43，(1992)
- 62) 大津一義，柳田美子：高校生の喫煙タイプに関する研究－第1報 男子生徒について－．順天堂大学保健体育紀要，32，79-89，(1989)
- 63) Kazuyosi OHTSU, Kazumasa MOMOZAKI and Yosiko YANAGIDA: A Study on Factors Concerning Smoking Behavior, Juntendo University Bulletin of Health and Physical Education, 30, 23-33, (1987)
- 64) Rosen, T. J. and Shipley, R. H: A stage analysis of self-initiated smoking reductions, Addictive Behaviors, 8, 263-272, (1983)
- 65) Russell, M. A. H: The classification smoking by factorial structures of motives. Royal Stat. Soc. (A), 137, 313-333, (1974)
- 66) 佐藤博：タバコのニコチン作用．からだの科学，151，65-69，(1990)

- 67) 斎藤麗子：増加する女性・未成年者の喫煙．保健婦雑誌，44，(4)，23-28，(1988)
- 68) 斎藤麗子，浅野牧茂，大島 明，箕輪眞澄：医学部における喫煙規制状況（1992年）．日本公衛誌，40，(10)，981-984，(1993)
- 69) 芹沢幹雄，渡辺 功：女子大生の喫煙に関する調査．学校保健研究，19，(9)，445-450，(1977)
- 70) 白川充，大山秀夫，他：某大学学生の喫煙に対する態度についての調査成績．日本公衛誌，14，(6)，219-220，(1967)
- 71) 七田恵子，芳賀博，他：老人の禁煙理由と健康状況．日本公衛誌，29，(10)，258，(1982)
- 72) 島尾忠男：禁煙への行動科学的アプローチ．公衆衛生，55，(10)，691-694，(1991)
- 73) D.B.Stone and W.J.Huffman: A Replication of The Horn Study on Youth Smoking in 1967. A Report of the University of Illinois Anti-Smoking Education Study, 1970.
- 74) 末松弘行，和田迪子，野村 忍，俵 里英子：エゴグラム・パターン—TEG東大式エゴグラムによる性格分析—，第7版．2，金子書房：東京(1993)
- 75) 末松弘行，野村 忍，和田迪子：TEG＜東大式エゴグラム＞手引，第2版．14，金子書房：東京(1993)
- 76) 末松弘行，野村 忍，和田迪子：前掲書 (74) 14
- 77) 末松弘行，野村 忍，和田迪子：前掲書 (74) 15
- 78) SURGEON GENERAL REPORT.USA: Smoking control policy 1989: USA, (1989) — 星 旦二：たばこの煙からの社会的な保護対策，Bull.Inst.Public Health, 41，(2)，192-197，(1992)より引用
- 79) 高橋浩之：青少年の喫煙行動に影響を与える要因について．体育の科学，35，(12)，935-939，(1983)
- 80) 高橋 謙，岩田 昇，他：職場での受動喫煙に対する非喫煙者の迷惑意識と喫煙者の気配り意識．日本公衛誌，39，(6)，347-354，(1992)
- 81) 田中恒男：喫煙と健康．学校保健研究，24，(12)，578-579，(1982)
- 82) 田中純子，杉本文子，前田ひろみ，鎌田俊彦，平岡幸夫，奥田久徳：女子短期大学生における喫煙習慣の形成要因に関する研究．学校保健研究，30，(4)，196-204，(1988)
- 83) 多々納秀雄，徳永幹雄，橋本公雄：喫煙行動の形成・変容過程に関する考察．健康科学，7，11-28，(1985)
- 84) 照屋博行：保健体育科専攻学生の喫煙状況と喫煙に対する意識調査．福岡教育大学紀要，37，(5)，83-91，(1988)

- 85) 泊 惇：喫煙習慣と社会心理的要因。公衆衛生，53，(2)，133-139，(1989)
- 86) 富永祐民，小川浩：成人男子喫煙者の喫煙に関する知識と態度。日衛誌，26，(10)，649，(1979)
- 87) 内山 源：中学・高校生の喫煙行動と保健教育における喫煙害の構造。健康教室，432，113-127，(1981)
- 88) Washington D.C., U.S. Government Printing Office: U.S. Department of Health, Education and health: A report to the Surgeon General, DHEW Publication No. PHS 79-50066, 19，(1)，63，(1979)
- 89) 渡辺 登：喫煙効果と禁煙対策。日本医事新報，3327，29-34，(1988)
- 90) 渡辺毅，山添悦子，加納克己，浅井克安：一総合大学における学生の喫煙行動に関する調査研究。公衆衛生，46，(8)，572-575，(1982)
- 91) 横田正義：青少年の喫煙について（第1報）教育大学学生における喫煙の実態。北海道教育大学紀要（第2部C），41，(1)，21-34，(1990)
- 92) 吉田峯子，辻勝流：喫煙に関する保健科学生の意識調査。日本公衛誌，28，(10)，Suppl, 490，(1981)

A Study On Factors Concerning "Separate Smoking Behaviour"  
Among College Students

KAZUHIRO AOKI

Summary

In order to get the data related to antismoking education, the author carried out a survey on the factors connected voluntary 'separated smoking behaviour'.

Methods of the survey were as follows;

The survey were carried out on June in 1993 and the objects were 2200 students of 6 universities in Kantou area. The objects answered to questionnaire which consisted of present condition of smoking habits, as to separated smoking behavior in limited places of smoking( for example at the station or at the campus of each university ) and in no limited places, knowledge and consciousness as to smoking, and the way of leading daily lives. Adding to the questionnaire, TEG( Ego-gram by system of the University of Tokyo ) were answered too.

2055 were useful answers (93.4% of 2200 ).

The results were as follows:

1. Smoking rate was 48.5%(996) of total number, 2055
2. There were 3 types of smokers. Type one was the smokers who smoke at the separate places (were called 'separate smoker') and type 2 was 'occasional separate smokers' and type 3 was the smokers who smoked without considering of separately ('no separate smoker').

64.2% of the smokers were separate smokers in the stations where there were smoking limited

place, and 15.4 % of those were separate ones in their campus.

18.8% among the separate smokers at the stations were voluntary separate smokers in there and 26.5% among those in the campus were voluntary separate

smokers in there.

3. Leading separate smoking behaviour voluntarily, related factors as to consciousness were 'high consciousness of smoking restriction' and 'consideration of health of the others'.
4. Leading separate smoking behaviour voluntarily, related factors as to behaviour were 'dumping ash of cigarette into the ash tray' and 'making sure that there was smoking place or not'.

Concerning with those factors as to behaviour in daily lives, there were many students who had normal social manner ,for example, to offer his seat to an old person.

From the above, it was concluded that in order to bring out behaviour of voluntary separate smoking, smoking was not only individual problem but also social problem , and considering health of the others, having high consciousness of smoking restriction and acting normally were important factors for decreasing number of cigarette and bringing to antismoking.

表 1 対象者の年齢構成 N=2055

|       | 人数  | %      |
|-------|-----|--------|
| 18才   | 283 | (13.8) |
| 19才   | 543 | (26.4) |
| 20才   | 658 | (32.0) |
| 21才   | 401 | (19.5) |
| 22才   | 118 | (5.7)  |
| 23才   | 37  | (1.8)  |
| 24才以上 | 15  | (0.7)  |

表 2 対象者の所属大学 N=2055

|     | 人数  | %      |
|-----|-----|--------|
| A大学 | 233 | (11.3) |
| B大学 | 626 | (30.5) |
| C大学 | 540 | (26.3) |
| D大学 | 396 | (19.3) |
| E大学 | 188 | (9.1)  |
| F大学 | 72  | (3.5)  |

表 3 対象者の所属学部 N=2055

| 学部  | 人数  | %      |
|-----|-----|--------|
| 体 育 | 861 | (41.6) |
| 工 学 | 377 | (18.3) |
| 経 済 | 234 | (11.4) |
| 文 学 | 223 | (10.9) |
| 法 学 | 119 | (5.8)  |
| 農 学 | 71  | (3.5)  |
| 経 営 | 72  | (3.5)  |
| 教 育 | 55  | (2.7)  |
| 医 学 | 43  | (2.1)  |

表 4 対象者の住居の場所 N=2054

|      | 人数   | %      |
|------|------|--------|
| 工業地帯 | 28   | (1.4)  |
| 商業地帯 | 71   | (3.5)  |
| 住宅地帯 | 1574 | (76.6) |
| 団地地帯 | 186  | (9.1)  |
| 農村地帯 | 128  | (6.2)  |
| 山村地帯 | 25   | (1.2)  |
| 漁村地帯 | 4    | (0.2)  |
| その他  | 38   | (1.9)  |

表 5 対象者の住居形態 N=2055

|      | 人数  | %      |
|------|-----|--------|
| 自宅   | 886 | (43.1) |
| 下宿   | 139 | (6.8)  |
| 寮    | 192 | (9.3)  |
| アパート | 808 | (39.3) |
| その他  | 30  | (1.5)  |

表 6 対象者の同居者 N=2052

|       | 人数  | %      |
|-------|-----|--------|
| 1人    | 925 | (45.1) |
| 家族    | 933 | (45.5) |
| 友人・仲間 | 172 | (8.4)  |
| その他   | 22  | (1.1)  |

表 7 対象者の主観的健康感 N=2052

|          | 人数   | %      |
|----------|------|--------|
| 非常に健康    | 560  | (27.3) |
| まあ健康     | 1237 | (60.2) |
| どちらかといえば |      |        |
| 不健康      | 208  | (10.1) |
| 不健康      | 49   | ( 2.4) |

表 8 喫煙率 N=2055

|        | 人数  | %      |
|--------|-----|--------|
| ほぼ毎日吸う | 908 | (44.2) |
| 時々吸う   | 88  | ( 4.3) |
| やめた    | 135 | ( 6.6) |
| 吸わない   | 924 | (45.0) |

表 9 喫煙者の喫煙本数 N=988

|           | 人数  | %      |
|-----------|-----|--------|
| 1 ～ 5 本   | 140 | (14.2) |
| 6 ～ 10 本  | 178 | (18.0) |
| 11 ～ 15 本 | 192 | (19.4) |
| 16 ～ 20 本 | 347 | (35.1) |
| 21 本以上    | 131 | (13.3) |

表 10 喫煙者の禁煙経験 N=993

|          | 人数    | %      |
|----------|-------|--------|
| 禁煙経験     |       |        |
| あり       | 612   | (61.7) |
| なし       | 381   | (38.3) |
| 禁煙回数     | N=612 |        |
| 1 回      | 179   | (29.3) |
| 2 ～ 5 回  | 347   | (56.8) |
| 6 ～ 10 回 | 39    | ( 6.4) |
| 10 回以上   | 46    | ( 7.5) |
| 禁煙理由     | N=612 |        |
| 病気をした    | 71    | (11.6) |
| 健康に悪い    | 335   | (54.7) |
| 経済的理由    | 165   | (27.0) |
| まずくなった   | 76    | (12.4) |
| 医師の注意    | 14    | ( 2.3) |
| 家族・知人の注意 | 98    | (16.0) |
| 周囲の迷惑    | 36    | ( 5.9) |
| 意志力を試す   | 148   | (24.2) |
| その他      | 74    | (12.1) |

表 11 喫煙者の禁煙意識 N=993

|          | 人数  | %      |
|----------|-----|--------|
| 将来の禁煙    |     |        |
| 絶対したい    | 225 | (22.7) |
| できれば     | 500 | (50.4) |
| 無理       | 140 | (14.1) |
| 絶対しない    | 128 | (12.9) |
| 禁煙理由     |     |        |
| 病気をした    | 25  | ( 2.5) |
| 健康に悪い    | 661 | (66.6) |
| 経済的理由    | 209 | (21.0) |
| まずくなった   | 34  | ( 3.4) |
| 医師の注意    | 12  | ( 1.2) |
| 家族・知人の注意 | 77  | ( 7.8) |
| 周囲の迷惑    | 164 | (16.5) |
| 意志力を試す   | 72  | ( 7.3) |
| その他      | 26  | ( 2.6) |

表 12 調査対象者の分煙行動状況

|       | 駅 人数 (%)<br>(N=884) | 大学 人数 (%)<br>(N=882) |
|-------|---------------------|----------------------|
| 分煙群   | 568 (64.2)          | 136 (15.4)           |
| 時々分煙群 | 249 (28.2)          | 578 (65.5)           |
| 非分煙群  | 67 ( 7.6)           | 168 (19.1)           |

表 13 調査対象者の主体的分煙行動状況

|          | 駅分煙群(N=568)<br>人数 (%) | 大学分煙群(N=136)<br>人数 (%) |
|----------|-----------------------|------------------------|
| 主体的分煙群   | 107 (18.8)            | 36 (26.5)              |
| 主体的時々分煙群 | 282 (49.6)            | 65 (47.8)              |
| 非主体的分煙群  | 179 (31.5)            | 35 (25.7)              |

表 1 4 分煙行動と喫煙の知識との関係

(駅：N=884 大学：N=882) (%)

|               | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|---------------|------|------|------|-------|------|------|
| 喫煙の知識         |      |      |      |       |      |      |
| 血压や皮膚温の変化     |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 9.3  | 9.2  | 10.4 | 11.8  | 9.7  | 6.0  |
| 不正解           | 69.9 | 66.3 | 67.2 | 69.9  | 66.6 | 75.6 |
| わからない         | 20.8 | 24.5 | 22.4 | 18.4  | 23.7 | 18.5 |
| 胃潰瘍との関係       |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 29.8 | 26.1 | 26.9 | 25.0  | 27.7 | 35.1 |
| 不正解           | 23.6 | 26.5 | 31.3 | 22.8  | 25.8 | 23.2 |
| わからない         | 46.7 | 47.4 | 41.8 | 52.2  | 46.5 | 41.7 |
| 心筋梗塞との関係      |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 53.0 | 49.8 | 61.2 | 55.9  | 51.6 | 54.8 |
| 不正解           | 12.9 | 8.4  | 10.4 | 11.0  | 11.4 | 11.3 |
| わからない         | 34.2 | 41.8 | 28.4 | 33.1  | 37.0 | 33.9 |
| 受動喫煙について      |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 45.2 | 39.4 | 41.8 | 47.1  | 42.0 | 44.6 |
| 不正解           | 12.5 | 12.9 | 10.4 | 12.5  | 12.5 | 12.5 |
| わからない         | 42.3 | 47.8 | 47.8 | 40.4  | 45.5 | 42.9 |
| 副流煙の害について     |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 81.9 | 86.7 | 83.6 | 80.1  | 83.7 | 84.5 |
| 不正解           | 6.0  | 4.0  | 3.0  | 8.1   | 4.5  | 5.4  |
| わからない         | 12.1 | 9.2  | 13.4 | 11.8  | 11.8 | 10.1 |
| 鉄道の禁煙車内での法知識  |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 33.1 | 29.7 | 22.4 | 36.0  | 29.4 | 33.9 |
| 不正解           | 18.5 | 23.3 | 25.4 | 15.4  | 20.2 | 25.0 |
| わからない         | 48.4 | 47.0 | 52.2 | 48.5  | 50.3 | 41.1 |
| 事業所での喫煙対策の法知識 |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 52.5 | 55.0 | 49.3 | 51.5  | 50.7 | 62.5 |
| 不正解           | 9.2  | 8.4  | 7.5  | 9.6   | 9.3  | 6.5  |
| わからない         | 38.4 | 36.5 | 43.3 | 39.0  | 40.0 | 31.0 |
| 知的作業能率について    |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 59.2 | 55.4 | 53.7 | 61.8  | 54.7 | 64.3 |
| 不正解           | 15.5 | 18.9 | 14.9 | 18.4  | 16.6 | 14.3 |
| わからない         | 25.4 | 25.7 | 31.3 | 19.9  | 28.7 | 21.4 |
| タールについて       |      |      |      |       |      |      |
| 正解            | 51.9 | 55.4 | 56.7 | 51.5  | 52.6 | 57.1 |
| 不正解           | 15.0 | 12.0 | 13.4 | 12.5  | 13.8 | 16.1 |
| わからない         | 33.1 | 32.5 | 29.9 | 36.0  | 33.6 | 26.8 |
| ニコチンについて      |      |      |      |       |      |      |
|               |      |      |      | *     |      |      |
| 正解            | 13.4 | 6.4  | 10.4 | 14.7  | 10.6 | 10.7 |
| 不正解           | 59.0 | 63.9 | 61.2 | 54.4  | 59.5 | 69.0 |
| わからない         | 27.6 | 29.7 | 28.4 | 30.9  | 29.9 | 20.2 |

X<sup>2</sup> TEST : \* P<0.05

表 15-1 分煙行動と禁煙経験・理由との関係

(駅：N=884 大学：N=882) (%)

|            | 駅分煙群   | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群  | 時々群  | 非分煙群 |
|------------|--------|------|------|--------|------|------|
| 禁煙経験       |        |      |      |        |      |      |
| あり         | 60.6   | 67.5 | 55.2 | 59.6   | 62.5 | 61.9 |
| 禁煙回数       |        |      |      |        |      |      |
| 1回         | 28.7   | 28.6 | 29.7 | 27.5   | 28.8 | 28.8 |
| 2～5回       | 57.3   | 57.1 | 59.5 | 56.3   | 57.6 | 58.7 |
| 6～10回      | 7.0    | 8.3  | 0.0  | 10.0   | 6.9  | 4.8  |
| 10回以上      | 7.0    | 6.0  | 10.8 | 6.3    | 6.6  | 7.7  |
| 禁煙理由（複数回答） |        |      |      |        |      |      |
| 病気をした      | 10.8   | 13.7 | 13.5 | 9.9    | 11.6 | 14.4 |
| 健康に悪い      | 57.3   | 53.0 | 48.6 | 56.8   | 56.2 | 51.9 |
| 経済的理由      | * 31.4 | 20.2 | 29.7 | 32.1   | 28.5 | 23.1 |
| タバコがまずくなった | 13.7   | 9.5  | 8.1  | 14.8   | 12.2 | 9.6  |
| 医師の注意      | * 1.2  | 4.8  | 2.7  | * 0.0  | 1.9  | 5.8  |
| 家族・知人の注意   | 16.9   | 15.5 | 18.9 | 17.3   | 16.9 | 15.4 |
| 周囲の人の迷惑    | 7.0    | 3.0  | 5.4  | 9.9    | 5.8  | 1.9  |
| 意志力を試す     | 23.8   | 30.4 | 16.2 | ** 9.9 | 28.8 | 26.0 |
| その他        | 11.3   | 13.1 | 21.6 | 12.3   | 11.6 | 16.3 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 15-2 分煙行動と将来の禁煙意識・理由との関係

(駅：N=883 大学：N=881) (%)

|            | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群   | 時々群  | 非分煙群 |
|------------|------|------|------|---------|------|------|
| 将来の禁煙      | **   |      |      | *       |      |      |
| 絶対したい      | 24.0 | 18.9 | 23.9 | 29.6    | 22.3 | 16.7 |
| できればしたい    | 49.0 | 54.6 | 40.3 | 44.4    | 47.9 | 61.3 |
| 無理だろう      | 12.2 | 16.9 | 25.4 | 12.6    | 15.7 | 12.5 |
| 絶対しない      | 14.8 | 9.6  | 10.4 | 13.3    | 14.0 | 9.5  |
| 将来の禁煙理由    |      |      |      |         |      |      |
| 病気をした      | 2.1  | 4.4  | 1.5  | 1.5     | 2.6  | 4.2  |
| 健康に悪い      | 66.3 | 68.7 | 62.7 | 61.5    | 68.3 | 65.5 |
| 経済的理由      | 22.8 | 19.7 | 23.9 | 18.5    | 23.6 | 20.2 |
| タバコがまずくなった | 4.1  | 3.2  | 3.0  | * 7.4   | 3.5  | 1.8  |
| 医師の注意      | 0.7  | 1.6  | 1.5  | 0.0     | 0.9  | 2.4  |
| 家族・知人の注意   | 7.4  | 9.6  | 11.9 | 4.4     | 9.2  | 8.3  |
| 周囲の人の迷惑    | 19.0 | 15.3 | 10.4 | ** 25.9 | 17.1 | 11.3 |
| 意志力を試す     | 7.8  | 7.6  | 10.4 | 8.1     | 8.0  | 7.7  |
| その他        | 2.1  | 2.8  | 4.5  | 2.2     | 2.1  | 4.2  |

X<sup>2</sup> TEST : \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 15-3 分煙行動と喫煙所での喫煙行動の理由との関係 (駅：N=882 大学：N=879) (%)

|                |     | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |     | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|----------------|-----|------|------|------|-----|-------|------|------|
| 喫煙所での喫煙行動の理由   |     |      |      |      |     |       |      |      |
| 他人への迷惑を考える     | *** | 87.5 | 68.3 | 53.7 | **  | 86.8  | 79.9 | 72.5 |
| 他人の健康を考える      | **  | 34.5 | 24.5 | 25.4 | *** | 48.5  | 28.0 | 26.9 |
| 禁煙場所           | *** | 87.3 | 59.4 | 52.2 |     | 80.1  | 77.2 | 73.7 |
| 他人に嫌な顔などをされる   | *** | 41.0 | 28.1 | 25.4 |     | 39.0  | 35.3 | 37.1 |
| 人のタバコの煙を吸わされる  |     | 22.4 | 18.5 | 19.4 |     | 26.5  | 20.2 | 19.2 |
| 人が少ない、あるいは多い   |     | 38.0 | 42.6 | 44.8 |     | 42.6  | 39.8 | 38.3 |
| 禁煙所でも吸っている人がいる | *** | 24.3 | 43.8 | 40.3 |     | 29.4  | 30.1 | 35.9 |
| 禁煙場所か否か、気にしない  | *** | 7.7  | 29.3 | 44.8 |     | 12.5  | 16.3 | 21.0 |
| 喫煙は個人の自由       | *** | 24.3 | 44.2 | 62.7 |     | 31.6  | 33.2 | 32.9 |
| タバコの吸いながら落ちてる  | *** | 13.0 | 26.5 | 35.8 |     | 19.1  | 18.2 | 19.8 |
| 病気をした          |     | 7.9  | 9.6  | 9.0  |     | 9.6   | 7.3  | 12.0 |
| 健康に悪い          |     | 35.9 | 39.4 | 34.3 |     | 39.0  | 35.8 | 38.9 |
| 経済的理由          |     | 22.2 | 19.7 | 22.4 |     | 26.5  | 20.8 | 20.4 |
| 医師の注意          |     | 5.5  | 8.4  | 7.5  |     | 6.6   | 6.4  | 6.6  |
| 家族・知人の注意       | *   | 11.6 | 18.5 | 11.9 |     | 16.9  | 12.5 | 15.0 |
| 吸う量を減らすため      |     | 29.8 | 32.1 | 26.9 |     | 30.9  | 30.0 | 31.1 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \*P<0.05

表 15-4 分煙行動と喫煙に対する意識との関係 (1) (駅：N=884 大学：N=882) (%)

|                  | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|------------------|------|------|------|-------|------|------|
| 迷惑をかけなければ吸ってもよい  |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 51.2 | 49.4 | 53.7 | 43.4  | 53.1 | 50.0 |
| やや思う             | 38.4 | 41.0 | 32.8 | 49.3  | 36.7 | 36.9 |
| あまり思わない          | 7.4  | 6.8  | 9.0  | 4.4   | 7.3  | 10.1 |
| 思わない             | 3.0  | 2.8  | 4.5  | 2.9   | 2.9  | 3.0  |
| 喫煙は個人の自由である      | *    |      |      | **    |      |      |
| とても思う            | 21.0 | 27.3 | 38.8 | 12.5  | 25.6 | 28.6 |
| やや思う             | 41.5 | 42.6 | 35.8 | 42.6  | 41.5 | 40.5 |
| あまり思わない          | 24.8 | 22.5 | 16.4 | 29.4  | 21.8 | 24.4 |
| 思わない             | 12.7 | 7.6  | 9.0  | 15.4  | 11.1 | 6.5  |
| 人が集まる場所は喫煙規制すべきだ | *    |      |      | ***   |      |      |
| とても思う            | 25.4 | 18.9 | 16.4 | 39.7  | 19.9 | 19.0 |
| やや思う             | 46.7 | 48.6 | 35.8 | 39.7  | 48.3 | 45.2 |
| あまり思わない          | 22.5 | 24.9 | 35.8 | 16.9  | 25.1 | 27.4 |
| 思わない             | 5.5  | 7.6  | 11.9 | 3.7   | 6.7  | 8.3  |
| 子供や妊婦の前では吸うべきでない | **   |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 82.4 | 73.9 | 71.6 | 85.3  | 77.5 | 80.4 |
| やや思う             | 13.7 | 17.3 | 20.9 | 11.8  | 16.8 | 12.5 |
| あまり思わない          | 1.4  | 5.2  | 1.5  | 0.7   | 2.8  | 3.0  |
| 思わない             | 2.5  | 3.6  | 6.0  | 2.2   | 2.9  | 4.2  |
| 未成年者は喫煙すべきではない   |      |      |      | **    |      |      |
| とても思う            | 37.7 | 33.3 | 31.3 | 48.5  | 34.1 | 31.5 |
| やや思う             | 32.7 | 27.3 | 31.3 | 30.9  | 31.7 | 30.4 |
| あまり思わない          | 20.2 | 27.3 | 19.4 | 14.7  | 23.5 | 23.2 |
| 思わない             | 9.3  | 12.0 | 17.9 | 5.9   | 10.7 | 14.9 |
| 成人男子は喫煙してもよい     |      |      |      | *     |      |      |
| とても思う            | 40.7 | 41.4 | 53.7 | 32.4  | 41.2 | 51.8 |
| やや思う             | 39.3 | 36.5 | 31.3 | 42.6  | 38.2 | 33.9 |
| あまり思わない          | 15.8 | 16.1 | 10.4 | 18.4  | 15.6 | 12.5 |
| 思わない             | 4.2  | 6.0  | 4.5  | 6.6   | 5.0  | 1.8  |
| 成人女子は喫煙してもよい     |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 18.5 | 16.5 | 14.9 | 15.4  | 16.4 | 23.8 |
| やや思う             | 21.5 | 24.1 | 22.4 | 19.9  | 23.5 | 20.2 |
| あまり思わない          | 26.8 | 24.5 | 20.9 | 28.7  | 25.1 | 25.0 |
| 思わない             | 33.3 | 34.9 | 41.8 | 36.0  | 34.9 | 31.0 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 15-5 分煙行動と喫煙に対する意識との関係 (2)

(駅: N=884 大学: N=882) (%)

|                  | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|------------------|------|------|------|-------|------|------|
| タバコは寿命を縮めるものである  |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 45.6 | 44.2 | 46.3 | 41.9  | 44.5 | 50.0 |
| やや思う             | 34.2 | 35.3 | 35.8 | 33.8  | 35.3 | 33.3 |
| あまり思わない          | 13.6 | 14.9 | 13.4 | 16.9  | 13.8 | 11.9 |
| 思わない             | 6.7  | 5.6  | 4.5  | 7.4   | 6.4  | 4.8  |
| タバコはストレス解消などになる  |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 44.4 | 45.0 | 55.2 | 44.1  | 46.2 | 43.5 |
| やや思う             | 41.2 | 37.8 | 34.3 | 38.2  | 40.0 | 40.5 |
| あまり思わない          | 10.9 | 13.3 | 6.0  | 16.2  | 10.4 | 10.1 |
| 思わない             | 3.5  | 4.0  | 4.5  | 1.5   | 3.5  | 6.0  |
| タバコを吸うとやせられる     |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 14.4 | 17.3 | 25.4 | 15.4  | 15.7 | 17.3 |
| やや思う             | 22.7 | 23.3 | 22.4 | 23.5  | 22.7 | 23.8 |
| あまり思わない          | 37.9 | 34.9 | 28.4 | 36.8  | 38.1 | 29.8 |
| 思わない             | 25.0 | 24.5 | 23.9 | 24.3  | 23.5 | 29.2 |
| タバコはアクセサリーにもなる * |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 9.0  | 12.0 | 23.9 | 11.0  | 10.7 | 11.9 |
| やや思う             | 25.9 | 23.7 | 19.4 | 19.9  | 25.3 | 27.4 |
| あまり思わない          | 32.4 | 36.5 | 28.4 | 33.8  | 34.3 | 29.8 |
| 思わない             | 32.7 | 27.7 | 28.4 | 35.3  | 29.8 | 31.0 |
| 喫煙を吸う権利もある       |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 44.2 | 43.0 | 58.2 | 45.6  | 42.7 | 51.8 |
| やや思う             | 39.1 | 39.8 | 22.4 | 33.1  | 40.7 | 32.7 |
| あまり思わない          | 12.5 | 13.7 | 13.4 | 16.9  | 12.6 | 10.7 |
| 思わない             | 4.2  | 3.6  | 6.0  | 4.4   | 4.0  | 4.8  |
| タバコのCMなどを減らすべきだ  |      |      |      |       |      |      |
| とても思う            | 8.8  | 9.2  | 6.0  | 11.8  | 7.6  | 9.5  |
| やや思う             | 19.2 | 16.5 | 17.9 | 18.4  | 17.5 | 21.4 |
| あまり思わない          | 43.3 | 48.6 | 46.3 | 45.6  | 47.6 | 35.7 |
| 思わない             | 28.7 | 25.7 | 29.9 | 24.3  | 27.3 | 33.3 |
| 自動販売機での販売をやめるべきだ |      |      |      | *     |      |      |
| とても思う            | 6.2  | 8.0  | 3.0  | 11.8  | 5.0  | 6.5  |
| やや思う             | 9.3  | 8.4  | 10.4 | 8.8   | 9.2  | 9.5  |
| あまり思わない          | 27.3 | 24.1 | 19.4 | 31.6  | 26.3 | 19.6 |
| 思わない             | 57.2 | 59.4 | 67.2 | 47.8  | 59.5 | 64.3 |

X<sup>2</sup> TEST : \* P<0.05

表 15-6 分煙行動と喫煙制限に対する意識との関係 (駅：N=884 大学：N=882) (%)

|             | 分煙群  | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|-------------|------|------|------|-------|------|------|
| 病院          |      |      |      | *     |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 41.2 | 35.3 | 35.8 | 49.3  | 36.0 | 41.1 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 45.8 | 44.2 | 41.8 | 34.6  | 48.6 | 41.7 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 9.7  | 14.5 | 14.9 | 9.6   | 11.9 | 11.3 |
| 禁煙所はいらない    | 3.3  | 6.0  | 7.5  | 6.6   | 3.5  | 6.0  |
| J Rや私鉄の駅    | ***  |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 11.4 | 5.2  | 3.0  | 11.8  | 8.1  | 10.1 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 47.9 | 39.4 | 34.3 | 47.8  | 43.9 | 43.5 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 31.3 | 37.8 | 29.9 | 30.9  | 34.3 | 30.4 |
| 禁煙所はいらない    | 9.3  | 17.7 | 32.8 | 9.6   | 13.7 | 16.1 |
| 通っている学校の教室  | ***  |      |      | **    |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 31.2 | 17.7 | 23.9 | 36.8  | 24.2 | 26.8 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 31.2 | 30.1 | 20.9 | 28.7  | 31.8 | 25.0 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 23.1 | 27.3 | 23.9 | 22.1  | 26.1 | 20.8 |
| 禁煙所はいらない    | 14.6 | 24.9 | 31.3 | 12.5  | 17.8 | 27.4 |
| 食堂、レストラン    | **   |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 9.3  | 4.0  | 6.0  | 14.0  | 6.7  | 4.8  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 35.9 | 28.5 | 23.9 | 31.6  | 32.5 | 35.7 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 28.3 | 34.1 | 28.4 | 27.2  | 31.3 | 28.0 |
| 禁煙所はいらない    | 26.4 | 33.3 | 41.8 | 27.2  | 29.4 | 31.5 |
| 居酒屋、ディスコ    |      |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 5.3  | 3.2  | 7.5  | 5.1   | 4.5  | 5.4  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 18.5 | 20.1 | 22.4 | 19.1  | 19.2 | 19.6 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 15.0 | 16.9 | 9.0  | 19.9  | 14.2 | 14.3 |
| 禁煙所はいらない    | 61.3 | 59.8 | 61.2 | 55.9  | 62.1 | 60.7 |
| 喫茶店         |      |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 4.6  | 4.0  | 6.0  | 3.7   | 4.5  | 4.8  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 24.6 | 21.3 | 23.9 | 26.5  | 23.2 | 23.2 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 19.2 | 22.5 | 14.9 | 19.9  | 19.9 | 19.6 |
| 禁煙所はいらない    | 51.6 | 52.2 | 55.2 | 50.0  | 52.4 | 52.4 |
| パチンコ屋などの遊戯場 |      |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 5.6  | 4.4  | 7.5  | 5.9   | 5.4  | 4.8  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 19.2 | 14.5 | 19.4 | 16.9  | 17.6 | 19.6 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 11.1 | 11.2 | 7.5  | 16.2  | 10.2 | 9.5  |
| 禁煙所はいらない    | 64.1 | 69.9 | 65.7 | 61.0  | 66.8 | 66.1 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 1 6 - 1 分煙行動と喫煙本数との関係

(駅：N=879 大学：N=878) (%)

|           | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|-----------|------|------|------|-------|------|------|
| 喫煙本数 ***  |      |      |      | ***   |      |      |
| 1 ～ 5 本   | 17.4 | 6.8  | 3.0  | 26.9  | 9.4  | 16.1 |
| 6 ～ 10 本  | 20.4 | 16.1 | 10.4 | 20.9  | 18.6 | 15.5 |
| 11 ～ 15 本 | 18.7 | 22.9 | 14.9 | 19.4  | 20.1 | 17.9 |
| 16 ～ 20 本 | 31.6 | 41.0 | 43.3 | 27.6  | 38.2 | 31.0 |
| 21 本以上    | 11.9 | 13.3 | 28.4 | 5.2   | 13.7 | 19.6 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001

表 1 6 - 2 分煙行動と喫煙タイプとの関係

(駅：N=884 大学：N=882) (%)

|                                     | 駅分煙群       | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群      | 時々群  | 非分煙群 |
|-------------------------------------|------------|------|------|------------|------|------|
| 刺激的喫煙                               |            |      |      |            |      |      |
| 急いで片付けねばならない仕事を<br>しているときに吸うことが多い   | 29.9       | 27.3 | 40.3 | 30.9       | 29.6 | 31.0 |
| 疲れた時にタバコを吸うと元気が<br>出て仕事が続けられる       | 38.4       | 42.2 | 50.7 | 36.0       | 41.5 | 41.1 |
| 鎮静的喫煙                               |            |      |      |            |      |      |
| 何か悩み事があるときによく吸う                     | 65.1       | 72.3 | 71.6 | 64.7       | 68.0 | 69.0 |
| 何か腹の立つことがある時に<br>よく吸う               | 67.3       | 75.5 | 73.1 | 63.2       | 71.5 | 70.8 |
| 快楽的喫煙                               |            |      |      |            |      |      |
| 静かに休息している時に吸う<br>タバコが一番よい           | 75.4       | 79.9 | 74.6 | 72.1       | 77.5 | 78.0 |
| 椅子に深くすわってタバコを<br>楽しめる時しか普段吸わない      | 9.7        | 8.0  | 6.0  | **<br>16.2 | 6.9  | 10.1 |
| 心理社会的喫煙                             |            |      |      |            |      |      |
| 他の人にタバコをあげたり<br>もらったりするのが楽しくて吸う     | 10.4       | 10.4 | 14.9 | 11.8       | 9.9  | 13.1 |
| 他の人と一緒にいる時に吸う量が<br>増える              | 64.3       | 63.1 | 68.7 | *<br>53.7  | 66.8 | 63.1 |
| 感覚運動的喫煙                             |            |      |      |            |      |      |
| タバコに火をつけるのもタバコを<br>吸う楽しみの一つである      | 36.3       | 36.9 | 34.3 | 29.4       | 37.2 | 39.3 |
| 口から吐き出す煙を眺めるのも<br>タバコを吸う楽しみの一つである   | 41.5       | 41.0 | 46.3 | 40.4       | 40.5 | 47.0 |
| 耽溺的喫煙                               |            |      |      |            |      |      |
| タバコを切らすと再び手にする<br>までたえられない気持ちになる    | 31.0       | 36.5 | 43.3 | 29.4       | 34.1 | 35.7 |
| しばらく吸わないでいると<br>タバコに飢えて苦しい          | **<br>39.3 | 46.2 | 59.7 | 37.5       | 44.1 | 43.5 |
| 自動的喫煙                               |            |      |      |            |      |      |
| 灰皿に火のついたタバコがあるのに<br>気付かず次のタバコに火をつける | **<br>10.9 | 14.5 | 25.4 | 10.3       | 13.7 | 13.1 |
| 無意識のうちに火をつけてしまい<br>気がついたらタバコを吸っている  | **<br>26.2 | 33.7 | 43.3 | 21.3       | 31.7 | 29.8 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 1 6 - 3 分煙行動と喫煙制限されていない所での喫煙行動との関係

(駅：N=884 大学：N=882) (%)

|              | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|--------------|------|------|------|-------|------|------|
| 近くに人がいても吸う   | **   |      |      | ***   |      |      |
| よくある         | 37.3 | 45.8 | 58.2 | 27.9  | 41.3 | 52.4 |
| 時々ある         | 48.8 | 47.0 | 34.3 | 52.2  | 49.7 | 35.1 |
| ない           | 13.9 | 7.2  | 7.2  | 19.9  | 9.0  | 12.5 |
| 歩きながら吸う      | ***  |      |      | ***   |      |      |
| よくある         | 49.8 | 64.3 | 71.6 | 30.1  | 58.8 | 65.5 |
| 時々ある         | 38.2 | 32.5 | 26.9 | 47.1  | 35.3 | 27.4 |
| ない           | 12.0 | 3.2  | 1.5  | 22.8  | 5.9  | 7.1  |
| 吸いながらを投げ捨てる  | ***  |      |      | ***   |      |      |
| よくある         | 34.2 | 47.8 | 64.2 | 15.4  | 40.8 | 58.9 |
| 時々ある         | 48.1 | 44.2 | 26.9 | 52.2  | 46.7 | 33.9 |
| ない           | 17.8 | 8.0  | 9.0  | 32.4  | 12.5 | 7.1  |
| タバコの灰や吸いがらは  |      |      |      | ***   |      |      |
| 灰皿に入れる       |      |      |      |       |      |      |
| よくある         | 53.7 | 45.8 | 41.8 | 66.9  | 50.3 | 38.1 |
| 時々ある         | 42.4 | 51.8 | 52.2 | 27.2  | 46.5 | 58.3 |
| ない           | 3.9  | 2.4  | 6.0  | 5.9   | 3.1  | 3.6  |
| 人の迷惑にならない所まで |      |      |      | ***   |      |      |
| 行って吸う        |      |      |      |       |      |      |
| よくある         | 18.8 | 13.3 | 19.4 | 26.5  | 16.6 | 12.5 |
| 時々ある         | 49.6 | 50.6 | 38.8 | 47.8  | 51.0 | 43.5 |
| ない           | 31.5 | 36.1 | 41.8 | 25.7  | 32.4 | 44.0 |
| 灰皿を持ち歩いて吸う   |      |      |      |       |      |      |
| よくある         | 3.9  | 3.6  | 4.5  | 5.9   | 3.3  | 4.2  |
| 時々ある         | 6.5  | 6.0  | 13.4 | 5.9   | 7.6  | 4.8  |
| ない           | 89.6 | 90.4 | 82.1 | 88.2  | 89.1 | 91.1 |
| 喫煙してよい場所か    | ***  |      |      | ***   |      |      |
| どうか確認してから吸う  |      |      |      |       |      |      |
| よくある         | 47.4 | 22.9 | 20.9 | 55.1  | 38.5 | 26.2 |
| 時々ある         | 40.0 | 59.0 | 50.7 | 36.8  | 47.5 | 48.8 |
| ない           | 12.5 | 18.1 | 28.4 | 8.1   | 14.0 | 25.0 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001

表 16-4 分煙行動と日常生活行動との関係

(駅：N=884 大学：N=882) (%)

|                   | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|-------------------|------|------|------|-------|------|------|
| 就寝時間              |      |      |      | *     |      |      |
| 1 1 時以前           | 2.1  | 2.8  | 4.5  | 1.5   | 2.9  | 1.8  |
| 1 1 ～ 1 2 時       | 9.7  | 8.0  | 16.4 | 10.3  | 9.3  | 8.9  |
| 1 2 ～ 1 時         | 38.6 | 35.3 | 22.4 | 44.9  | 37.5 | 26.8 |
| 1 時以降             | 49.6 | 53.8 | 56.7 | 43.4  | 50.2 | 62.5 |
| 運動                | *    |      |      |       |      |      |
| ほぼ毎日              | 32.7 | 34.1 | 20.9 | 30.9  | 34.3 | 26.2 |
| 週 3 回位            | 14.1 | 16.5 | 14.9 | 21.3  | 13.8 | 13.7 |
| 週 1 ～ 2 回位        | 34.9 | 25.7 | 37.3 | 29.4  | 32.7 | 33.3 |
| ほとんどしない           | 18.3 | 23.7 | 26.9 | 18.4  | 19.2 | 26.8 |
| 飲酒                |      |      |      | *     |      |      |
| ほぼ毎日              | 6.0  | 9.2  | 9.0  | 6.6   | 5.9  | 11.9 |
| 週 3 回位            | 12.0 | 14.5 | 19.4 | 8.8   | 14.9 | 11.3 |
| 週 1 ～ 2 回位        | 37.3 | 34.5 | 44.8 | 34.6  | 37.5 | 38.1 |
| ほとんど飲まない          | 44.7 | 41.8 | 26.9 | 50.0  | 41.7 | 38.7 |
| 朝食                |      |      |      | **    |      |      |
| ほぼ毎日              | 37.9 | 30.1 | 40.3 | 47.8  | 33.0 | 35.1 |
| 週 3 回位            | 14.4 | 15.7 | 16.4 | 11.8  | 17.0 | 10.7 |
| 週 1 ～ 2 回位        | 11.4 | 12.9 | 11.9 | 5.9   | 13.1 | 12.5 |
| ほとんど食べない          | 36.3 | 41.4 | 31.3 | 34.6  | 36.9 | 41.7 |
| シートベルト            | **   |      |      | *     |      |      |
| 必ずする              | 35.7 | 22.6 | 23.9 | 39.0  | 30.5 | 27.4 |
| 時々する              | 21.8 | 24.6 | 22.4 | 20.6  | 22.7 | 23.8 |
| あまりしない            | 14.8 | 17.3 | 22.4 | 14.0  | 14.9 | 21.4 |
| しない               | 17.3 | 27.0 | 22.4 | 14.7  | 21.1 | 22.6 |
| 乗らない              | 10.4 | 8.5  | 9.0  | 11.8  | 10.7 | 4.8  |
| 健康情報              |      |      |      |       |      |      |
| よく得ている            | 14.8 | 9.2  | 17.9 | 19.1  | 11.4 | 16.1 |
| 少し得ている            | 42.1 | 38.2 | 37.3 | 44.1  | 40.1 | 39.9 |
| あまり得ていない          | 35.0 | 40.6 | 31.3 | 27.9  | 38.4 | 35.1 |
| 全く得ていない           | 8.1  | 12.0 | 13.4 | 8.8   | 10.0 | 8.9  |
| 授業中のノート           |      |      |      | **    |      |      |
| だいたいの授業はとっている     | 35.2 | 32.1 | 26.9 | 50.7  | 30.4 | 31.0 |
| およそ半数の授業はとっている    | 23.2 | 23.7 | 25.4 | 18.4  | 24.6 | 24.4 |
| あまりとっていない         | 26.4 | 28.1 | 29.9 | 18.4  | 28.5 | 29.2 |
| 全くとっていない          | 15.1 | 16.1 | 17.9 | 12.5  | 16.4 | 15.5 |
| 乗り物の中で老人や障害者に席を譲る |      |      |      | *     |      |      |
| 必ず譲る              | 24.8 | 18.5 | 26.9 | 27.2  | 23.7 | 18.5 |
| 時々譲る              | 58.3 | 65.9 | 50.7 | 62.5  | 60.2 | 56.5 |
| ほとんど譲らない          | 13.6 | 11.6 | 13.4 | 6.6   | 12.3 | 30.2 |
| 全く譲らない            | 3.3  | 4.0  | 9.0  | 3.7   | 3.8  | 4.8  |
| 献血                |      |      |      |       |      |      |
| よくする              | 4.0  | 3.6  | 4.5  | 4.4   | 4.0  | 3.6  |
| たまにする             | 17.4 | 20.9 | 20.9 | 18.4  | 18.2 | 19.6 |
| ほとんどしない           | 20.1 | 28.1 | 17.9 | 22.8  | 23.0 | 18.5 |
| しない               | 58.5 | 47.4 | 56.7 | 54.4  | 54.8 | 58.3 |
| アルバイト             | ***  |      |      | **    |      |      |
| 行っている             | 47.7 | 56.6 | 68.7 | 39.7  | 54.5 | 52.4 |
| 行っていない            | 52.3 | 43.4 | 31.3 | 60.3  | 45.5 | 47.6 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 1 6 - 5 分煙行動と生活の満足感・生きがい感・主観的健康感との関係  
(駅：N=884 大学：N=882) (%)

|             | 駅分煙群 | 時々群  | 非分煙群 | 大学分煙群 | 時々群  | 非分煙群 |
|-------------|------|------|------|-------|------|------|
| 生活満足感       | *    |      |      |       |      |      |
| 満足          | 19.0 | 10.0 | 14.9 | 19.9  | 16.1 | 13.1 |
| 少し満足        | 33.5 | 32.9 | 34.3 | 36.8  | 32.7 | 32.7 |
| あまり満足していない  | 33.3 | 39.4 | 31.3 | 33.8  | 34.8 | 36.3 |
| 満足していない     | 14.3 | 17.7 | 19.4 | 9.6   | 16.4 | 17.9 |
| 生きがい感       |      |      |      |       |      |      |
| かなりある       | 12.0 | 8.0  | 9.0  | 13.2  | 10.0 | 10.1 |
| ある          | 38.2 | 33.7 | 31.3 | 44.9  | 34.6 | 35.1 |
| あまりない       | 32.2 | 34.5 | 35.8 | 27.9  | 34.3 | 34.5 |
| ない          | 9.0  | 10.4 | 9.0  | 5.9   | 9.5  | 11.9 |
| わからない       | 8.6  | 13.3 | 14.9 | 8.1   | 11.6 | 8.3  |
| 主観的健康感      | *    |      |      |       |      |      |
| 非常に健康       | 24.6 | 20.6 | 22.4 | 27.9  | 23.0 | 21.0 |
| まあ健康        | 57.7 | 64.5 | 49.3 | 56.6  | 60.9 | 53.9 |
| どちらかといえば不健康 | 14.6 | 13.7 | 20.9 | 13.2  | 13.5 | 21.0 |
| 不健康         | 3.0  | 1.2  | 7.5  | 2.2   | 2.6  | 4.2  |

X<sup>2</sup> TEST : \* P<0.05

表 1 7 主体的分煙行動と喫煙の知識との関係 (駅：N=568 大学：N=136 ) (%)

|                  | 駅主体群 | 時々群  | 非主体群 | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|------------------|------|------|------|-------|------|------|
| 喫煙の知識 (あり)       |      |      |      |       |      |      |
| 血圧や皮膚温の変化        |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 15.0 | 6.7  | 10.1 | 13.9  | 9.2  | 14.3 |
| なし               | 63.6 | 73.4 | 68.2 | 66.7  | 69.2 | 74.3 |
| わからない            | 21.5 | 19.9 | 21.8 | 19.4  | 21.5 | 11.4 |
| 胃潰瘍との関係          |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 30.8 | 29.4 | 29.6 | 19.4  | 21.5 | 37.1 |
| なし               | 26.2 | 23.8 | 21.8 | 30.6  | 20.0 | 20.0 |
| わからない            | 43.0 | 46.8 | 48.6 | 50.0  | 58.5 | 42.9 |
| 心筋梗塞との関係         | *    |      |      |       |      |      |
| あり               | 55.1 | 56.4 | 46.4 | 61.1  | 53.8 | 54.3 |
| なし               | 17.8 | 11.7 | 11.7 | 13.9  | 10.8 | 8.6  |
| わからない            | 27.1 | 31.9 | 41.9 | 25.0  | 35.4 | 37.1 |
| 受動喫煙について         | *    |      |      |       |      |      |
| あり               | 37.4 | 50.7 | 41.3 | 47.2  | 47.7 | 45.7 |
| なし               | 16.8 | 13.1 | 8.9  | 16.7  | 6.2  | 20.0 |
| わからない            | 45.8 | 36.2 | 49.7 | 36.1  | 46.2 | 34.3 |
| 副流煙の害について        |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 84.1 | 82.3 | 79.9 | 83.3  | 81.5 | 74.3 |
| なし               | 6.5  | 5.0  | 7.3  | 5.6   | 6.2  | 14.3 |
| わからない            | 9.3  | 12.8 | 12.8 | 11.1  | 12.3 | 11.4 |
| 鉄道や地下鉄の禁煙車内での法知識 |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 40.2 | 32.3 | 30.2 | 50.0  | 33.8 | 25.7 |
| なし               | 15.9 | 19.1 | 19.0 | 16.7  | 12.3 | 20.0 |
| わからない            | 43.9 | 48.6 | 50.8 | 33.3  | 53.8 | 54.3 |
| 事業所での喫煙対策の法知識    |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 59.8 | 52.8 | 47.5 | 58.3  | 50.8 | 45.7 |
| なし               | 9.3  | 8.9  | 9.5  | 8.3   | 7.7  | 14.3 |
| わからない            | 30.8 | 38.3 | 43.0 | 33.3  | 41.5 | 40.0 |
| 知的作業能率について       |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 57.0 | 60.3 | 58.7 | 66.7  | 58.5 | 62.9 |
| なし               | 19.6 | 15.6 | 12.8 | 22.2  | 16.9 | 17.1 |
| わからない            | 23.4 | 24.1 | 28.5 | 11.1  | 24.6 | 20.0 |
| タールについて          |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 50.5 | 56.0 | 46.4 | 47.2  | 56.9 | 45.7 |
| なし               | 14.0 | 13.1 | 18.4 | 11.1  | 9.2  | 20.0 |
| わからない            | 35.5 | 30.9 | 35.2 | 41.7  | 33.8 | 34.3 |
| ニコチンについて         |      |      |      |       |      |      |
| あり               | 17.8 | 13.1 | 11.2 | 8.3   | 15.4 | 20.0 |
| なし               | 55.1 | 61.3 | 57.5 | 52.8  | 58.5 | 48.6 |
| わからない            | 27.1 | 25.5 | 31.3 | 38.9  | 26.2 | 31.4 |

X<sup>2</sup> TEST : \* P<0.05

表 1 8 - 1 主体的分煙行動と将来の禁煙意識との関係

(駅：N=567 大学：N=135) (%)

|            | 駅主体群 | 時々群  | 非主体群 |   | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|------------|------|------|------|---|-------|------|------|
| 将来の禁煙      |      |      |      |   |       |      |      |
| 絶対したい      | 26.2 | 25.9 | 19.7 |   | 30.6  | 33.8 | 20.6 |
| できればしたい    | 43.0 | 50.0 | 51.1 |   | 44.4  | 46.2 | 41.2 |
| 無理だろう      | 14.0 | 11.7 | 11.8 |   | 11.1  | 10.8 | 17.6 |
| 絶対しない      | 16.8 | 12.4 | 17.4 |   | 13.9  | 9.2  | 20.6 |
| 将来の禁煙理由    |      |      |      |   |       |      |      |
| 病気をした      | 0.0  | 2.8  | 2.2  |   | 0.0   | 3.1  | 0.0  |
| 健康に悪い      | 65.4 | 70.2 | 60.7 |   | 58.3  | 70.8 | 47.1 |
| 経済的理由      | 20.6 | 24.2 | 21.9 |   | 16.7  | 23.1 | 11.8 |
| タバコがまずくなった | 6.5  | 4.6  | 1.7  | * | 16.7  | 4.6  | 2.9  |
| 医師の注意      | 0.0  | 1.4  | 0.0  |   | 0.0   | 0.0  | 0.0  |
| 家族・知人の注意   | 6.5  | 8.2  | 6.7  |   | 5.6   | 6.2  | 0.0  |
| 周囲の人の迷惑    | 22.4 | 20.2 | 15.2 |   | 27.8  | 30.8 | 14.7 |
| 意志力を試す     | 8.4  | 6.7  | 9.0  |   | 11.1  | 6.2  | 8.8  |
| その他        | 0.9  | 1.8  | 3.4  |   | 2.8   | 3.1  | 0.0  |

X<sup>2</sup> TEST : \* P<0.05

表 1 8 - 2 主体的分煙行動と喫煙所での喫煙行動の理由との関係 (駅：N=568 大学：N=136) (%)

|                     | 駅主体群     | 時々群  | 非主体群 |    | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|---------------------|----------|------|------|----|-------|------|------|
| 喫煙所での喫煙行動の理由 (複数回答) |          |      |      |    |       |      |      |
| 他人への迷惑を考える          | 85.8     | 90.4 | 83.8 |    | 88.9  | 90.8 | 77.1 |
| 他人の健康を考える           | *** 51.4 | 34.4 | 24.6 |    | 58.3  | 47.7 | 40.0 |
| 禁煙場所だから             | * 80.4   | 89.7 | 87.7 |    | 69.4  | 87.7 | 77.1 |
| 他人に嫌な顔などをされる        | 48.6     | 42.2 | 34.6 | ** | 55.6  | 40.0 | 20.0 |
| 人のタバコの煙を吸わされる       | * 28.0   | 24.8 | 15.1 |    | 30.6  | 30.8 | 14.3 |
| 人が少ない、あるいは多い        | 44.9     | 37.2 | 35.2 |    | 52.8  | 44.6 | 28.6 |
| 禁煙所でも吸っている人がいる      | 26.2     | 24.1 | 23.5 |    | 30.6  | 27.7 | 31.4 |
| 禁煙場所か否か、気にしない       | 10.3     | 6.4  | 8.4  |    | 19.4  | 9.2  | 11.4 |
| 喫煙は個人の自由だから         | 23.4     | 24.8 | 24.0 |    | 33.3  | 24.6 | 42.9 |
| タバコの吸いがらが落ちてる       | 17.8     | 11.7 | 12.3 |    | 25.0  | 15.4 | 20.0 |
| 病気をした               | 9.3      | 8.9  | 5.6  |    | 8.3   | 10.8 | 8.6  |
| 健康に悪い               | 42.1     | 36.2 | 31.8 |    | 47.2  | 40.0 | 28.6 |
| 経済的理由               | 22.4     | 23.0 | 20.7 |    | 30.6  | 27.7 | 20.0 |
| 医師の注意               | 6.6      | 5.7  | 4.5  |    | 8.3   | 3.1  | 11.4 |
| 家族・知人の注意            | 15.0     | 12.8 | 7.8  |    | 22.2  | 16.9 | 11.4 |
| 吸う量を減らすため           | 32.7     | 33.7 | 21.8 |    | 38.9  | 30.8 | 22.9 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 18-3 主体的分煙行動と喫煙に対しての意識との関係 (1) (駅: N=568 大学: N=136) (%)

|                      | 駅主体群 | 時々群  | 非主体群 | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|----------------------|------|------|------|-------|------|------|
| 迷惑をかけなければ吸ってもよい *    |      |      |      |       |      |      |
| とても思う                | 48.6 | 46.8 | 59.8 | 36.1  | 41.5 | 54.3 |
| やや思う                 | 42.1 | 43.6 | 27.9 | 58.3  | 52.3 | 34.3 |
| あまり思わない              | 5.6  | 7.4  | 8.4  | 0.0   | 4.6  | 8.6  |
| 思わない                 | 3.7  | 2.1  | 3.9  | 5.6   | 1.5  | 2.9  |
| 喫煙は個人の自由である ***      |      |      |      | *     |      |      |
| とても思う                | 15.9 | 14.9 | 33.5 | 11.1  | 7.7  | 22.9 |
| やや思う                 | 41.1 | 47.5 | 32.4 | 47.2  | 47.7 | 28.6 |
| あまり思わない              | 20.6 | 27.7 | 22.9 | 13.9  | 35.4 | 34.3 |
| 思わない                 | 22.4 | 9.9  | 11.2 | 27.8  | 9.2  | 14.3 |
| 人が集まる場所は喫煙規制すべきだ *** |      |      |      | *     |      |      |
| とても思う                | 42.1 | 23.0 | 19.0 | 58.3  | 35.4 | 28.6 |
| やや思う                 | 39.3 | 54.3 | 39.1 | 27.8  | 47.7 | 37.1 |
| あまり思わない              | 16.8 | 19.9 | 30.2 | 8.3   | 16.9 | 25.7 |
| 思わない                 | 1.9  | 2.8  | 11.7 | 5.6   | 0.0  | 8.6  |
| 子供や妊婦の前では吸うべきでない **  |      |      |      |       |      |      |
| とても思う                | 78.5 | 89.4 | 73.7 | 80.6  | 92.3 | 77.1 |
| やや思う                 | 16.8 | 9.2  | 19.0 | 16.7  | 6.2  | 17.1 |
| あまり思わない              | 1.9  | 0.4  | 2.8  | 0.0   | 1.5  | 0.0  |
| 思わない                 | 2.8  | 1.1  | 4.5  | 2.8   | 0.0  | 5.7  |
| 未成年者は喫煙すべきではない *     |      |      |      |       |      |      |
| とても思う                | 45.8 | 36.9 | 34.1 | 58.3  | 44.6 | 45.7 |
| やや思う                 | 29.9 | 36.5 | 28.5 | 22.2  | 40.0 | 22.9 |
| あまり思わない              | 19.6 | 18.1 | 24.0 | 13.9  | 12.3 | 20.0 |
| 思わない                 | 4.7  | 8.5  | 13.4 | 5.6   | 3.1  | 11.4 |
| 成人男子は喫煙してもよい *       |      |      |      |       |      |      |
| とても思う                | 27.1 | 41.5 | 47.5 | 25.0  | 27.7 | 48.6 |
| やや思う                 | 44.9 | 40.8 | 33.5 | 36.1  | 50.8 | 34.3 |
| あまり思わない              | 21.5 | 14.5 | 14.5 | 27.8  | 16.9 | 11.4 |
| 思わない                 | 6.5  | 3.2  | 4.5  | 11.1  | 4.6  | 5.7  |
| 成人女子は喫煙してもよい         |      |      |      |       |      |      |
| とても思う                | 18.7 | 17.7 | 19.6 | 16.7  | 7.7  | 28.6 |
| やや思う                 | 23.4 | 21.6 | 20.1 | 13.9  | 26.2 | 14.3 |
| あまり思わない              | 28.0 | 29.4 | 21.8 | 38.9  | 29.2 | 17.1 |
| 思わない                 | 29.9 | 31.2 | 38.5 | 30.6  | 36.9 | 40.0 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 1 8 - 4 主体的分煙行動と喫煙に対しての意識との関係 (2) (駅：N=568 大学：N=136) (%)

|                    | 駅主体群 | 時々群  | 非主体群 | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|--------------------|------|------|------|-------|------|------|
| タバコは寿命を縮めるものである    |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 44.9 | 47.9 | 42.5 | 41.7  | 43.1 | 40.0 |
| やや思う               | 31.8 | 35.5 | 33.5 | 27.8  | 40.0 | 28.6 |
| あまり思わない            | 16.8 | 11.0 | 15.6 | 19.4  | 13.8 | 20.0 |
| 思わない               | 6.5  | 5.7  | 8.4  | 11.1  | 3.1  | 11.4 |
| タバコはストレス解消などになる    |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 42.1 | 41.5 | 50.3 | 41.7  | 40.0 | 54.3 |
| やや思う               | 43.9 | 45.4 | 33.0 | 44.4  | 43.1 | 22.9 |
| あまり思わない            | 10.3 | 10.6 | 11.7 | 11.1  | 16.9 | 20.0 |
| 思わない               | 3.7  | 2.5  | 5.0  | 2.8   | 0.0  | 2.9  |
| タバコを吸うとやせられる *     |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 12.1 | 14.5 | 15.6 | 13.9  | 16.9 | 14.3 |
| やや思う               | 29.0 | 24.5 | 16.2 | 30.6  | 23.1 | 17.1 |
| あまり思わない            | 35.5 | 40.1 | 35.8 | 27.8  | 43.1 | 34.3 |
| 思わない               | 23.4 | 20.9 | 32.4 | 27.8  | 16.9 | 34.3 |
| タバコはアクセサリにもなる *    |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 6.5  | 6.7  | 14.0 | 8.3   | 6.2  | 22.9 |
| やや思う               | 26.2 | 26.2 | 25.1 | 30.6  | 18.5 | 11.4 |
| あまり思わない            | 36.4 | 33.3 | 28.5 | 33.3  | 43.1 | 17.1 |
| 思わない               | 30.8 | 33.7 | 32.4 | 27.8  | 32.3 | 48.6 |
| 喫煙を吸う権利もある         |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 39.3 | 41.1 | 52.0 | 38.9  | 46.2 | 51.4 |
| やや思う               | 37.4 | 42.9 | 34.1 | 30.6  | 36.9 | 28.6 |
| あまり思わない            | 15.9 | 12.8 | 10.1 | 19.4  | 16.9 | 14.3 |
| 思わない               | 7.5  | 3.2  | 3.9  | 11.1  | 0.0  | 5.7  |
| タバコのCMなどを減らすべきだ ** |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 11.2 | 7.8  | 8.9  | 19.4  | 6.2  | 14.3 |
| やや思う               | 20.6 | 16.7 | 22.3 | 19.4  | 18.5 | 17.1 |
| あまり思わない            | 45.8 | 49.6 | 31.8 | 38.9  | 53.8 | 37.1 |
| 思わない               | 22.4 | 25.9 | 36.9 | 22.2  | 21.5 | 31.4 |
| 自動販売機での販売をやめるべきだ   |      |      |      |       |      |      |
| とても思う              | 6.5  | 5.0  | 7.8  | 13.9  | 7.7  | 17.1 |
| やや思う               | 9.3  | 9.9  | 8.4  | 5.6   | 12.3 | 5.7  |
| あまり思わない            | 37.4 | 27.7 | 20.7 | 38.9  | 30.8 | 25.7 |
| 思わない               | 46.7 | 57.4 | 63.1 | 41.7  | 49.2 | 51.4 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 18-5 主体的分煙行動と喫煙制限に対しての意識との関係 (駅: N=568 大学: N=136) (%)

|             | 駅主体群 | 時々群  | 非主体群 | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|-------------|------|------|------|-------|------|------|
| 病院          | *    |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 44.9 | 42.2 | 37.4 | 38.9  | 53.8 | 51.4 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 43.0 | 46.1 | 46.9 | 36.1  | 40.0 | 22.9 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 4.7  | 9.9  | 12.3 | 11.1  | 4.6  | 17.1 |
| 禁煙所はいらない    | 7.5  | 1.8  | 3.4  | 13.9  | 1.5  | 8.6  |
| J Rや私鉄の駅    | **   |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 12.1 | 11.0 | 11.7 | 11.1  | 10.8 | 14.3 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 57.0 | 50.0 | 39.1 | 50.0  | 50.8 | 40.0 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 23.4 | 32.6 | 34.1 | 30.6  | 32.3 | 28.6 |
| 禁煙所はいらない    | 7.5  | 6.4  | 15.1 | 8.3   | 6.2  | 17.1 |
| 通っている学校の教室  | ***  |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 33.6 | 29.4 | 32.4 | 44.4  | 30.8 | 40.0 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 45.8 | 30.9 | 22.9 | 36.1  | 29.2 | 20.0 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 14.0 | 26.2 | 23.5 | 16.7  | 26.2 | 20.0 |
| 禁煙所はいらない    | 6.5  | 13.5 | 21.2 | 2.8   | 13.8 | 20.0 |
| 食堂、レストラン    |      |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 9.3  | 8.5  | 10.6 | 16.7  | 9.2  | 20.0 |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 43.0 | 37.2 | 29.6 | 38.9  | 29.2 | 28.6 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 27.1 | 30.1 | 26.3 | 27.8  | 30.8 | 20.0 |
| 禁煙所はいらない    | 20.6 | 24.1 | 33.5 | 16.7  | 30.8 | 31.4 |
| 居酒屋、ディスコ    | *    |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 6.5  | 3.2  | 7.8  | 11.1  | 1.5  | 5.7  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 25.2 | 17.4 | 16.2 | 22.2  | 13.8 | 25.7 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 19.6 | 16.0 | 10.6 | 19.4  | 26.2 | 8.6  |
| 禁煙所はいらない    | 48.6 | 63.5 | 65.4 | 47.2  | 58.5 | 60.0 |
| 喫茶店         | **   |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 3.7  | 3.2  | 7.3  | 2.8   | 1.5  | 8.6  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 38.3 | 22.7 | 19.6 | 36.1  | 24.6 | 20.0 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 18.7 | 20.9 | 16.8 | 19.4  | 21.5 | 17.1 |
| 禁煙所はいらない    | 39.3 | 53.2 | 56.4 | 41.7  | 52.3 | 54.3 |
| パチンコ屋などの遊戯場 | **   |      |      |       |      |      |
| 全部禁煙にすべきだ   | 1.9  | 5.3  | 8.4  | 5.6   | 4.6  | 8.6  |
| 禁煙所を増やすべきだ  | 27.1 | 19.5 | 14.0 | 13.9  | 16.9 | 20.0 |
| 禁煙所を減らすべきだ  | 17.8 | 10.6 | 7.8  | 19.4  | 16.9 | 11.4 |
| 禁煙所はいらない    | 53.3 | 64.5 | 69.8 | 61.1  | 61.5 | 60.0 |

X<sup>2</sup> TEST : \* \* \* P<0.001 \* \* P<0.01 \* P<0.05

表 19-1 主体的分煙行動と喫煙タイプとの関係

(駅：N=568 大学：N=136 ) (%)

|                                     | 駅主体群     | 時々群  | 非主体群 |    | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|-------------------------------------|----------|------|------|----|-------|------|------|
| 刺激的喫煙                               |          |      |      |    |       |      |      |
| 急いで片付けねばならない仕事を<br>しているときに吸うことが多い   | 26.2     | 32.3 | 28.5 |    | 36.1  | 29.2 | 28.6 |
| 疲れた時にタバコを吸うと元気が<br>出て仕事が続けられる       | 32.7     | 36.9 | 44.1 |    | 33.3  | 36.9 | 37.1 |
| 鎮静的喫煙                               |          |      |      |    |       |      |      |
| 何か悩み事があるときによく吸う                     | 63.6     | 68.1 | 61.5 | ** | 72.2  | 72.3 | 42.9 |
| 何か腹の立つことがある時に<br>よく吸う               | 61.7     | 67.7 | 69.8 |    | 63.9  | 69.2 | 51.4 |
| 快楽的喫煙                               |          |      |      |    |       |      |      |
| 静かに休息している時に吸う<br>タバコが一番よい           | 72.0     | 75.9 | 76.5 | *  | 63.9  | 83.1 | 60.0 |
| 椅子に深くすわってタバコを<br>楽しめる時しか普段吸わない      | *** 21.5 | 5.7  | 8.9  | ** | 30.6  | 6.2  | 20.0 |
| 心理社会的喫煙                             |          |      |      |    |       |      |      |
| 他の人にタバコをあげたり<br>もらったりするのが楽しくて吸う     | 11.2     | 11.7 | 7.8  |    | 13.9  | 10.8 | 11.4 |
| 他の人と一緒にいる時に吸う量が<br>増える              | 55.1     | 68.1 | 63.7 |    | 47.2  | 58.5 | 51.4 |
| 感覚運動的喫煙                             |          |      |      |    |       |      |      |
| タバコに火をつけるのもタバコを<br>吸う楽しみの一つである      | 38.3     | 36.5 | 34.6 |    | 30.6  | 27.7 | 31.4 |
| 口から吐き出す煙を眺めるのも<br>タバコを吸う楽しみの一つである   | 43.0     | 40.8 | 41.9 |    | 36.1  | 38.5 | 48.6 |
| 耽溺的喫煙                               |          |      |      |    |       |      |      |
| タバコを切らすと再び手にする<br>までたえられない気持ちになる    | 29.9     | 29.8 | 33.5 |    | 27.8  | 30.8 | 28.6 |
| しばらく吸わないでいると<br>タバコに飢えて苦しい          | * 34.6   | 36.2 | 46.9 |    | 41.7  | 30.8 | 45.7 |
| 自動的喫煙                               |          |      |      |    |       |      |      |
| 灰皿に火のついたタバコがあるのに<br>気付かず次のタバコに火をつける | 5.6      | 11.0 | 14.0 |    | 11.1  | 10.8 | 8.6  |
| 無意識のうちに火をつけてしまい<br>気がついたらタバコを吸っている  | 21.5     | 26.2 | 29.1 | *  | 16.7  | 15.4 | 37.1 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 1 9 - 2 主体的分煙行動と喫煙制限されていない所での喫煙行動との関係  
(駅：N=568 大学：N=136) (%)

|                          | 駅主体群 | 時々群  | 非主体群 | 大学主体群 | 時々群  | 非主体群 |
|--------------------------|------|------|------|-------|------|------|
| 喫煙制限されていない所での喫煙行動        |      |      |      |       |      |      |
| 近くに人がいても吸う ***           |      |      |      | **    |      |      |
| よくある                     | 22.4 | 30.9 | 59.4 | 19.4  | 23.1 | 45.7 |
| 時々ある                     | 47.7 | 61.0 | 30.2 | 44.4  | 66.2 | 34.3 |
| ない                       | 29.9 | 8.2  | 13.4 | 36.1  | 10.8 | 20.0 |
| 歩きながら吸う ***              |      |      |      | *     |      |      |
| よくある                     | 33.6 | 47.9 | 62.6 | 22.2  | 29.2 | 40.0 |
| 時々ある                     | 40.2 | 43.6 | 28.5 | 47.2  | 56.9 | 28.6 |
| ない                       | 26.2 | 8.5  | 8.9  | 30.6  | 13.8 | 31.4 |
| 吸いながらを投げ捨てる ***          |      |      |      | *     |      |      |
| よくある                     | 20.6 | 28.7 | 50.8 | 16.7  | 9.2  | 25.7 |
| 時々ある                     | 46.7 | 55.0 | 38.0 | 41.7  | 66.2 | 37.1 |
| ない                       | 32.7 | 16.3 | 11.2 | 41.7  | 24.6 | 37.1 |
| タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる ***    |      |      |      | **    |      |      |
| よくある                     | 72.0 | 56.4 | 38.5 | 80.6  | 69.2 | 48.6 |
| 時々ある                     | 26.2 | 41.8 | 53.1 | 16.7  | 29.2 | 34.3 |
| ない                       | 1.9  | 1.8  | 8.4  | 2.8   | 1.5  | 17.1 |
| 灰皿を持ち歩いて吸う ***           |      |      |      |       |      |      |
| よくある                     | 10.3 | 2.1  | 2.8  | 11.1  | 4.6  | 2.9  |
| 時々ある                     | 9.3  | 8.9  | 1.1  | 8.3   | 7.7  | 0.0  |
| ない                       | 80.4 | 89.0 | 96.1 | 80.6  | 87.7 | 97.1 |
| 喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う *** |      |      |      | **    |      |      |
| よくある                     | 71.0 | 46.8 | 34.3 | 69.4  | 58.5 | 34.3 |
| 時々ある                     | 20.6 | 45.4 | 43.3 | 25.0  | 38.5 | 45.7 |
| ない                       | 8.4  | 7.8  | 22.5 | 5.6   | 3.1  | 20.0 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 19-3 主体的分煙行動と日常生活行動との関係

(駅：N=568 大学：N=136) (%)

|                      | 駅主体群 | 中間群  | 非主体群 | 大学主体群 | 中間群  | 非主体群 |
|----------------------|------|------|------|-------|------|------|
| 就寝時間                 |      |      |      |       |      |      |
| 1 1 時以前              | 2.8  | 1.8  | 2.2  | 0.0   | 1.5  | 2.9  |
| 1 1 ～ 1 2 時          | 14.0 | 8.9  | 8.4  | 11.1  | 12.3 | 5.7  |
| 1 2 ～ 1 時            | 31.8 | 42.6 | 36.3 | 41.7  | 41.5 | 54.3 |
| 1 時以降                | 51.4 | 46.8 | 53.1 | 47.2  | 44.6 | 37.1 |
| 運動                   | * *  |      |      |       |      |      |
| ほぼ毎日                 | 36.4 | 35.8 | 25.7 | 27.8  | 29.2 | 37.1 |
| 週 3 回位               | 15.9 | 14.2 | 12.8 | 22.2  | 21.5 | 20.0 |
| 週 1 ～ 2 回位           | 36.4 | 34.8 | 34.1 | 36.1  | 29.2 | 22.9 |
| ほとんどしない              | 11.2 | 15.2 | 27.4 | 13.9  | 20.0 | 20.0 |
| 飲酒                   |      |      |      |       |      |      |
| ほぼ毎日                 | 3.7  | 6.7  | 6.1  | 8.3   | 6.2  | 5.7  |
| 週 3 回位               | 10.3 | 11.3 | 14.0 | 8.3   | 9.2  | 8.6  |
| 週 1 ～ 2 回位           | 35.5 | 39.0 | 35.8 | 33.3  | 33.8 | 37.1 |
| ほとんど飲まない             | 50.5 | 42.9 | 44.1 | 50.0  | 50.8 | 48.6 |
| 朝食                   |      |      |      |       |      |      |
| ほぼ毎日                 | 40.2 | 35.5 | 40.2 | 47.2  | 41.5 | 60.0 |
| 週 3 回位               | 15.9 | 14.2 | 14.0 | 8.3   | 10.8 | 17.1 |
| 週 1 ～ 2 回位           | 12.1 | 13.1 | 8.4  | 8.3   | 7.7  | 0.0  |
| ほとんど食べない             | 31.8 | 37.2 | 37.4 | 36.1  | 40.0 | 22.9 |
| シートベルト               |      |      |      | *     |      |      |
| 必ずする                 | 40.2 | 35.5 | 33.5 | 38.9  | 40.0 | 37.1 |
| 時々する                 | 17.8 | 24.5 | 20.1 | 11.1  | 20.0 | 31.4 |
| あまりしない               | 15.9 | 13.8 | 15.6 | 19.4  | 15.4 | 5.7  |
| しない                  | 13.1 | 16.7 | 20.7 | 5.6   | 16.9 | 20.0 |
| 乗らない                 | 13.1 | 9.6  | 10.1 | 25.0  | 7.7  | 5.7  |
| 健康情報                 | ***  |      |      |       |      |      |
| よく得ている               | 18.7 | 12.4 | 16.2 | 22.2  | 16.9 | 20.0 |
| 少し得ている               | 36.4 | 48.9 | 34.6 | 52.8  | 46.2 | 31.4 |
| あまり得ていない             | 39.3 | 34.0 | 34.1 | 25.0  | 27.7 | 31.4 |
| 全く得ていない              | 5.6  | 4.6  | 15.1 | 0.0   | 9.2  | 17.1 |
| 授業中のノート              |      |      |      |       |      |      |
| だいたいの授業はとっている        | 41.1 | 34.8 | 32.4 | 50.0  | 53.8 | 45.7 |
| およそ半数の授業はとっている       | 28.0 | 24.1 | 19.0 | 25.0  | 18.5 | 11.4 |
| あまりとっていない            | 19.6 | 27.3 | 29.1 | 13.9  | 16.9 | 25.7 |
| 全くとっていない             | 11.2 | 13.8 | 19.6 | 11.1  | 10.8 | 17.1 |
| 乗り物の中で老人や障害者に席を譲る ** |      |      |      |       |      |      |
| 必ず譲る                 | 32.7 | 26.6 | 17.3 | 36.1  | 26.2 | 20.0 |
| 時々譲る                 | 53.3 | 59.2 | 59.8 | 52.8  | 67.7 | 62.9 |
| ほとんど譲らない             | 13.1 | 12.4 | 15.6 | 8.3   | 6.2  | 5.7  |
| 全く譲らない               | 0.9  | 1.8  | 7.3  | 2.8   | 0.0  | 11.4 |
| 献血                   |      |      |      |       |      |      |
| よくする                 | 4.7  | 4.6  | 2.8  | 8.3   | 3.1  | 2.9  |
| たまにする                | 16.8 | 18.4 | 16.2 | 16.7  | 13.8 | 28.6 |
| ほとんどしない              | 19.6 | 20.2 | 20.1 | 19.4  | 27.7 | 17.1 |
| しない                  | 58.9 | 56.7 | 60.9 | 55.6  | 55.4 | 51.4 |

X<sup>2</sup> TEST : \*\*\* P<0.001 \*\* P<0.01 \* P<0.05

表 20 主体的分煙群と非主体的分煙群の比較

|                                   | 非制限分煙群     | 制限分煙群                   | 非主体的分煙群               | 主体的分煙群                            |
|-----------------------------------|------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 【駅】<br>《知識》<br>・心筋梗塞              |            |                         | ●●●●○                 | ●●●●●<br>○                        |
| 《喫煙所での理由》<br>*禁煙場所だから             | ●●●●●<br>○ | ●●●●●<br>●●●●○<br>●●●●○ | ●●●●●<br>●●●●○<br>●●○ | ●●●●●<br>●●●●●<br>●●●●●           |
| *他人の健康を考えて                        | ●●○        |                         | ●●○                   | ○<br>●●●○                         |
| ・吸う量を減らす                          |            |                         | ●○                    | ●●○                               |
| ・人の煙を吸わされる                        |            |                         |                       |                                   |
| 《喫煙への意識》<br>・未成年者は喫煙すべきでない        |            |                         | ●●●●●<br>●●○<br>●○    | ●●●●●<br>●●○<br>●●●●○             |
| *喫煙規制意識                           | ●○         | ●●○                     | ○                     | ●○                                |
| ・CMを減らすべきだ                        |            |                         |                       |                                   |
| 《喫煙制限意識》<br>*JRや私鉄の駅<br>(禁煙所を増やす) | ●●●○       | ●●●●○                   | ●●●○                  | ●●●●●<br>○                        |
| *教室                               | ●●         | ●●●○                    | ●●○                   | ●●●●○                             |
| ・病院                               |            |                         | ●●●●○                 | ●●●●○                             |
| ・喫茶店                              |            |                         | ●○                    | ●●●○                              |
| ・居酒屋                              |            |                         | ●○                    | ●●○                               |
| ・遊戯場                              | ●○         | ●○                      | ●○                    | ●●○                               |
| 《喫煙制限されていない場所》<br>*喫煙場所か確認して吸う    | ●●         | ●●●●○                   | ●●●○                  | ●●●●●<br>●●○<br>●●●●●<br>●●○<br>● |
| *吸いがらは灰皿に入れる                      | ●●●●○      | ●●●●●<br>○              | ●●●○<br>○             |                                   |
| ・灰皿を持ち歩く                          |            |                         |                       |                                   |
| 《日常生活》<br>・運動をする                  |            |                         | ●●○                   | ●●●○                              |
| ・老人や障害者に席を譲る                      |            |                         | ●○                    | ●●●○                              |
| ・健康情報を得ている                        |            |                         | ●○                    | ●○                                |
| 【大学】<br>《将来の禁煙意識》<br>*タバコがまずくなった  | ○          | ○                       | ○                     | ●○                                |
| 《禁煙場所での理由》<br>・他人に嫌な顔をされる         |            |                         | ●●                    | ●●●●●<br>○                        |
| 《喫煙への意識》<br>*喫煙規制意識               | ●○         | ●●●○                    | ●●○                   | ●●●●●<br>○                        |
| 《喫煙タイプ》<br>・鎮静的喫煙タイプ              |            |                         | ●●●●○                 | ●●●●●<br>●●○<br>●●●               |
| *快楽的喫煙タイプ                         | ●          | ●○                      | ●●                    |                                   |
| 《喫煙制限されていない場所》<br>*吸いがらは灰皿に入れる    | ●●●○       | ●●●●●<br>●○             | ●●●●○                 | ●●●●●<br>●●●●●<br>●●○             |
| *喫煙場所確認して吸う                       | ●●○        | ●●●●●<br>○              | ●●●○                  | ●●○                               |

● : 10%      ○ : 10%未満

\* 分煙・主体的分煙共通にみられたもの

- ・ 主体的分煙にみられたもの

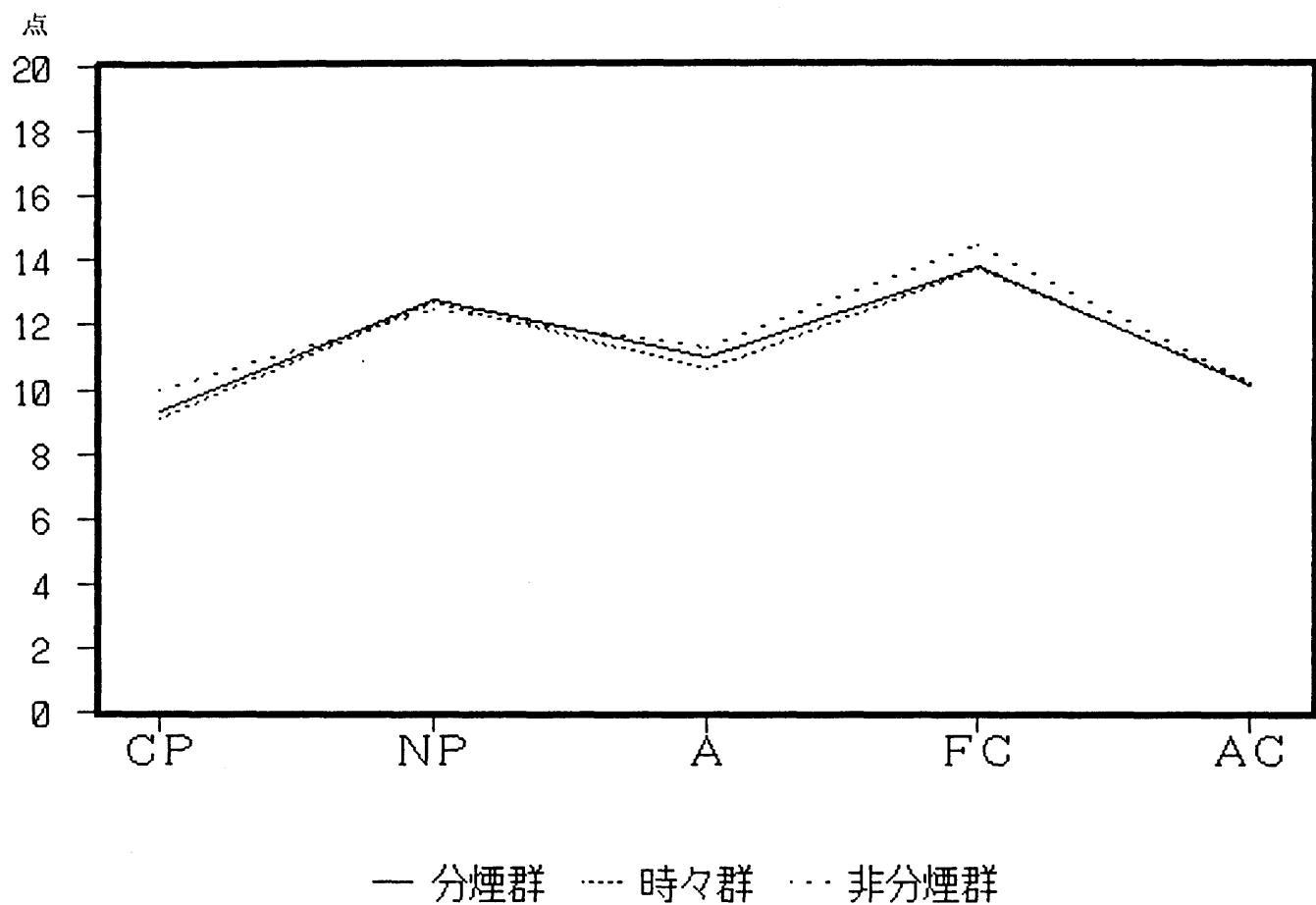


図1 駅での分煙状況別エゴグラム

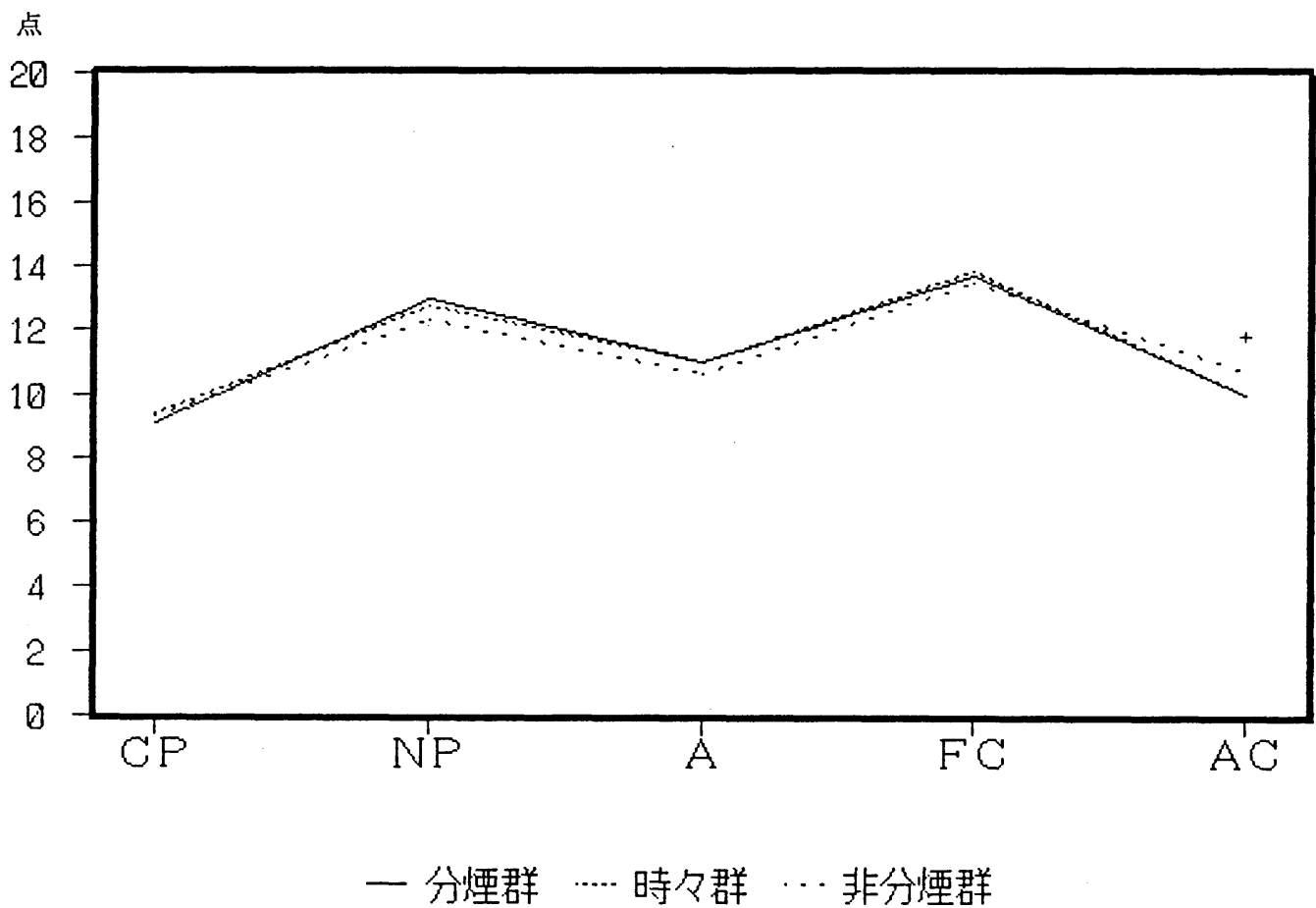
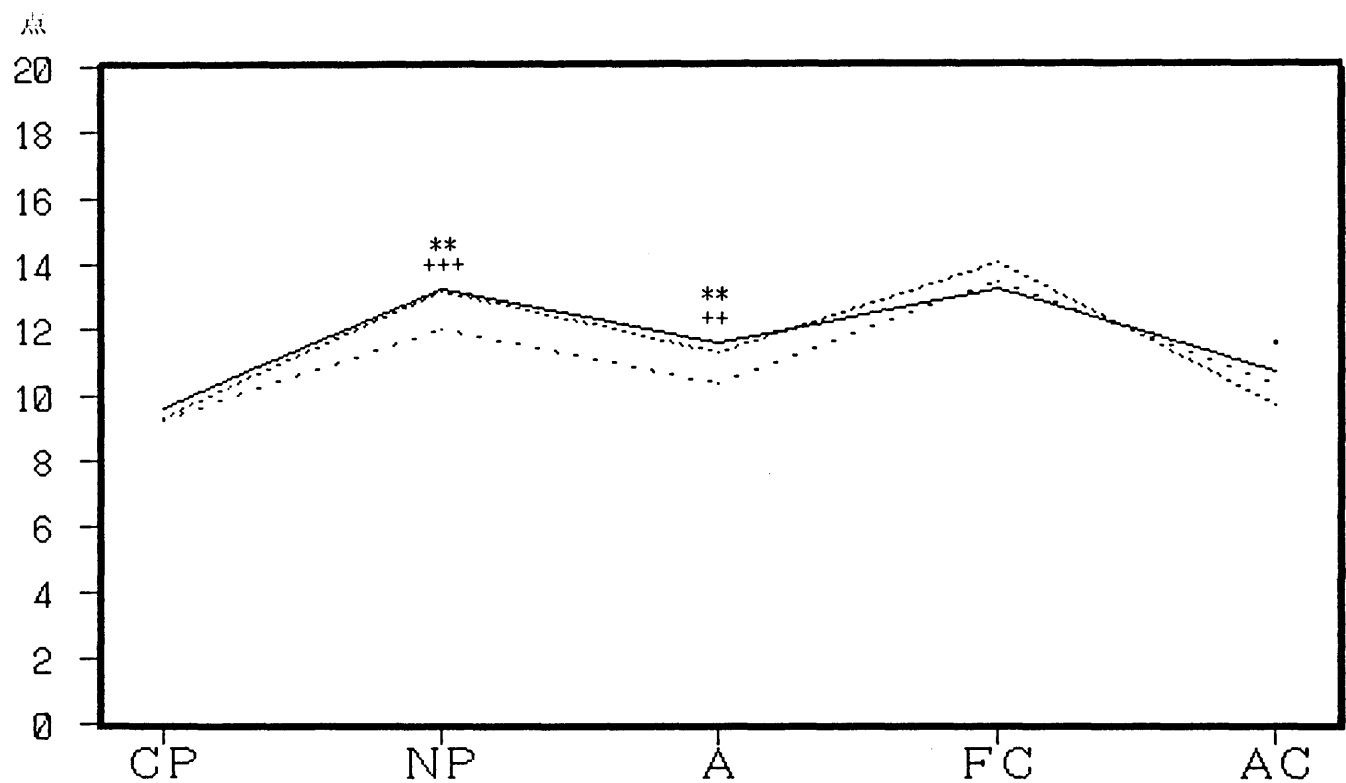


図2 大学での分煙状況別エゴグラム



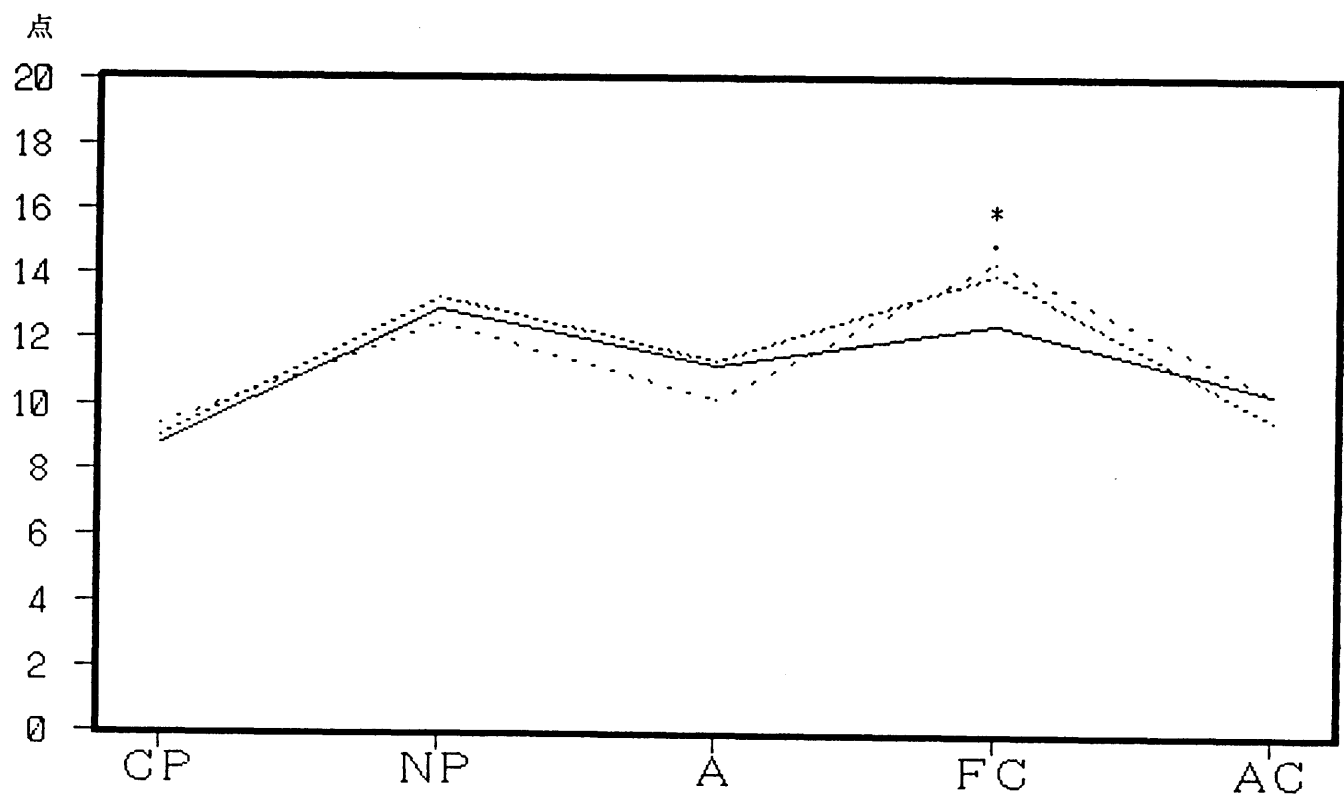
— 主体的分煙群    ---- 時々群    ... 非主体群

\*\*  $P < 0.01$  : 主体的分煙群と非主体群との間において

+++  $P < 0.001$     ++  $P < 0.01$  : 時々群と非主体群との間において

・  $P < 0.05$  : 主体的分煙群と時々群との間において

図3 駅主体的分煙状況別エゴグラム



— 主体的分煙群    ---- 時々群    ... 非主体群

\*  $P < 0.05$  : 主体的分煙群と非主体群との間において

・  $P < 0.05$  : 主体的分煙群と時々群との間において

図4 大学主体的分煙状況別エゴグラム

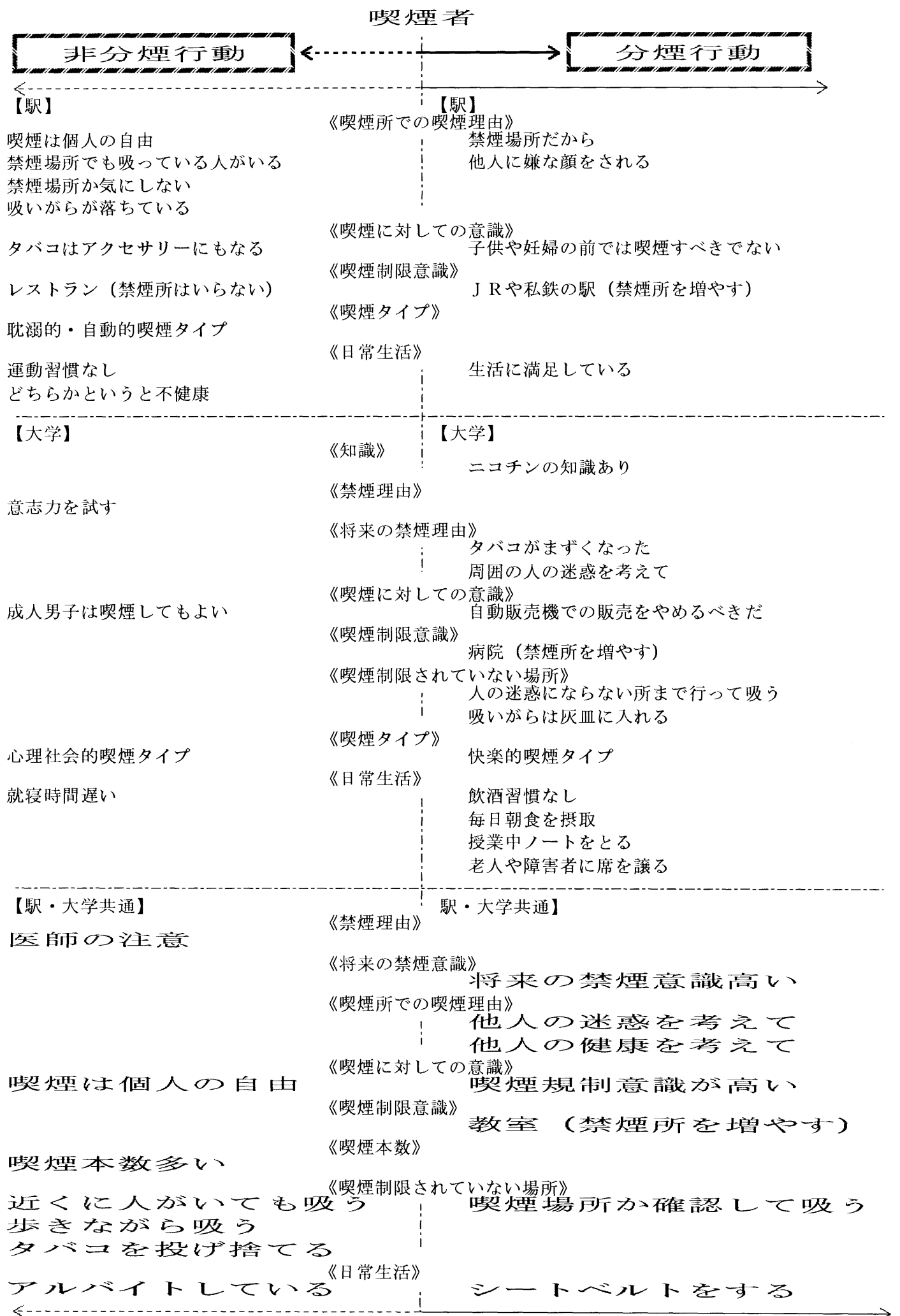
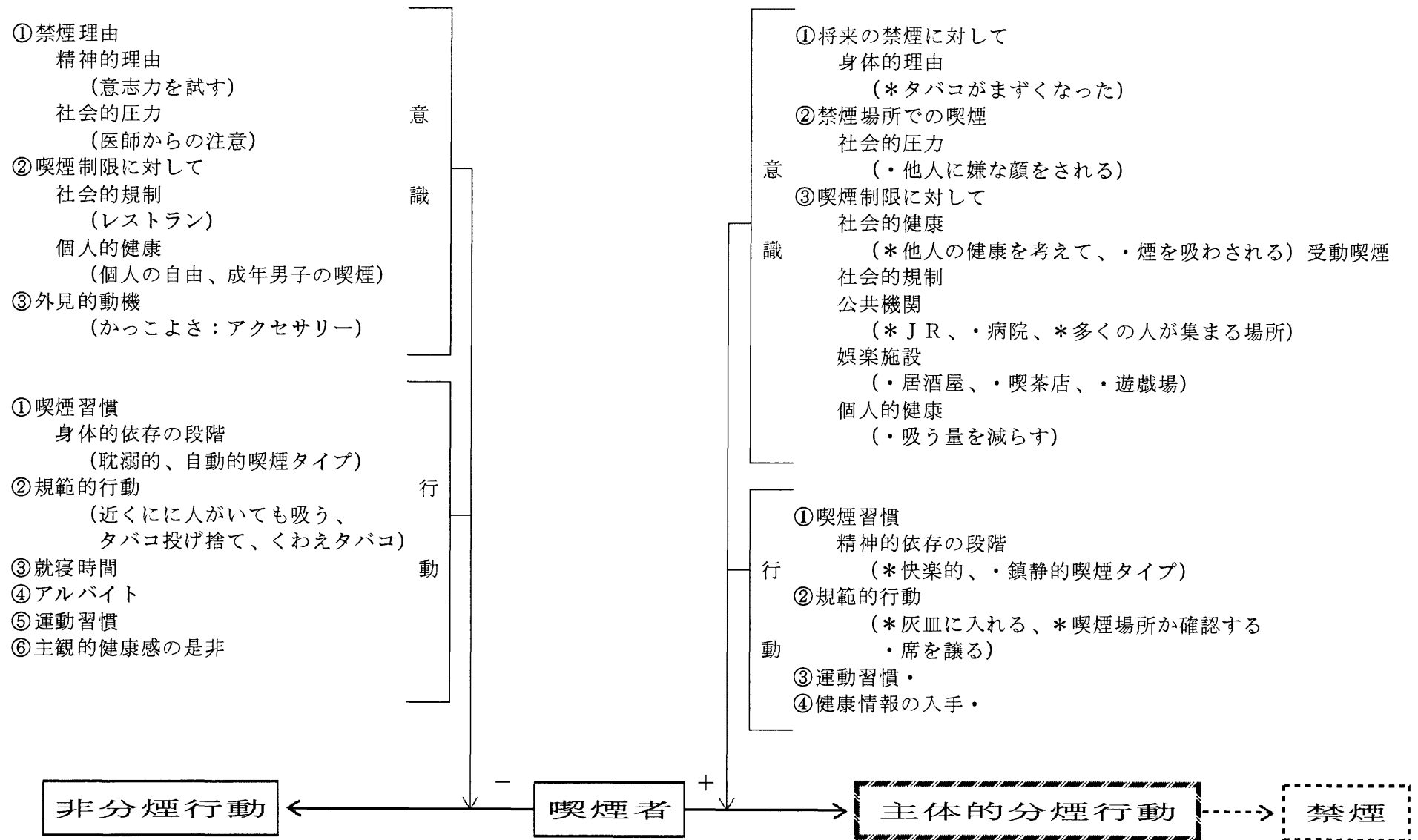


図5 分煙行動と知識・意識・行動との関連

※太字：駅・大学共通にみられたもの



\* 分煙・主体的分煙共通にみられたもの  
・ 主体的分煙にみられたもの

図6 非分煙行動，主体的分煙行動との関連の深い要因



Q18. 喫煙制限されていない所ではあなたは次の喫煙行動をどの程度していますか。

|                         | よくある | 時々ある | ない |
|-------------------------|------|------|----|
|                         | 1    | 2    | 3  |
| 1. 近くに人がいても吸う           |      |      |    |
| 2. 歩きながら吸う              |      |      |    |
| 3. タバコの吸いがらを投げ捨てる       |      |      |    |
| 4. タバコの灰や吸いがらは灰皿に入れる    |      |      |    |
| 5. 人の迷惑にならない所まで行って吸う    |      |      |    |
| 6. 灰皿を持ち歩いて吸う           |      |      |    |
| 7. 喫煙してよい場所かどうか確認してから吸う |      |      |    |

Q19. 以下の質問で正しいものに○, 誤っているものに×, わからない場合△を記入して下さい。

|                                                                   |  |
|-------------------------------------------------------------------|--|
| 1. タバコを吸うと血圧や皮膚温が下がる                                              |  |
| 2. タバコを吸うと胃潰瘍になりやすくなる                                             |  |
| 3. タバコを吸うと心筋梗塞になりやすい                                              |  |
| 4. タバコの煙を本人の意志に反して、やむを得なく吸わされることを受動喫煙という                          |  |
| 5. 本人が吸い込む煙よりタバコから出る煙の方が多くの発ガン性物質が含まれている                          |  |
| 6. 鉄道や地下鉄の禁煙車で車掌の制止を聞かずに喫煙した者は法律により罰せられる                          |  |
| 7. 労働安全基準法でタバコに不快を感じている労働者がいる場合、その事業所は喫煙場所の指定等の適切な喫煙対策をとらなければいけない |  |
| 8. タバコを吸うと知的作業能率が向上する                                             |  |
| 9. タバコの成分であるタールは発癌物質である                                           |  |
| 10. タバコの成分であるニコチンは発癌物質である                                         |  |

Q20. 次の喫煙の意見に対してどのように思いますか  
各項目ごとにあてはまる番号を記入して下さい。

|                                | とても<br>思う | やや<br>思う | まあ<br>なり<br>い | 思わ<br>ない |
|--------------------------------|-----------|----------|---------------|----------|
|                                | 1         | 2        | 3             | 4        |
| 1. 他人に迷惑をかけなければ吸ってもよい          |           |          |               |          |
| 2. 喫煙は個人の自由なのでとやかく他人に言われることはない |           |          |               |          |
| 3. 多くの人が集まる場所での喫煙をもっと規制すべきだ    |           |          |               |          |
| 4. 子供や妊婦の前では吸ってはいけない           |           |          |               |          |
| 5. 未成年者は喫煙すべきではない              |           |          |               |          |
| 6. 成人男子は喫煙してもよい                |           |          |               |          |
| 7. 成人女子は喫煙してもよい                |           |          |               |          |
| 8. タバコは寿命を縮める                  |           |          |               |          |
| 9. タバコはストレス解消などになる             |           |          |               |          |
| 10. タバコを吸うとやせられる               |           |          |               |          |
| 11. タバコはファッションやアクセサリにもなる       |           |          |               |          |
| 12. 喫煙を嫌う権利があればタバコを吸う権利もある     |           |          |               |          |
| 13. タバコのCMなどをもっと減らすべきだ         |           |          |               |          |
| 14. タバコ自動販売機での販売をやめるべきだ        |           |          |               |          |

Q21. 次の場所での喫煙制限をどう思いますか  
各項目ごとにあてはまる番号を記入して下さい。

|                   | 全部禁煙<br>にすべき | 禁煙所を<br>増やす<br>べきだ | 禁煙所を<br>減らす<br>べきだ | 禁煙所は<br>いらない |
|-------------------|--------------|--------------------|--------------------|--------------|
|                   | 1            | 2                  | 3                  | 4            |
| 1. 病院             |              |                    |                    |              |
| 2. JRや私鉄の駅        |              |                    |                    |              |
| 3. あなたの通っている学校の教室 |              |                    |                    |              |
| 4. 食堂、レストラン       |              |                    |                    |              |
| 5. 居酒屋、ディスコ       |              |                    |                    |              |
| 6. 喫茶店            |              |                    |                    |              |
| 7. パチンコ屋などの遊技場    |              |                    |                    |              |

Q22. 就寝時間は何時ぐらいですか。

1. 1時以前 2. 1時～12時 3. 12～1時 4. 1時以降

☐

Q23. 運動は週にどのくらいしますか。

1. ほぼ毎日 2. 週3回位 3. 週1～2回位 4. ほとんどしない

☐

Q24. お酒を週にどのくらい飲みますか。

1. ほぼ毎日 2. 週3回位 3. 週1～2回位 4. ほとんど飲まない

☐

Q25. 朝食は週にどのくらい食べますか。

1. ほぼ毎日 2. 週3回位 3. 週1～2回位 4. ほとんど食べない

☐

Q26. あなたは自動車に乗る時シートベルトをしますか。

1. 必ずする 2. 時々する 3. あまりしない 4. しない 5. 乗らない

☐

Q27. 新聞・テレビ・雑誌などで健康の情報・知識を得ている方ですか。

1. よく得ている 2. 少し得ている 3. あまり得ていない 4. 全く得ていない

☐

Q28. あなたは毎日の生活に満足していますか。

1. 満足 2. 少し満足 3. あまり満足していない 4. 満足していない

☐

Q29. 授業中にノートをとっていますか。

1. だいたいの授業はとっている 2. およそ半数の授業はとっている  
3. あまりとっていない 4. 全くとっていない

☐

Q30. あなたは精神的なストレスがありますか。

1. かなりある 2. ある 3. あまりない 4. ない  
それはどのようなことですか ( )

☐

Q31. あなたは乗り物の中で老人や障害者に席を譲りますか。

1. 必ず譲る 2. 時々譲る 3. ほとんど譲らない 4. 全く譲らない

☐

Q32. あなたは献血をしますか。

1. よくする 2. たまにする 3. ほとんどしない 4. しない

☐

Q33. あなたは現在、生きがいを感じていますか。

1. かなりある 2. ある 3. あまりない 4. ない 5. わからない

☐

Q34. あなたは何歳ぐらいまで生きたいですか。→ ( ) 歳

(\*わが国の平均寿命は、男子76歳、女子82歳)

☐

Q35. あなたは悩みを話せる友人がいますか。→ 1. はい 2. いいえ

☐

Q36. あなたは恋人がいますか、又その人はタバコを吸いますか。

1. いる (a. 吸う b. 吸わない) 2. いない

☐

Q37. あなたは親しい友人がいますか、又その人はタバコを吸いますか。

1. いる (a. 吸う b. 吸わない) 2. いない

☐

ご協力頂きまして有り難うございました

●  
東大式エゴグラム



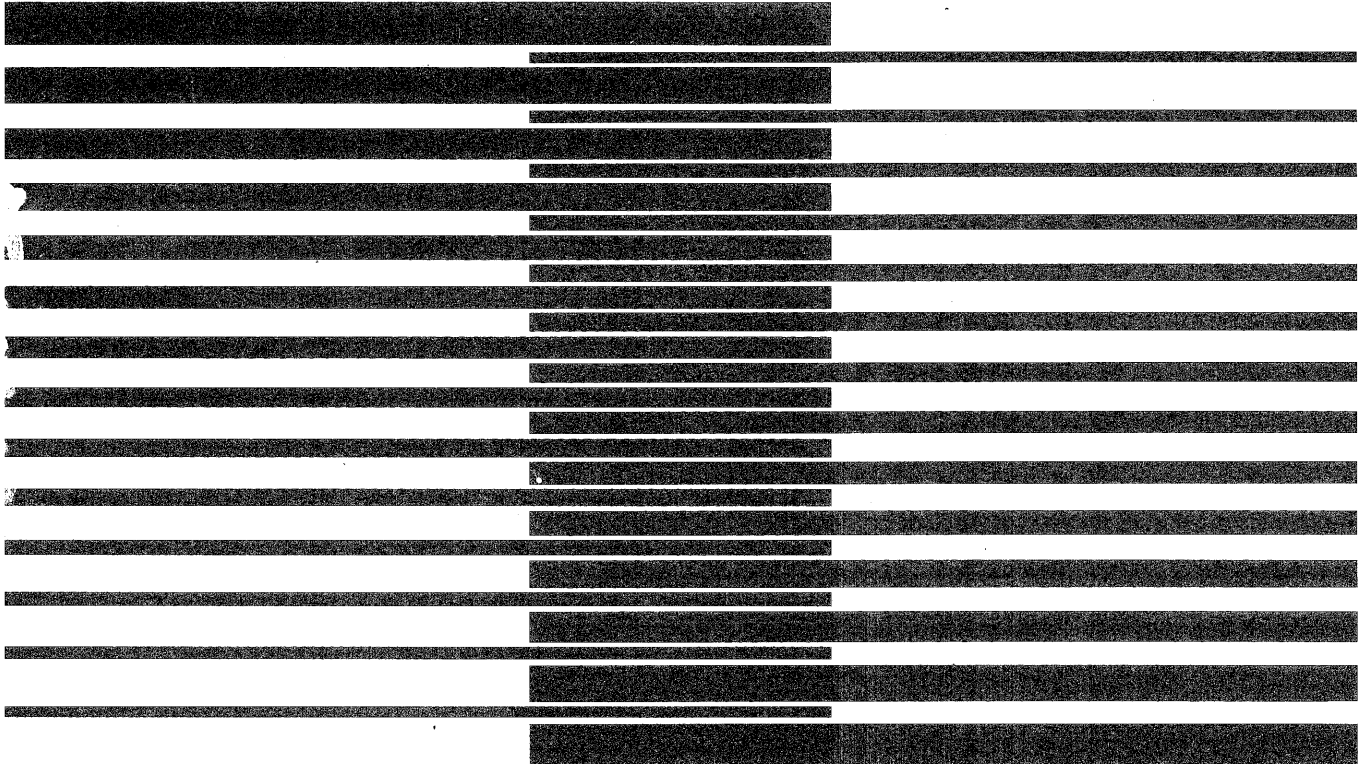
# TEG

第2版

EGOGRAM

NO.813

●  
東京大学医学部心療内科・編  
●



発行／金子書房



## ● TEGを受けられる方へ ●

東京大学心療内科が開発したこのエゴグラムは、自分の性格や行動パターンを正しくつかんで、自分の生き方を豊かにしていこうというものです。

それぞれの質問についてあまり深く考えないで、第一印象を大切にしてください。

それでは、この頁を開き **記入のしかた** を読んでから始めてください。

## 記入のしかた



右の1～60の各項目について  
自分にあてはまるものを

はい＝○

どちらでもない＝△

いいえ＝×

の中から1つだけ選んでください。

記入例

[ はい    どちらでも    いいえ  
          ない ]

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 1 |  |  |  |
| 2 |  |  |  |
| 3 |  |  |  |

まちがえたときは、  
二本線で訂正してください。

訂正例

[ はい    どちらでも    いいえ  
          ない ]

|    |  |  |  |
|----|--|--|--|
| 31 |  |  |  |
| 32 |  |  |  |

60項目すべてに答えてください。

|                                                                                     | はい   | どちらでもない | いいえ |
|-------------------------------------------------------------------------------------|------|---------|-----|
| 1 言いたいことを言えない。                                                                      | 1 ○  | △       | ×   |
| 2 誰 <sup>だれ</sup> とでも騒 <sup>さわ</sup> いだりはしゃいだりする。                                   | 2 ○  | △       | ×   |
| 3 生まれつきの悪人 <sup>あくにん</sup> はいないと思う。                                                 | 3 ○  | △       | ×   |
| 4 陽気 <sup>ようき</sup> に振 <sup>ふ</sup> る舞 <sup>ま</sup> う。                              | 4 ○  | △       | ×   |
| 5 上手 <sup>じょうず</sup> にうそがつける。                                                       | 5 ○  | △       | ×   |
| 6 将来 <sup>しょうらい</sup> の見通しを立てる。                                                     | 6 ○  | △       | ×   |
| 7 人の行動 <sup>きやうかんてき</sup> を客観 <sup>かんかん</sup> 的に観 <sup>かん</sup> 察 <sup>さつ</sup> する。 | 7 ○  | △       | ×   |
| 8 物事 <sup>ものごと</sup> に批判 <sup>ひはん</sup> 的 <sup>てき</sup> である。                        | 8 ○  | △       | ×   |
| 9 しつけはたいせつである。                                                                      | 9 ○  | △       | ×   |
| 10 思いやりの気持ちが強い。                                                                     | 10 ○ | △       | ×   |
| 11 何かするときなかなかふんざりがつかない。                                                             | 11 ○ | △       | ×   |
| 12 他人 <sup>たにん</sup> の反対 <sup>はんたい</sup> にあうと自分の考え <sup>か</sup> を変えてしまう。            | 12 ○ | △       | ×   |
| 13 他人 <sup>しり</sup> の尻 <sup>しり</sup> をたたく。                                          | 13 ○ | △       | ×   |
| 14 計画を立ててから実行 <sup>じっこう</sup> する。                                                   | 14 ○ | △       | ×   |
| 15 悲 <sup>かな</sup> しんでいる人を見たらなぐさめる。                                                 | 15 ○ | △       | ×   |
| 16 活発 <sup>かつぱつ</sup> である。                                                          | 16 ○ | △       | ×   |
| 17 物事を早くこなすことが得意 <sup>とくい</sup> である。                                                | 17 ○ | △       | ×   |
| 18 不快 <sup>ふかい</sup> なことでも無理 <sup>むり</sup> にがまんしてしまう。                               | 18 ○ | △       | ×   |
| 19 成功 <sup>せいこう</sup> は努力 <sup>めんどう</sup> のたまものである。                                 | 19 ○ | △       | ×   |
| 20 他人 <sup>めんどう</sup> の面倒 <sup>めんどう</sup> をよくみる。                                    | 20 ○ | △       | ×   |
| 21 他人 <sup>かおいろ</sup> の顔色 <sup>かおいろ</sup> をうかがってしまう。                                | 21 ○ | △       | ×   |
| 22 がんこで融通 <sup>ゆうずう</sup> がきかない。                                                    | 22 ○ | △       | ×   |
| 23 他人 <sup>ちやうしよ</sup> の長所 <sup>ちやうしよ</sup> よりも欠点 <sup>けってん</sup> が目につく。            | 23 ○ | △       | ×   |
| 24 人に対して温和 <sup>おんわ</sup> で寛大 <sup>かんだい</sup> である。                                  | 24 ○ | △       | ×   |
| 25 子どもの世話をよくする。                                                                     | 25 ○ | △       | ×   |
| 26 何事 <sup>なにごと</sup> も事実 <sup>じじつ</sup> にもとづいて判断 <sup>はんだん</sup> する。               | 26 ○ | △       | ×   |
| 27 気が短くて怒りっぽい。                                                                      | 27 ○ | △       | ×   |
| 28 スポーツや歌を楽しむことができる。                                                                | 28 ○ | △       | ×   |
| 29 相手の話に耳 <sup>かみじ</sup> を傾ける。                                                      | 29 ○ | △       | ×   |
| 30 人生は苦 <sup>く</sup> もあり楽 <sup>らく</sup> もあると思う。                                     | 30 ○ | △       | ×   |

| はい   | どちらでもない | いいえ |
|------|---------|-----|
| 31 ○ | △       | ×   |
| 32 ○ | △       | ×   |
| 33 ○ | △       | ×   |
| 34 ○ | △       | ×   |
| 35 ○ | △       | ×   |
| 36 ○ | △       | ×   |
| 37 ○ | △       | ×   |
| 38 ○ | △       | ×   |
| 39 ○ | △       | ×   |
| 40 ○ | △       | ×   |
| 41 ○ | △       | ×   |
| 42 ○ | △       | ×   |
| 43 ○ | △       | ×   |
| 44 ○ | △       | ×   |
| 45 ○ | △       | ×   |
| 46 ○ | △       | ×   |
| 47 ○ | △       | ×   |
| 48 ○ | △       | ×   |
| 49 ○ | △       | ×   |
| 50 ○ | △       | ×   |
| 51 ○ | △       | ×   |
| 52 ○ | △       | ×   |
| 53 ○ | △       | ×   |
| 54 ○ | △       | ×   |
| 55 ○ | △       | ×   |
| 56 ○ | △       | ×   |
| 57 ○ | △       | ×   |
| 58 ○ | △       | ×   |
| 59 ○ | △       | ×   |
| 60 ○ | △       | ×   |

|                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------|
| 31 要領 <sup>ようりやう</sup> がわるく、おどおどしている。                                            |
| 32 あけっぴろげで自由 <sup>じゆう</sup> である。                                                 |
| 33 人の幸福 <sup>こうふく</sup> を素直 <sup>すなお</sup> に喜 <sup>よろこ</sup> ぶ。                  |
| 34 遊びの雰 <sup>ふん</sup> 囲 <sup>い</sup> 気 <sup>き</sup> に抵抗 <sup>ていこう</sup> なくとけこめる。 |
| 35 じょうだんを言ったり軽口 <sup>かるくち</sup> をたたくのがうまい。                                       |
| 36 疑問 <sup>ぎもん</sup> の点を明らかにする。                                                  |
| 37 わかりやすく物事 <sup>ひやうげん</sup> を表現 <sup>ひやうげん</sup> する。                            |
| 38 わがままである。                                                                      |
| 39 自分のしたことに責任 <sup>せきにん</sup> をもつ。                                               |
| 40 奉仕 <sup>ほうし</sup> 活動 <sup>かつどう</sup> によろこんで参加 <sup>さんか</sup> する。              |
| 41 挫折 <sup>さつせつ</sup> 感 <sup>かん</sup> を味わうことが多い。                                 |
| 42 依存 <sup>いぞん</sup> 心 <sup>しん</sup> が強い。                                        |
| 43 子どもや部下 <sup>ぶか</sup> にきびしい。                                                   |
| 44 仕事を能率 <sup>のうりつてき</sup> 的 <sup>てき</sup> におこなう。                                |
| 45 涙もろい。                                                                         |
| 46 好奇 <sup>こうき</sup> 心 <sup>しん</sup> が強い。                                        |
| 47 物事をうまくまとめる。                                                                   |
| 48 後悔 <sup>こうかい</sup> の念 <sup>ねん</sup> にとらわれる。                                   |
| 49 他人をうらやましいと思ったことがある。                                                           |
| 50 困 <sup>こま</sup> まっている人を見ると、つい手助 <sup>てだす</sup> けしたくなる。                        |
| 51 遠慮 <sup>えんりよ</sup> がちで消極 <sup>しょうきよくてき</sup> 的 <sup>てき</sup> である。             |
| 52 相手の不正 <sup>ふせい</sup> や失敗 <sup>しっぱい</sup> にきびしい。                               |
| 53 物事 <sup>しろくろ</sup> の白黒 <sup>しろくろ</sup> をはっきりさせないと気がすまない。                      |
| 54 人情 <sup>にんじやう</sup> を重んじる。                                                    |
| 55 人の長所に気づきほめる。                                                                  |
| 56 数字やデータを使って話をする。                                                               |
| 57 周囲 <sup>しゅうい</sup> の人に緊張 <sup>きんちやうかん</sup> 感 <sup>かん</sup> を与える。             |
| 58 創造 <sup>そうぞうりよく</sup> 力 <sup>りよく</sup> に富 <sup>と</sup> んでいる。                  |
| 59 人間関係をたいせつにする。                                                                 |
| 60 人の意見を参考にする。                                                                   |

60項目の記入が終わったらこのページを開き(採点のしかた)にしたがって採点してください。

|                                                                          | はい | どちらでもない | いいえ |   |
|--------------------------------------------------------------------------|----|---------|-----|---|
| 1 言いたいことを言えない。                                                           | 1  | ○       | △   | × |
| 2 誰 <sup>だれ</sup> とでも騒 <sup>さわ</sup> いだりはしゃいだりする。                        | 2  | ○       | △   | × |
| 3 生まれつきの悪人 <sup>あくにん</sup> はいないと思う。                                      | 3  | ○       | △   | × |
| 4 陽気 <sup>ようき</sup> に振 <sup>ふ</sup> る舞 <sup>ま</sup> う。                   | 4  | ○       | △   | × |
| 5 上手 <sup>じょうず</sup> にうそがつける。                                            | 5  | ○       | △   | × |
| 6 将来 <sup>しょうらい</sup> の見通しを立てる。                                          | 6  | ○       | △   | × |
| 7 人の行動 <sup>きやうかんてき</sup> を客観 <sup>かんさつ</sup> 的に観察する。                    | 7  | ○       | △   | × |
| 8 物事 <sup>ものごと</sup> に批判 <sup>ひはんてき</sup> 的である。                          | 8  | ○       | △   | × |
| 9 しつけはたいせつである。                                                           | 9  | ○       | △   | × |
| 10 思いやりの気持ちが強い。                                                          | 10 | ○       | △   | × |
| 11 何かするときなかなかふんざりがつかない。                                                  | 11 | ○       | △   | × |
| 12 他人 <sup>たにん</sup> の反対 <sup>はんたい</sup> にあうと自分の考えを変えてしまう。               | 12 | ○       | △   | × |
| 13 他人 <sup>しり</sup> の尻 <sup>しり</sup> をたたく。                               | 13 | ○       | △   | × |
| 14 計画を立ててから実行 <sup>じっこう</sup> する。                                        | 14 | ○       | △   | × |
| 15 悲 <sup>かな</sup> しんでいる人を見たらなぐさめる。                                      | 15 | ○       | △   | × |
| 16 活発 <sup>かつぱつ</sup> である。                                               | 16 | ○       | △   | × |
| 17 物事を早くこなすことが得意 <sup>とくい</sup> である。                                     | 17 | ○       | △   | × |
| 18 不快 <sup>ふかい</sup> なことでも無理 <sup>むり</sup> にがまんしてしまう。                    | 18 | ○       | △   | × |
| 19 成功 <sup>せいこう</sup> は努力 <sup>めんどう</sup> のたまものである。                      | 19 | ○       | △   | × |
| 20 他人 <sup>めんどう</sup> の面倒 <sup>めんどう</sup> をよくみる。                         | 20 | ○       | △   | × |
| 21 他人 <sup>かおいろ</sup> の顔色 <sup>かおいろ</sup> をうかがってしまう。                     | 21 | ○       | △   | × |
| 22 がんこで融通 <sup>ゆうずう</sup> がきかない。                                         | 22 | ○       | △   | × |
| 23 他人 <sup>ちやうしよ</sup> の長所 <sup>ちやうしよ</sup> よりも欠点 <sup>けってん</sup> が目につく。 | 23 | ○       | △   | × |
| 24 人に対して温和 <sup>おんわ</sup> で寛大 <sup>かんだい</sup> である。                       | 24 | ○       | △   | × |
| 25 子どもの世話をよくする。                                                          | 25 | ○       | △   | × |
| 26 何事 <sup>なにごと</sup> も事実 <sup>じじつ</sup> にもとづいて判断 <sup>はんだん</sup> する。    | 26 | ○       | △   | × |
| 27 気が短くて怒りっぽい。                                                           | 27 | ○       | △   | × |
| 28 スポーツや歌を楽しむことができる。                                                     | 28 | ○       | △   | × |
| 29 相手の話に耳 <sup>かたみ</sup> を傾 <sup>かたむ</sup> ける。                           | 29 | ○       | △   | × |
| 30 人生は苦 <sup>く</sup> もあり楽 <sup>らく</sup> もあると思う。                          | 30 | ○       | △   | × |

|    | はい | どちらでもない | いいえ | I | II | III | IV | V | VI |
|----|----|---------|-----|---|----|-----|----|---|----|
| 31 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 32 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 33 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 34 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 35 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 36 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 37 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 38 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 39 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 40 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 41 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 42 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 43 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 44 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 45 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 46 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 47 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 48 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 49 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 50 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 51 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 52 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 53 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 54 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 55 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 56 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 57 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 58 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 59 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |
| 60 | ○  | △       | ×   |   |    |     |    |   |    |

|    |                           |    |     |    |   |    |
|----|---------------------------|----|-----|----|---|----|
| 得点 |                           |    |     |    |   |    |
| 項目 | I                         | II | III | IV | V | VI |
| Q  | 60問のうち、どちらでもない(△)と答えた数の合計 |    |     |    |   |    |

**採点のしかた**

●横方向に——  
○=2点、△=1点、×=0点 として  
左右両項目の合計を、矢印に沿って□に記入  
します。

例)  

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | △ | × |
| 2 | ○ | △ | × |

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 31 | ○ | △ | × |
| 32 | ○ | △ | × |

→ 3  
→ 2

ただし、同じ項目に2カ所以上記入してある  
場合は0点です。

例)  

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
| 20 | ○ | △ | × |
| 50 | ○ | △ | × |

→ 1

●縦方向に——  
I～VIごとに、□の数を縦に加算して  
1番下の得点欄に記入します。

●△=どちらでもない の合計数をQ欄に記  
入します。

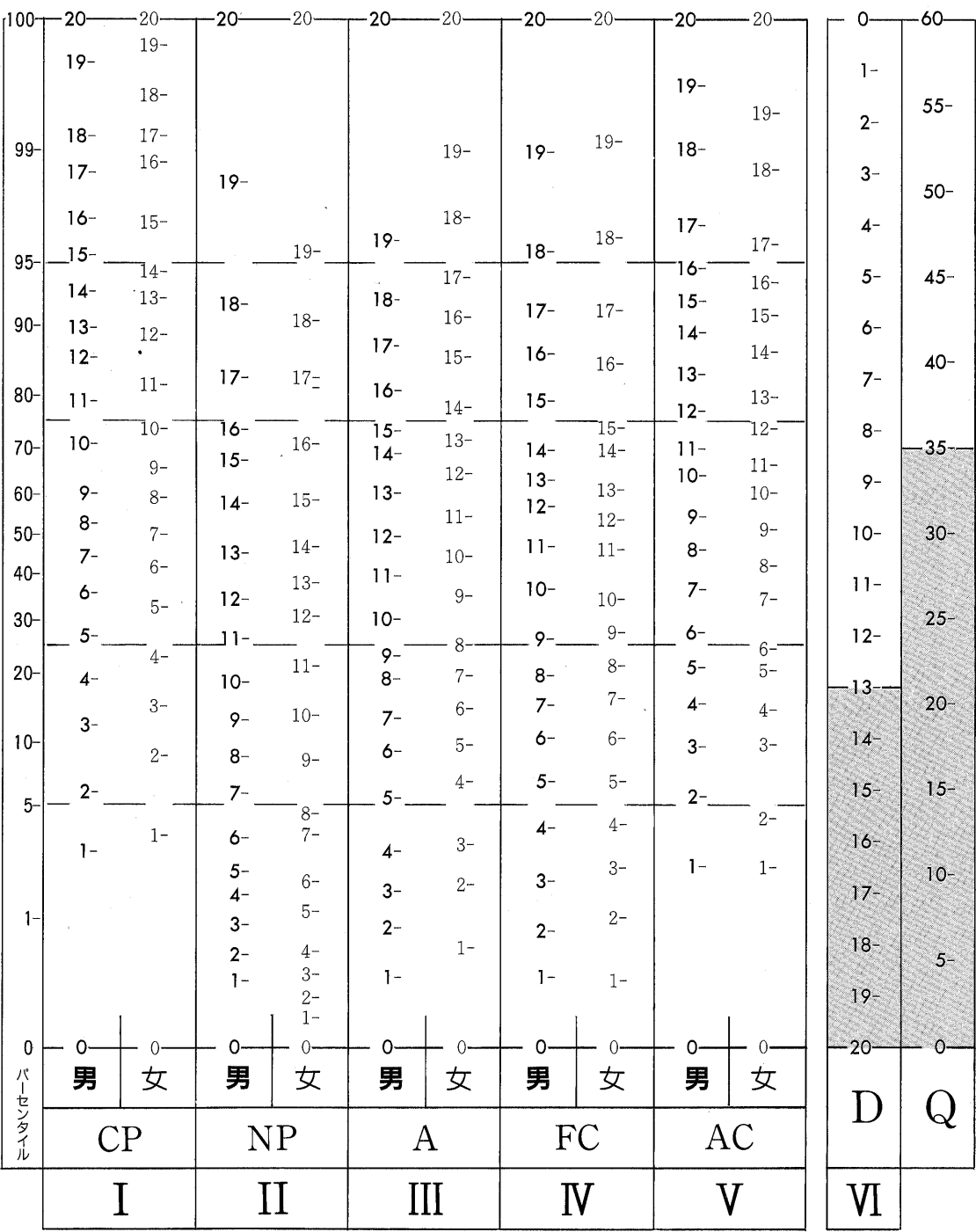
**プロフィールの描き方**

●まず、検査日・氏名・生年月日など、必要  
事項を記入してください。

●I～VI、Qの各得点を、  
右頁の図に示されているスケールの同数字の  
位置に○印してください。(I～Vは男・女  
別のスケールになっています)

●この、I～V の○印を結んで描かれた折れ  
線がTEGエゴグラム曲線です。

TEGエゴグラム・プロフィール



備考 (パターン)

---

本用紙を無断で複製・複写し使用すると法律により処罰されます

---

編 者 東京大学医学部心療内科

発行所 株式会社 金子書房

〒112 東京都文京区大塚3-3-7 ☎03(3941)0111/FAX03(3941)0163